令和 6 年度　専修大学　資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教　職　課　程
司　書　課　程
司書教諭課程
学校司書課程
学 芸 員 課 程

Devoted to the Development of Socio-Intelligence
SENSHU UNIVERSITY

Vol.27

専修大学21世紀ビジョン
「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）
専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

2020年9月16日、創立140周年

専修大学は、米国から帰国した４人の若者により、1880年（明治13年）に創立されました。日本で初めて、日本語で経済学と法律学を共に学べる高等教育機関「専修学校」の誕生でした。

以来、本学は創立者たちの建学時の精神を脈々と継承し、わが国の高等専門教育の確固たる歴史を築いてきました。

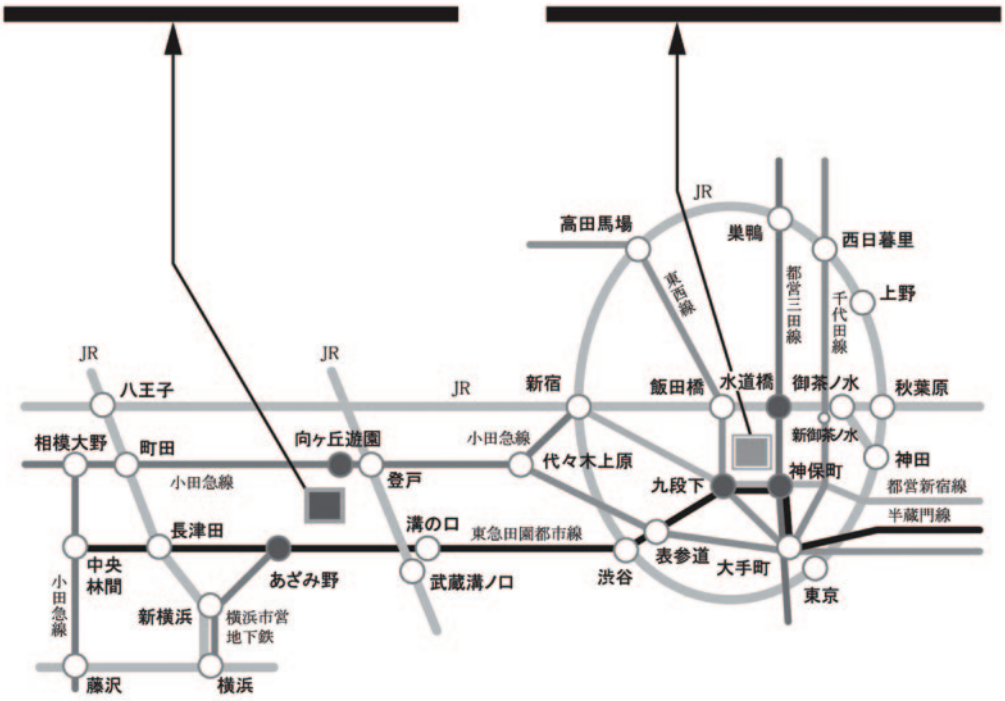
2020年に専修大学創立140周年を迎えた今、めざすは21世紀ビジョンとして掲げる「社会知性の開発」です。18歳人口が減少し、グローバル化やAIの台頭など社会構造が変化するなか、よりしなやかで力強い、社会で活躍できる多様な人材を輩出するため、さまざまな取組みを進めています。

生田キャンパス

●小田急線
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
●東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス（学生専用）約20分

神田キャンパス

●JR水道橋駅西口より徒歩7分
●地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
●地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



「未知との遭遇」を楽しむ

教職課程協議会委員長　法学部　教授　森田　司郎

近年では、教師不足や休職者の増加など、教職に関する暗い話題で溢れている。2024年度に実施された教員採用試験では、国内の多くの自治体において受験倍率が低下し続けている。こうした状況を改善するために、「教師の確保のための環境整備」として、部活動の地域展開、教師の増員、給与増額やDXによる校務効率化が国を挙げて進められようとしている。さらに、数年後の学習指導要領改訂の際には、現在かなりのボリュームとなっている学習内容を精選したり、現場裁量を拡大して授業時間をより柔軟に設定できるようにする等、教師が働きやすい環境を実現する様々な方策が検討されている。これらの対策が効果をもたらすかどうかは時を待つしかない。しかしここ数年間、教職の実態やそのあり方がかつてないほど社会の関心を集めている様相を見ると、教育は我々の社会基盤を形成する重要な分野であることを改めて実感する。とりわけ教職の魅力を高めたり、すでにある魅力を若い世代に発信していくことは、質の高い教育を次世代に残すために、学校教育に関わる全ての者に求められている。

大学の教職課程に関わる者として、ここで私は教職に関するポジティブな話をしてみたいと思う。とはいえ、スペースに限りもあるため、私自身が日頃の授業を通して感じている「教育の面白さ」について伝えたい。これによって、教育の面白さを見つけ、教職に魅力を感じてくれる方が少しでも増えてくれれば幸いである。

授業の中で、私が最も教育の面白さを感じるのは、私が想像もつかないような学生の意見やアイディアに触れることができる瞬間である。以下に、私がその発想力を羨ましいと思い、「一本取られた！」と唸った例を２つ挙げたい。どれも実際の学生によるものである。

（1）学校用語のウラ定義

「教師＋する」【動詞】

自分で質問しておいて、相手の意見を最後まで聞かずにあらかじめ用意した自分の考えを押しつけること。または、相手に理由を聞いておいて、「言い訳するな！」と一括すること。

「学力」【名詞】

比較的短期間で身につけることができるが、すぐになくなるもの。試験内容によっていくらでも変わる不安定な値。そのほとんどが筆記試験によって測られるため、別名：“書”く力（がくりょく）とも呼ばれる。

これらは、子どもたちが学校世界をどう見ているのかを想像するために、自身の経験を振り返って学校用語のウラ定義を考えてもらう活動の中で学生が出してくれた例の一部である。どれもが、子どもの視点から学校教育の本質的な部分を言い当てている秀作である。私もこうした例にハッとさせられることも多く、学生の柔軟な発想力を羨ましく思う。

（2）ネットリテラシー（個人情報）について扱う授業プラン「SNS探偵ゲーム」

生徒が「SNS探偵」に扮して、授業者が作成した架空の人物Aさんの SNS投稿を追跡して、特定の日時にこの人物が「誰とどこで何をしていたのか」を突き止めるゲームを行う。様々に工夫して多くの生徒がミッションを達成できたところで授業者が問う。「あなた自身が、すでに次のAさんになっているかも知れません。それを防ぐために今できることは？」

これは、学生がグループで考案した授業プランの概要である。当事者意識をもってネットリテラシーの重要性について理解させる目的が見事に達成された授業であった。授業の構成力、無自覚なまま加害者や被害者になる可能性を実感させるための緻密な仕掛け、授業進行の巧みさ等のどれをとっても、私を含めた全ての参加者を感心させ唸らせるものだった。

ここで紹介した例は、私が授業を通して学生から教えてもらった面白い意見やアイディアのごく一部である。私は今日の授業でも、私の予想を軽々と超えるような斬新で面白いアイディアに出会えることを楽しみにしている。まさに、「未知との遭遇」である。そして、こうした出会いによって私自身の既成概念は打ち破られ、新しい見方や考え方を得ることができる。教育の面白さとは、こうした「未知との遭遇」によって、互いに教え合い育ち合うことができることなのではないかと思っている。

Passo a Passo

表題はイタリア語でパッソ・ア・パッソと読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目　次

授業の「説明」：カンナがけのススメ
　　文学部　教授　田邉　祐司 …… 8
居場所としての読書
　　文学部　准教授　鈴木　愛理 …… 10

教職課程

卒業生から …… 14
教員採用試験体験記 …… 18
教育実習を終えて …… 24
介護等の体験を終えて …… 31
教職公開講座に出席して …… 32
専修大学教育学会に出席して …… 33
教職総仕上げ「教職実践演習」 …… 34
教科研修生体験レポート …… 35
専修大学附属高等学校から
　　私立専修大学附属高等学校　教諭　平山　紀明 …… 36

司書・司書教諭・学校司書課程

現場経験を活かした「児童サービス論」授業の実践
　　経営学部　兼任講師　萬谷　ひとみ …… 38
図書館実習を終えて …… 40
卒業生から …… 41

学芸員課程

埋蔵文化財センターの仕事
　　（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター　中嶋　友 …… 44
博物館実習を終えて …… 46
第３回学芸員課程セミナーに参加して「学芸員像への認識と最適なキャリアを考えるには」 …… 48

データ編（令和６年度）

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数 …… 50
教育職員免許状取得件数 …… 52
司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数 …… 52
教育実習先一覧 …… 53
図書館実習先一覧 …… 55
博物館実習先一覧 …… 55
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭・学校司書、学芸員） …… 56
資格課程年間行事表 …… 61
教職相談実施結果 …… 62
教員採用試験対策特別講義実施結果 …… 63
教員採用候補者選考試験（教員採用試験）説明会開催結果 …… 64
教職公開講座開催結果 …… 65
司書課程図書館実習報告会・司書課程就職（進路）懇談会・
　学校司書課程講演会・受講説明会開催結果 …… 66
学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告 …… 67
資格課程活動報告 …… 68
資格課程教員紹介 …… 69
編集後記

■5つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得（取得見込）した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>（令和6年度入学者）

学　部	学　科	種　類　・　教　科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	公民
	生活環境経済学科	社会	公民
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民
国際コミュニケーション学部	日本語学科	国語	国語

司書課程 … 「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障がいのある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

司書教諭課程 … 「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

学校司書課程 … 「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小・中・高等学校等において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、キャンパスで楽しく身につくなんて！！

教員を目指すあなたへ

教職課程

図書館で働きたいなら

司書・司書教諭・学校司書課程

博物館・美術館で働きたいなら

学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイダンス

教職課程	司書・司書教諭・学校司書課程		学芸員課程
1～4年次 教職課程履修登録 4月上旬	1～4年次 司書課程 学校司書課程 履修登録 4月上旬	1～4年次 司書教諭課程 履修登録 4月上旬	1～4年次 学芸員課程 履修登録 4月上旬
3・4年次 介護等の体験 （中学校教諭免許状取得希望者） 5月下旬～3月上旬			
4年次 教育実習 5月～11月	3・4年次 図書館実習 （希望者） 8月～11月		3・4年次 博物館実習 （館務実習） 7月～9月
卒業時（事前に申請した者） 教員免許状の交付 3月	卒業時（希望者） 司書資格取得証明書・学校司書課程修了証明書の申請および交付	卒業後（事前に申請した者） 学校図書館司書教諭講習修了証書の交付	卒業後（希望者） 学芸員資格取得証明書の申請および交付

司書・司書教諭・学校司書課程サポート

司書課程就職（進路）懇談会　12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、図書館関連の就職や大学院進学について懇談をしています。

学芸員課程サポート

学芸員課程セミナーを開催

令和6年12月に第3回学芸員課程セミナー「博物館、学芸員の様々なカタチ」を開催しました。

教職課程サポート

教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育課程の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加しなければなりません。

※経営学部ビジネスデザイン学科、商学部会計学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科はこのプログラムの対象外です。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

教職公開講座　10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に 1 度、10 月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修は、原則として半期または通年の、特定の曜日に行われます。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めるとしてもどのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では本気で教員をめざす者を対象に、教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生及び卒業生です。授業期間中は土曜日に実施しています。受験指導専門学校と提携していますが、経済的に大きな負担とならない受講料の設定となっています。1 年間を通じて計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

教員を目指す

国公立・私立学校の教員になるためには教育職員免許状が必要です。

教　員　教員に求められる総合力を養う教職課程

国公立・私立学校を問わず、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園の教諭及び養護・栄養教諭になるには、各校種・教科ごとの教育職員免許状が必要です（小学校の場合、全科又は専科）。免許状は、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の教科及び教職に関する科目の単位を修得し、申請書類等の審査を受けて適格であると認められた者に授与権者（都道府県教育委員会）から授与されます。ただしその後、教員として採用されるには、以下のような流れがあります。

［公立学校の場合］　教員採用試験の出願から採用までの流れ

募集要項配布
（1月中旬～4月上旬）

募集要項によって初めてその年の試験科目や試験日程が発表されます。販売されていないので都道府県・政令指定都市の教育委員会に問い合わせて入手しなければなりません。

❯

受験願書受付
（2月中旬～5月上旬）

必要書類をすべて揃えて、教育委員会へ提出します。提出方法は郵送の場合もあれば、直接持参しなければならない場合もあります。近年では電子申請による方法も増えてきています。

❯

1 次試験
（5月中旬～7月中旬）

全国的に筆記試験を中心に行われます。ただし、都道府県・政令指定都市によって試験科目は異なります。近年では実施時期を前倒ししたり、一部の試験を３年次に受検できるところもあります。

❯

1 次試験合格発表
（6月上旬～8月上旬）

受験者宛に郵送にて結果が通知されます。開示請求により、総合成績のランクなど、通知より詳細な結果を知ることのできる都道府県・政令指定都市もあります。

❯

2 次試験
（6月下旬～8月中旬）

日程は都道府県・政令指定都市によって異なります。内容は人物評価に関する面接や模擬授業などが中心ですが、論作文試験、実技試験、場面指導、適性検査なども行われます。

❯

2 次試験合格発表
（8月上旬～10月下旬）

２次試験に合格すると、名簿登載が決まります。ほとんどの場合、合格発表は郵送です。ランク登載の場合はそのランクも表記されています。

❯

採用内定
（10月上旬～翌3月下旬）

合格してから教育委員会や学校長による面接などを経て、赴任校が決まります。実際に採用が確定するのは 10 月上旬から翌３月下旬にかけてです。

❯

教員として勤務
（4月1日～）

教員採用試験の内容

教員採用試験では、基本的に次の５つの試験があります。

【筆記試験】
教養試験及び各教科の専門試験が行われます。教養試験は、教職教養と一般教養からなり、ほとんどの都道府県・政令指定都市が両方の試験を課していますが、片方だけを課すところもあります。

【面接試験】
個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など様々な形態で行われます。最近は人物的要素を重視する傾向が高まり、選考結果に占める面接試験のウエイトが大きくなってきています。そのため、1次・2次を通して 2～３回面接を行う都道府県・政令指定都市も見られるようになり、特に模擬授業は多くの都道府県・政令指定都市が取り入れています。

【論作文試験】
教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人格や教師としての考え方・資質を問う試験として、面接試験と同じく重要視されています。

【実技試験】
小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・書道・音楽・家庭・保健体育・工業などで行われます。主に、その教科に関わる基本的な技術・技能を見る試験ですが、情報化の進展に伴い、全志願者にパソコンの操作を課す自治体が増えています。

【適性検査】
教員に要求される資質を客観的に調べるために実施されます。主に、内田クレペリン精神検査、Y-G 性格検査などが用いられます。

［ 採用試験後の流れ ］

公立学校の教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験（検査）」といい、教員として採用する候補として適した人材を選抜するものです。しかしながら、この教員採用試験に合格したからといって採用されるわけではありません。この点が民間企業と異なる点であり、この試験の大きな特色といえるでしょう。最終合格発表（２次試験合格発表）は都道府県・政令指定都市によっても異なりますが、概ね８月上旬～10 月下旬頃に行われます。しかしその頃はまだ、次年度の児童・生徒数や退職教員数などが確定していない場合が多く、地域や校種、教科ごとに必要な教員数が判明していない状態です。そのため、合格者数が実際に必要となる教員数を上回れば、合格しても採用されないという状態が生まれてきます。しかし仮に内定が出なくても、合格後１年以内に欠員が生じた場合は中途採用もあるほか、１年間採用されなかった場合でも次年度の１次試験が免除される都道府県・政令指定都市も見られます。

［ 私立学校の場合 ］　採用までの流れ

それぞれに独自の教育方針や校風がある私立学校では、選考方法や基準も各校により異なります。したがって、志望に当たっては各私立学校に対して、その年の募集計画などを各自で直接確認することになります。また、各都道府県に設置されている私学協会が私学教員適性検査を実施していたり、窓口となって募集している場合もあります。その他、大学の求人票やインターネットなどにより公募を行っているケースもあります。

司書・司書教諭・学校司書・学芸員を目指す

司　書

【図書館の実践的な知識が身につく司書課程】

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の調査部、資料室などで、資料（図書、雑誌、CD や DVD 等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。

資格を取得するには、大学・短大の司書課程を履修するか、司書講習を受講する方法があります。司書課程を開講している大学・短大は少なくありません。その多くは、私立の大学・短大で、通信制大学もあります。

司書課程・司書講習では、子どもの読書、資料の選び方や整理の仕方、情報検索、著作権、出版流通の仕組みなど、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

【就 職】

1．公共図書館

各自治体で実施される公務員採用試験を受験します。「司書職」として採用される場合と、「一般行政職」として採用された後に図書館に配属される場合があります。前者の場合には、採用時までに司書の資格を取得している必要があります。いずれの場合でも非常に高い競争率です。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2．国立国会図書館

国立国会図書館職員総合職試験又は一般職試験（大卒程度試験）を受験します。試験内容はともに大学卒業程度ですが、総合職のほうが難易度が高いです。１次試験は教養試験（多肢選択式）、２次試験は専門試験（記述式）・英語試験（記述式）・小論文試験（総合職のみ）・性格検査・個別面接、３次試験は集団討論（総合職のみ）・個別面接です。

3．国立大学法人等の図書館

地区ごと（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に実施される国立大学法人等職員採用試験を受験します。大学職員の「事務系（図書）」として働くことになります。試験内容は、１次試験が教養試験多肢選択式（大学卒業程度）、２次試験が専門試験および各大学での面接です。

4. 私立大学等の図書館

それぞれ独自の方法で採用しています。求人募集は、大学のホームページ等で行われています。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

司 書 教 諭

【学校図書館を活かす司書教諭課程】

「司書教諭」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。司書教諭は学校教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、直接児童・生徒たちに図書館や読書に関する指導や、教員に対して図書館や図書館資料を活用した授業展開ができるよう支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は、教育職員免許状を持つ者にのみ認められるので、教職課程と司書教諭課程のある大学で必要な科目の単位を修得し卒業すると「教育職員免許状」と「司書教諭」の資格が得られます。平成15年度から12学級以上の学校では必ず司書教諭を配置することになりました。有資格者へのニーズは高いです。

※経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では司書教諭の資格を取得することはできません。

【就 職】

公立学校の場合は、教員採用試験を受験しなければなりません。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用を実施しています。詳しくは P6 を参照してください。

学 校 司 書

【学校図書館を支える学校司書課程】

「学校司書」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。学校司書は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理などの「間接的支援」に関する職務、閲覧や貸出、レファレンスサービスなどの「直接的支援」に関する職務、授業の支援や情報活用能力の育成などの「教育指導への支援」に関する職務の３つの職務を担っています。

学校司書課程では、上記の３つの職務に必要な知識・技能を身につけるための諸科目を設けています。これらの科目の多くは、司書課程、司書教諭課程と乗り入れており、司書、司書教諭という関連する資格も取得しやすいように配慮しています。

学校司書の配置は努力義務ではあるものの、学校図書館の運営の改善と向上、児童生徒の学習活動や読書活動での活用への期待から、配置する学校は増加傾向にあります。こうした期待に応えられる人材が求められています。

【就 職】

公立学校の場合は、各自治体での採用試験を受験します。正規職員は、司書の採用試験の合格者が学校に配置される状況があります。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用しています。嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。求人募集は、ホームページ等で行われています。

学 芸 員

【博物館で専門職となる学芸員課程】

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第５条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門分野の知識を高めておくことも大切です。

【就 職】

1．公立博物館の場合

学芸員については定期的に採用試験があるわけではなく、採用は欠員の補充か、博物館の新設・拡充の際に行われます。その場合は教員や一般職員（公務員）として採用した人の中から、学芸員資格を持っている人を部署の配属・異動という形で学芸員に採用することがあります。また県立や大都市の博物館は、一般の採用試験（公務員採用試験）とは別に学芸員の採用試験を実施することが 多く、採用試験の実施はその自治体の広報紙やホームページで公開されます。

採用試験では一般教養のほかに、博物館学の知識と、募集する専門分野に関して広く深い知識や技能が問われます。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2．私立博物館の場合

それぞれ独自の方法で採用を実施しています。

授業の「説明」：カンナがけのススメ

文学部　教授　田邉　祐司

はじめに

このエッセイに着手したとたん、「採用試験合格！」の吉報が入ってきました。今は９月中旬ですが、「教員不足」対策の一環として結果発表が早められたことを実感します。いずれにせよ、合格者は半年後には「先生！」です。

以下、祝福と同時に、新人教師が最初に遭遇する「説明」という指導技術について、熟練教師の実践を交えながら、その基本をお届けします（大元は田邉 2013）。なお、事例は英語科が中心になります、そこはお許しください。

説明はカンナがけ

仕事柄、月１程度で各地の教育委員会の教員研修会に出かけます。目玉は公開授業です。様々な授業を参観する中で「お見事！」と唸らされる授業に出会うことがあります。授業成功の要因は多数あり、一言ではくくれませんが、お手本となる授業に不可欠なのが「説明力」です。

手元の国語辞書は「説明」を「それがどういうものであるか（事情で存在し、また起こったか）を、相手に分かるように（順序を立てて）言うこと。事柄の内容・理由・意義などを、よく分かるように述べること。」（新明解国語辞典）とあります。

明解な定義ですが、英語の explanation はより明解にこの言葉の本質を示しています。大元の動詞「説明する」explain の語源は「カンナ（plane）をかけて、完全に（ex）平らにすること」なのです。説明が「カンナがけ」に由来しているなんて、興味深いと思いませんか。

建築には門外漢の筆者の聞きかじりでは、加工前の木材板（専門的には荒木）をカンナ加工し、つるつるにするのは木の表面の細胞を引き締めることが最大の目的で、事実、雨露など水の弾きが格段に違ってくるそうです。

ひるがえって授業におけるカンナがけ—説明—は、新しい学習項目を生徒が理解しやすいようになだらかにする指導技術と言えましょう。と言っても教壇に立つと、「一斉授業」の中で、知識がある教師は教え込もうとするあまり、一方通行的な“説明”に没頭し、いつの間にか生徒を置いてきぼりにすることがあります。とくに新米教師はこの傾向が強く（筆者もそうでした）、理解の道程をつるつるではなく、凸凹（でこぼこ）してしまうことすらあります。

加えて、教室で新人教師を待ち構えているのは、読書経験が著しく低下し、スマホに情報依存する典型的な「Z 世代」です。そうした生徒を前に彼らはどんなカンナがけを心得たら良いのでしょうか。

インタラクティブなカンナがけ

熟練教師は、内容が歴史事象であれ、国語の文章解釈であれ、数学の公式であろうと、一方的な説明手法は採りません（大学教員は反省！）。まずは生徒の興味関心を引き、彼らの既知知識を喚起しながら、発問、指名、例示などでゆさぶり、項目を生徒自身が学びとるように仕向けます。

同時に自身の教育センサーを常にオンにし、生徒の理解度をひろい、彼らがどこまでわかっているのかを測りながら、説明手法をその場で修正し、生徒が「わかった！」と納得するまでその手を緩めません。授業が上手い教師ほど、「一人語り」に陥りやすい説明をインタラクティブなもの（interactive）に変容させるのです。

某高校の A 先生はこの“インタラクティブ説明派”の名手です。彼女のカンナがけは、イラスト、図、写真、記号や写真などをふんだんに用いたプリント教材を最大限に活用し、生徒の理解過程をつるつるにします。これは口頭だけの説明では限界を感じるようになったという自身の体験からとのこと。

話しだけではよく理解できない生徒が増えている気がします。TV でも日本語で語っているのに、やたらテロップが入っていますよね。あれは、もちろん高齢者や障がいがある視聴者への配慮もあるかしれませんが、ケータイ年代の聞く力の欠如をＴＶ局側が敏感に感じ取っているからではないでしょうか。

視覚情報に依存する傾向が強いZ世代の一般的な傾向を逆手にとった現在の手法は美術部に1年間、出入りし、デザインの基本を部員とともに徹底的に学んだ成果とのこと。

某中学校のB先生もインタラクティブ説明派ですが、違うのは歌、映画、sit-comなどITCをフル活用し、視聴から生徒に気づきを起こさせ、項目を理解させる手法を採っていることです。英語科ではおなじみのwillとbe going toの違いを例にとると、先生は「英語のプロポーズの言葉は？」という発問からはじめます。そして対象となる表現が出てくる場面を集めたビデオクリップをいくつか視聴させます。ペア同士でガヤガヤとやらせているうちに、彼らはやがて登場人物が“Will you marry me?”と言っていることに気づきます。視聴を通してwillの意味の核「人の意思」をつかまえさせるのです。B先生はさらに「じゃあ、“＊Are you going to marry me?”（非文）とプロポーズの時に言える？」と畳みかけ、最後にwillとbe going toの違いを押さえにかかります。ビデオクリップを通して、生徒の知性と感性へと訴えかける手法で、目標項目を理解させているのです。

ワークによるカンナがけ

最後は高校のC先生です。彼は「活動（work）を通じての説明」という手法を大切にしています。例えば辞書引き。語彙、文法・語法、文化などの項目を説明する場合、口頭で攻めるのではなく、先生は紙の辞書引きというワークに生徒を誘います。先生の“Look it up in your dictionary!”の指示と同時に生徒が辞書をめくる様は壮観の一言です。

数量形容詞manyの例では、日本語の「たくさんの…」からの干渉により、生徒の多くがMany students...などの堅い英文を産出することがあります。先生は「manyは…」という公式的な説明を提示するのではなく、辞書という「言葉の銀行」に出向き、生徒自身が調べ、発見させるのです。『初級クラウン英和』でmanyを引くと、「まちがいやすい文法の項目」というところに次のような記述があります。

> 「とくに話しことばではmanyはふつう疑問文・否定文で使われる；肯定文で使うと形式張った感じになるので、manyの代わりにa lot of, lots of, plenty of, a great manyなどを使うことが多い。」（p. 351、下線は筆者）

この記述を最初に発見した生徒にその部分を読ませ、全員にマーカーでチェックを入れさせます。疑問文で否定文での用例が多くあり、manyが使われるのは疑問文や否定文に多く、肯定文（とくに話し言葉）では避けられる傾向にあることを理解します。一緒に調べ、ワークするという過程を取り入れるようになってから、生徒の理解度、英語への興味は大きく変化しているとのことです。

おわりに

熟練教師の多くが実践しているのは、一般に考えられている「しゃべり倒し」の説明にあらず、むしろ生徒を巻き込む形の説明なのです。Active Learningが推奨される今、教師の説明が伝統的なものままであってはならないと思います。さて、新人教師となるあなたは教室でどのようなカンナがけをしますか。

【参考文献】

今井むつみ（2024）『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？ 認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策』日経BP.

田島伸悟・三省堂辞書編集部（2017）『初級ニュークラウン英和辞典』（第11版）三省堂.

田邉祐司（2013）「英語教師のための基礎講座 授業マネージメントの勘どころ：指導言の改善を求めて（2）」『Teaching English Now』Vol.26, 14-15. 三省堂.

山田忠雄・他（編集）『新明解国語辞典』（第7版）三省堂.

居場所としての読書

文学部　准教授　鈴木　愛理

「本というのは読むものだと思われがちだしその通りでもあるのだが、それ以上に、もちろん居場所でもあるのだ。快適で安心で幸福な居場所。」
（江國香織「石井桃子（あるいはいしいももこ）さん」『神奈川近代文学館』NO.141、2018.7）

子どものときから、よく本を読んでいた。それはただ、私が待つことの多い子どもだったからで――バスや電車が来るのを待ったり、病院や歯医者で呼ばれるのを待ったり、妹が何かし終わるのを待ったり、自分が眠たくなるのを待ったり――、本が好きで読むというより、ただそうする以外にすることもなくてしていることだった。待ち時間という所在ない状態にあるとき、本を読んでいれば居場所が確保されるような気がして、安心して待っていられたのだ。本は待たされていること自体を忘れさせてくれるものとなり、うっかり乗り過ごしたり、呼ばれても気づけなかったり、待たされる時間が短すぎて残念な気持ちになったりするうちに、できるだけ本の中にとどまっていたい、本の外にでたくない大人になってしまった。いまだに、書くよりも読むほうがずっと好きなのは、そこにちいさい私の居場所があるからだ。

ところがつい最近、本の外に放り出されてしまった。そんな本に出会った。それも、絵本。

ディック・ブルーナ（松岡享子訳）『ことりのぴーと』の表紙には、ひとつぶの涙をこぼす白いことりが描かれている。この子がぴーとなのだろうと思って本を開くと、ぴーとには「はねがいちまいもない」ことがわかる。ぴーとの友だちのことりたちは、相談して１枚ずつ自分の羽をあげることに。ぴーとも羽のあることりになり、めでたしめでたし。かと思いきや、「でも、これは　おはなしだから　できたこと、これがほんとに　できたら　いいね。」という言葉でこの絵本はしめくくられる――この最後の一文で、私は本の外に放り出されてしまったのである。

書店のポップには、「羽のない小鳥が友だちの親切にふれる心あたたまるお話です（２才から）」と書いてあった。親切？　心あたたまる？　胸がざわざわした。私は、不穏だ、と思いながら、何がどう不穏なのかわからないまま、呆然としてしまった。

もてる者がもたざる者に与えること、そんなとても単純なことが単純にできるのは「おはなしだから」なのだと、どんな気持ちで子どもたちに読み聞かせればいいのだろう。確かに、単純なことが単純にはできないのが現実なのかもしれない。それに、「これが　ほんとに　できたら　いいね。」と願うことのほうを大切に読めばいいのかもしれない。でも――すこし気持ちが落ちついてから、読みかえしてみた。そして、いくつかのことに気がついた。

まず、「はねが　いちまいも　ないのです。」と紹介される最初の頁では、ぴーとは泣いていないこと。羽をもつ友だちを「みんなすてきだなあ」と思い、羽がないことが「かなしく」なって、「ぼくにも　はねが　あったらなあ。」と涙するのだ。次に、ぴーとは、はじめて羽を１枚もらって、それをつけた自分の姿をみたときにだけ、「わーい　わーい　ぼくにも　はねが　あるぞ。わーい　わーい　うれしいな。」と歓喜すること。その後、ぴーとの羽は、きいろ、あか、あお、みどりの４枚になり、「いろんな　いろの　はねの　ある　すてきな　ことりになりました。いまでは　みんなのなかで　いちばん　きれいです。」と書かれており、語り手は「よかったね、ぴーと、みんなが　はねを　わけてくれて。」と言うのだが、ほかのことりたちの羽は３枚になっていること（ぴーとに４枚のうちの１枚をあげたからだ）――「これが　ほんとに　できたら」、本当にいいのだろうか。私は「これは　おはなしだからできたこと」という言葉に違和感を覚えていたつもりだったが、「これが　ほんとに　できたらいいね。」も、そうとは言い切れない気がしてきた。

『ことりのぴーと』という題名なのだし、主人公はぴーとに違いないが（名づけられているのも、ぴーとのみである）、あまりにもぴーと中心ではないか。かといって、このおはなし（ぴーとやことりたちのふるまい）が間違ってい

るとも思えない。このしっくりこない感じは何なのだろう――さらにゆっくり読みかえし、はっとした。私が不穏だと感じるのは、ぴーとしか見えていない語り手に対してなのだ。

ぴーとは羽がないことで、いじめられたり、仲間はずれにされたりはしていなかった（羽のある友だちといっしょにいる）。また、ことりたちはぴーとに羽がないことをかわいそうに思って与えたのではなく、友だちであるぴーと自身がそのことをかなしんでいるから「そうだんして　めいめい　いちまいずつ　じぶんの　はねを　ぴーとに　あげることに」決めたのだ。きいろいことりの「じぶんの　はねの　いちまいを　そっと　ぴーとに　あげました。」という様子からは、羽をあげることは傲慢だと思われないだろうかという思慮深ささえ感じられる。ぴーとが「わーい わーい」とよろこぶのは最初の 1 枚を得たときで、みんなと同じ 3 枚になったときや、友だち全員から羽をもらって 4 枚になったときではない。つまりこれは、1 枚ずつ羽をもらったことり（ぴーと）と、1 枚ずつ羽をあげたことり、という関係になるおはなしであり、それ以上でも、それ以下でもないのだ。

それなのに語り手は、羽が 3 枚になったとき、4 枚になったときに「すてき」と言う。ぴーとが「みんなの　なかで　いちばん　きれい」と言うのも語り手である。羽はきれいなものだし、羽があることはすてきなことだけど、ぴーとは誰よりも「きれい」で「すてき」になることを望んだのではないし、そうなったことをよろこんではいないのに。もたざる者への憐みを含んだ語り手の視線が、私にこのおはなしを不穏なものとして遠ざけさせたのだ。

そういえば、似たような気持ちになった本は過去にもあった。ハンス・クリスチャン・アンデルセンの『みにくいあひるの子』、オスカー・ワイルドの『幸福な王子』、マーカス・フィスター（谷川俊太郎訳）の『にじいろのさかな』……本当にこれでいいのかなと思いながら本を閉じた記憶が、うっすらよみがえってくる。高校生のときに教科書で読んだ荘子の『渾沌』、最近なら高瀬隼子の小説『おいしいごはんが食べられますように』の読後感も、似ていたかもしれない。こうした物語たちも不穏なのだが、これまで本の外に放り出されずに済んだのは、私が「これは、おはなしだから」と自分で本を閉じてしまえたからだろう。「これは　おはなしだから　できたこと、これが　ほんとに　できたら　いいね。」――おはなしの側からこう呼びかけられたことはふい打ちだった。おはなしと現実を都合よく線引きしていたのは、私のほうだったのに、「これは　おはなしだから　できたこと」（おはなしと現実は違います）、「これが　ほんとに　できたら　いいね。」（おはなしのほうが現実よりいいのです）と言われて、たまらなくなったのだ。

おはなしの中のことりたちは、誰からの視線も気にせずに（ほとんど無表情で）生きている。語り手なんて、読者なんて、彼らには何の関係もないのだ。そこに、おはなしの強度がある。そんな当たり前のことにほっとして、私はこの本の中にも居場所をみつけることができた。

「一番厄介なことは何かって？他人に気の毒がられることが一番厄介ですね。これまで人からかわいそうだと言われたことがないから、最初はどう振る舞っていいか分からなくて。（…）かく言うわたし自身、つねに誰かを憐まずにはいられない質で、それなしでは生きていけませんでした。子猫とか、アヒルの子とかね。（…）けれど、すべてお終い。憐れむ心が抜けたというか、何もかもが燃えてなくなったみたいで。いちいち他人を憐れんだりしていると、こちらが何もできなくなってしまうもの。泣き続ける以外にはね。」（イーラ「アヒルの子」オスタップ・スリヴィンスキー（ロバート・キャンベル訳）『戦争語彙集』岩波書店、2023）

10 号館（神田キャンパス）

教 職 課 程

10 号館（生田キャンパス）

卒業生から（国語）

茨城県那珂市立第一中学校　教諭　草地　史一（平成20年度文学部日本語日本文学科卒業）

〇はじめに

「教科教育で勝負できる教員になりたい。」教員採用試験での面接でそのように答えたことを覚えています。茨城県の公立学校の教員になって 13 年目となりました。13 年間で置かれている立場や任される仕事は変わってきましたが、この教科教育（普段の国語の授業）を自分の仕事の中心に添えながら、今日まで教壇に立ち続けております。

一方、教員の仕事は多岐に渡るのも事実です。学級・学年経営、生徒指導、部活動指導など、教科教育以外にも教員としての資質能力を発揮する場がたくさんあります。これらのことを踏まえ、私の経験や考えていることを基に、教師という仕事の魅力ややりがいをお伝えできればと思います。

〇これからの教科指導の在り方

学習指導要領が改訂されるたびに、教科指導（授業）の在り方も少しずつ変わっていきます。私が初めて教壇に立った 13 年前と比べると、授業形態は大きく変わってきました。以前は「学び合い」をテーマに、グループで交流したり、クラスで共有したりする授業を多くしてきました。しかし最近では、一人一台端末による ICT の活用が進んだことに加えて、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められております。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な授業改善の一例として、私の授業の一端を紹介します。最初に、学習環境を変えることから始めてみました。普段生徒たちが使用している教室から、多目的ホール（大体教室の 3 倍くらいある部屋。普段は集会をする際に使用する場所）で授業を行うことにしました。ここでは、個人の机椅子だけでなく、自由に話し合いを進められるスペースや、関係書類を読むことのできるスペース、モニターを使ってプレゼンしたり議論したりできる場などを確保しています。学習課題に対して、個人で黙々と取り組んでいる生徒、友達と話し合いながら学習を進める生徒、それらのことを交互に行う生徒など、「指導の個別化」と「学習の個性化」が実施しやすい環境を整えています。

皆さんも大学の講義や教育実習等を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的に充実した授業構想について見聞きしているはずです。そこでの経験をこれからも、そして教員になられた後もブラッシュアップしていくことが大切です。「教える、教わる」ではなく、「自分で問いを探究し、主体的に解決する（自走する）」「教師は答えではなく、学び方を教える（伴走する）」そんな授業を目指してみてください。

〇教師としてのやりがいは何だろうか

最後に教師としてのやりがいについてお伝えしたいと思います。教師という仕事の魅力は「子どもたちの成長を間近で感じ取れること、そして自分自身も日々成長できること」ではないかと思っています。学級担任を経て、学年主任、生徒指導主事を経験させていただきましたが、毎年様々な生徒と向き合い、笑い合い、励まし、励まされ、時には上手くいかなことも共に乗り越えながら、日々過ごしています。

一番の感動はやはり卒業式でしょうか。生徒の堂々と卒業証書を受け取る姿と、3 年間の思いのこもった合唱は、今までこの仕事を続けてきて良かったと感じる瞬間です。「尊敬される人間より、信頼される人間になりなさい」これが卒業を前にした子供たちに贈る言葉のひとつです。同時にこの言葉を自分自身にも言い聞かせています。

教師を目指す皆さんも、いつかこの瞬間に立ち会う日が来るはずです。そんな日々を想像し、これからの勉強に励んでいただければ幸いです。

卒業生から（英語）

長野県梓川高等学校　教諭　尾島　康平（平成26年度文学部英語英米文学科卒業）

１．はじめに

私は大学卒業と共に長野県の教員採用試験に合格し、今年で教員 10 年目となります。私のこの 10 年が教職を目指す皆さんの知識として少しでも活かせればと思い、本稿の依頼を引き受けました。面白そうだなぁという部分だけでも読んでいただければ嬉しいです。

２．安心して学べる授業づくり

教員は日々の授業が一番大切と言われますが、私はまず『生徒が安心して学べる授業をする』事を大切にしています。私が勤務してきた学校は、勉強が苦手な生徒も在籍する学校でした。高校入学時から英語に対して苦手意識を持つ生徒もおり、「英語の授業が怖い」と感じる生徒も少なくありません。その不安から欠席が増え、満足に授業へ取り組めない生徒もいます。よって私は生徒が個々に取り組める活動をベースに授業を組み立てています。例えば私が授業でペアワークを取り入れる際は、事前に一人でしっかり準備できる時間を取るようにし、どんなペアワークを行うのかも必ず事前に伝えるようにしています。また定期的に授業アンケートを実施し、生徒が楽しく英語の授業を受けられるよう努力しています。

まず生徒が安心して楽しく学べる授業が出来るよう取り組んでみてください。生徒との信頼関係の第一歩は楽しい授業から始まると思います。

３．生徒と信頼関係を築く

学校においては、授業や休み時間、部活や学級など、生徒と関わる時間がほとんどです。その中で私が大切にしている事は『生徒の気持ちに寄り添い、真摯に受け止める』事です。生徒の気持ちを全く考慮せずコミュニケーションを続けると、「この先生とは話をしたくないし、話をしても無駄だ」と思われ、会話すら出来なくなる事もあります。生徒と接するときは明るく真摯に、最後まで話をきちんと聞いてから自分の意見を伝える事が大切だと思います。生徒に指導をする際も、まずは生徒の話に耳を傾け事情を聴き、ダメだった部分のみをしっかりと叱るようにしています。

『いつもは明るく楽しく、でもダメなものはダメ。』とても難しいですが生徒との信頼関係を築くには大切な事だと思いますし、私はここに大きなやりがいを感じています。

４．採用試験の勉強

何をするか迷ったらまずは専門科目を極めてください。教員の業務は多忙で、実際に仕事を始めると教材研究の時間はほとんど取れない事が多いです。専門科目の知識は、どんな学校でも必ず必要になります。大学生の時の私は専門科目に加えて、長野県での出題率が多い教育法規の勉強にも力を入れました。二次試験では提出した面接カードについてどんな質問をされても回答出来るよう準備し、長野県が取り組んでいる教育問題などもまとめました。学習指導要領や各県の教育答申をチェックするのも面接ではかなり効果的でした。

５．私が考える教員の役割

私は子どもの頃、学校でいじめを受けていました。私にとって学校は「痛いし苦しいけど行かなければならない」場所でした。ただ、「そんな経験をした自分だからこそ誰よりも学校に苦しさを感じている子ども達の力になれるはずだ。」と子どもの時に思い、教員を目指しました。

学校の面白さを『ほんの少し』底上げする事が教員の役割だと私は思います。教員の仕事はあくまで裏方ですので、ほんの少しでいいのです。日々授業をし、色々な会話をし、応援し、時々ツッコミを入れながら、生徒が「今日登校してよかった」と思える瞬間を少しでも増やせるよう頑張っています。この記事を見て私の考えに共感し、同じ考えを持って生徒達と接してくれる方が一人でも増えてくれたら嬉しいです。

最後に一言だけ。
教師は最っ高に楽しい仕事です！
皆さんの教員生活も楽しくなるよう祈っています。共に頑張りましょう！

卒業生から（公民）

東京都立府中東高等学校　教諭　一ノ瀬　藤明（平成16年度商学部商業学科卒業）

〇はじめに

こんにちは。私は、東京都立府中東高等学校で公民科教師をしております。私は本学を卒業後、社会科教育（公民科の教材開発）の学問を深めるため、教育学部のある大学院に進学しました。大学院修了後は、埼玉県の公立中学校、大学付属の中高一貫校の教諭を経て、昨年度より東京都の公民科教諭として採用されました。公立学校、私立学校、中学校、高等学校と教員としての豊富なキャリアはあるので、皆さんに有益なことをお伝えできればと考えています。

１、私立学校と公立学校の違い

教員を目指すにあたり、私立教員になるか、公立教員になるかで悩むことがあると思います。「私立学校と公立学校ではどのような違いがあるのか」を私の経験からお話しします。一番大きな違いは、異動があるか、ないかです。公立学校の異動事情は、自治体によっても差があり、一概には言えませんが基本的には必ず異動があります。東京都の新規採用教員は基本的に初任校は４年で異動し、次の学校からは６年で異動するというのが目安となっています。異動については、地域や教科の事情、他校からの引き抜き、個人的な事情等により、短くなることも長くなることもあります。また、部活動の顧問として結果を出すなど、保護者の「異動しないでほしい」という要望が強い場合、勤務校の期間が長くなることも考えられます。これに対し、私立学校には基本的に異動がありません。専任教諭であれば、定年まで同じ学校で継続的に勤務することになります。私立学校のように異動がないと、ずっと同じ人間関係のなかで働くことになります。これがメリットになるか、デメリットになるかは人それぞれ違います。例えば、公立学校は異動があり、学校ごとに特色や教育方針は変わりますから、異動したら、前任校と校則や生徒の学力差もまるで別世界な場合があり、今までの教師の指導経験を一から見直さないとならなかったことも私の経験からありました。逆に私立学校では、その学校の建学の精神に基づいてカリキュラムが組まれていて、一年間の見通しが立てやすかったり、気心の知れた同僚の教師と組織的な教育活動を取り組むこともできます。また、私立学校では異動がないため、多くの卒業生が母校に訪ねてくることもあります。私立学校と公立学校はそれぞれにメリットもデメリットもあります。ある人にとってのメリットも、別の人にはデメリットにもなりえるため、一概に「こちらの方が働きやすい」とは言えません。これが私の経験からは言えます。今、私が東京都で勤務しているのは個人的な理由によるものなので割愛させて頂きます。

２、中学校と高等学校の教師を経験して

中学校教員も高校教員も経験した私から感じたことをここでは書きたいと思います。共通しているのは、多くの悩みを抱える生徒たちと日々向き合う教師の仕事は、とてもやりがいがあり、とても大変であり、さまざまな課題に直面し、その課題を解決しなければいけない場面に遭遇し、指導しなければいけないことについて中高に変わりはありません。そして、生徒の成長に関わり、それを見守ることができることも全く中高で差はありません。ただし、中学校は義務教育であり、高等学校は基本的に選抜試験を経て入学し、義務ではない教育であることでの難しさはそれぞれ違います。例えば、中学校では校則の意義や授業の決まり、給食指導から清掃指導まで一から丁寧に指導しなければいけない場面が多いかもしれません。一方で、高等学校では中学校を経験した上で学校生活を送るので中学校の経験を生かし、清掃活動、部活動等を生徒自ら主体的に行えるかもしれません。しかし、高校生は中学生より人格が完成されていて、自我も確立されてきている段階ですから納得がいかないことであれば、指導がうまくいかない場面もあります。また、授業に関しても中学生は授業の興味関心を引き付けることで対話的・主体的な深い学びの伸長につながるかもしれません。もちろん、高校の授業でも興味関心を引き付けるための授業の工夫（発問の工夫や板書計画など）は大切な要素かもしれません。しかし、高等学校は各学校により生徒の目指すものは大きく異なります。大学進学を目指す高校であれば、進路指導や大学入試の演習問題の解説が生徒の学習意欲を最大限引き出す要素である学校もあります。また、就職に力を入れている学校であれば就職活動に合わせた授業の工夫が大切になる学校もあります。

このように中高では求められる学習指導にも違いがあります。

しかし、大切なのは「生徒ひとり一人に寄り添いあった支援や指導を忘れないこと」だと考えます。

３、最後に

公立学校、私立学校、中学校、高等学校と教師として様々なキャリアを経験した私から思うことは、どんな学校でも「情熱」と「生徒の能力を引き伸ばしたい」、「生徒に寄り添ってあげたい」という気持ちがあれば、どんな困難な壁があっても乗り越えることができることです。また、「先生が学校が楽しい」という気持ちを持てば、「生徒も学校が楽しい」と感じられるのではないかと感じています。

筆者とクラスの生徒と

卒業生から（情報）

千葉県立柏の葉高等学校　教諭　眞山　和姫（平成23年度ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科卒業）

１．はじめに

私は現在、千葉県立柏の葉高等学校の情報理数科というところで専門科目を教えています。今回は、非常にレアな情報の専門学科について、私の体験を記したいと思います。みなさんの参考になれば幸いです。

２．つくる楽しさを思い出した大学時代

高校時代、情報の先生に勧められたことをきっかけに、ネットワーク情報学部へ進学しました。当初は「情報学」という分野がよくわかっていませんでしたが、Web デザインや人間中心設計を学び、情報技術を使って誰かのために何かを作ったり表現したりする楽しさにのめり込んでいきました。振り返ってみると、子供の頃からおもちゃを分解し、異なるパーツを組み合わせて謎のモンスターを作るような遊びに没頭していたことを思い出します。

教職課程において模擬授業を考える際も、今ある知識と教材・教具でどうすれば面白い授業が設計できるか、という「授業づくり」そのものが楽しかったのを覚えています。教職課程は取得すべき単位が多く、大変な部分もありましたが、先生方が暖かく見守ってくださり、授業づくりに取り組むができました。本当にここでは書ききれないほど、多くの先生方に迷惑をかけながら成長させていただいたと思います。

３．情報の専門学科での授業づくり

全国の高校で情報の専門学科がいくつあるかご存じでしょうか。専修大学で取得できるものには商業の教員免許がありますね。商業の専門学科を設置している高校は全国で 582 校あります。一方、情報の専門学科を設置している学校は全国でわずか 27 校です（文部科学省 令和５年度学校基本統計（学校基本調査報告書））。

千葉県には、そんなレアな情報の専門学科を設置している高校がなんと２校もあり、私は初任校としてそのうちの一つ、袖ヶ浦高校に着任しました。専門学科の授業は、当時の授業名として例を挙げると、「情報テクノロジー」や「アルゴリズムとプログラミング」などさまざまな情報分野の授業が開講されていました。普通科で教えるより専門的で大変でしたが、私にとって救いだったのは、「情報デザイン」という授業があったことです。情報の教員は工学部や情報学部のシステム系を卒業した方が多い中、情報デザインを多く学んでいる教員は非常に稀でした。そのため、周りの先生方は、新米の私に授業の進め方や教材作成を任せてくださいました。前述のとおり、情報の専門科目を教えている教員は非常に少ないので試行錯誤の連続でしたが、今ある教材・教具でどうすれば面白い授業が設計できるかをワクワクしながら考える日々でした。

現在は、千葉県でもう一つの専門学科がある柏の葉高校で、同様に専門科目の授業を担当しています。「情報デザイン」だけでなく、「情報システムとプログラミング」などのシステム系の授業も教えており、ここでも試行錯誤しながら授業づくりを楽しんでいます。

４．さいごに

ここまで授業について述べてきましたが、ご存知のとおり、教員の仕事は授業だけでなく、事務作業や部活動など、多岐にわたります。特に近年、業務の DX 化を進める声が高まっており、学校ごとの DX 整備について情報科教員が中心となって、ゼロから考えていく機会が多々あります。忙しいですが、こういったことに取り組めるのは、現状で最適な解決策を考え、それらを設計・試行するなど、「何かをつくることが好き」という私の特性があるからかもしれません。

私は、ゼロから何かをつくるのは好きですが、それを継続することが苦手です。こんな私を見捨てず、私の思いつきを継続力に優れた先生方が仕組み化して助けてくださる。今でも、さまざまな先生方にご迷惑をおかけしながら、なんとか情報科教員を続けられております。

さて、このように新しい技術が次々と登場する情報の世界。どうしたらこの情報技術で生徒と学校を豊かにできるか一つずつ考えながら、情報科教員として「授業づくり」をしてみませんか？

教員採用試験体験記

文学部日本文学文化学科4年　清水　虎太朗

はじめに

私は今年度の教員採用試験に無事合格することができ、来年度から東京都の公立中学・高等学校にて国語科の教員として勤務することが決まりました。そこで私が教員採用試験を受けるに当たって念頭に置いていたことや、実際に受けてみて感じたことなどを皆さんのお役に立てていただけるよう、拙いながらもまとめさせていただきます。

一次試験について

東京都の教育委員会にて行われる中・高の教員採用試験の一次試験は、教員として勤めていく上で必要になる知識を問う「教職教養」と採用された際に指導していく教科の習熟度を問う「専門教養」の二つが問われるマーク選択式の試験となっています。

まず、教職教養についてですが、こちらは教職課程を通じて履修していく専門の講義の内容をある程度（単位を修得する）理解し、身につけているのであれば、日々の隙間時間などに一問一答形式のアプリケーションやラジオ形式で知識を吸収できる YouTube 上のコンテンツなどを用いて細かな用語や年号、人物名などを補っていくだけでも充分合格が狙えると私は考えています。これは単に今後試験を受ける皆さんに対して怠けるよう差し向けているのではなく、私自身が過去数年分の過去問や実際に教員採用試験の一次試験を解いた経験上、ほぼ全ての問題に対して講義でやったことがあると感じ、実際にこれまで履修してきた講義のレジェメなどを確認するとそれらの事柄に触れていたということがあったからです。ただ、理論上は可能であるとは言っても、しっかりと自分の手で過去問や問題集にある程度触れておくのが安全であり無難であると考えます。

次に専門教養についてですが、国語科の専門教養はほとんど難易度と量を削った共通テストと言っても差し支えがないようなものでした。なので皆さんが 3 年前や 4 年前にこの学校に入学するために行ってきた努力を振り返るとともに、新たに教員採用試験という形で問題集や過去問に触れていけば確実に合格する力を身につけていくことができると考えております。

余談ですが一次試験は特に服装の指定がないのですが、特段事情がなければスーツで行くことをお勧めします。私は何も知らずに私服で行ったところ周りほぼ全員がスーツでいらない恥をかいてしまったため、同じ失敗をする人が少しでも減ることを祈っております。

主に教員採用試験に向けて使用した書籍

二次試験について

二次試験は 3 人の面接官に対して行われる面接試験となっています。ただ、調べたところによると東京都の面接試験は年々形式や内容が変化している傾向にあるらしく、また私自身は恥ずかしながら本学で行われていた面接指導や教職相談を何一つ受けていなかったため、事前に何か面接内容に対する具体的な対策を講じることは不可能だと判断しました。そこで面接に対して私が行った準備は「自分の考えを全て言語化できるようになるまで自己理解を深める」ことでした。これはどういうことかというと、極端な話ではありますが、面接の場でどんなことを聞かれてもそれは受験者である私自身についてのことであるため、自己理解が深ければ全てに対応して答えられるであろうということです。実際、何も知らない状態で臨んだ面接でしたが、この事前準備のおかげで詰まることなく会話を繋いでいくことができたので、すでに色々な対策や練習をしている人でも、自分自身を理解していくという準備は予想外の事態から自分を救ってくれると思いますので強くお勧めします。

最後に

私自身試験に向けての対策を始めたのがとても遅く、とても勤勉だとは言えない人間ではありますが、それでも必要な準備を行えば受かることができました、私以上に準備を行っている皆さんは、自分に自信を持って頑張ってください。微力ながら応援しています。

教員採用試験合格体験記

文学部英語英米文学科4年　岡本　優哉

【はじめに】

この度、令和６年度神奈川県教員採用試験に合格し、令和７年度から神奈川県で公立高等学校（英語科）の教員となります。私の体験記が今後受験される方の一助となれば幸いです。また、私は「かながわティーチャーズカレッジ」という神奈川県教育委員会が主催する団体に所属していたため一次試験（小論文を除く）は免除となっていました。それらの点を踏まえて一読いただければと思います。

【就職活動の開始時期】

私は教員のすべり止めとして民間企業への就職を視野にいれていたため大学３年生の夏ごろから冬にかけては民間企業でのインターンシップや早期選考とかながわティーチャーズカレッジを並行して進めていました。先述の通り、自分は一次試験（小論文以外）が免除されたため、比較的時間に余裕があったためこのような進め方ができたと思っています。本格的に教員採用試験（二次試験）の準備を始めたのは４年生の４月ごろからでした。

教育実習中の授業の様子

【小論文対策について】

はじめに取りかかったのは小論文対策です。小論文対策は主に過去に出題されたお題で書いてみることから始めました。書いただけでは、あまり意味がないため教職関係の先生方にご協力いただき添削していただきました。最初は書く時間は気にせず、添削してもらったものを書き直し、完璧なものを一つずつ作っていくことを意識しました。書くのに慣れてきたら友達と「こんなお題でそうだよね」や「このお題でたら困るね」など話し合いそれらのお題はとりあえず作っておきました。

【二次試験対策について】

私は小論文の試験が終わってから二次試験対策を始めました。神奈川県の二次試験は面接、模擬授業、実技試験（英語での口頭試問）でした。配点の比率的には面接が一番高かったですが面接は民間企業などでたくさん経験していたので自分は模擬授業に力を入れました。模擬授業は最後の最後まで構成や道具などを考えていました。自分は大学の先生のほか、友人などなるべく多くの人に見ていただきアドバイスを聞き、すぐに次の改善策を考えるようにしていました。私は最終的にすべて完成したのが前日でした。もう少し早めにはじめておけばよかったと思っています。

【総合してのアドバイス】

神奈川県の英語科を受けるなら個人的には「かながわティーチャーズカレッジ」に申し込むことを強くおすすめします。理由は２点です。先ずは、「かながわティーチャーズカレッジ」に入るための試験が教員採用試験でも実際にある小論文や英語面接なので練習になるからです。次にこれは年度にもよりますが同学年は全員本番の試験に合格していたからです。実際の学校現場に訪問したり現場のある先生方の講義を受けたりでき、教員になりたい人にとってはメリットしかありません。入るまでの過程やレポートなど大変なことはありますが教員になりたい人にとってはプラスなことばかりです。本学では年度の初めに説明会を実施しているのでまずは話だけでも聞いてみることをおすすめします。

教育実習指導クラスからもらったプレゼント

【おわりに】

自分は合格しましたが、もしダメだったらもう少しやればよかったと確実に後悔していたと思います。やれることはまだまだたくさんあったと思います。ぜひこれから受ける方たちには、もしダメでも後悔しないくらい努力していただきたいなと思います。いつかみなさんが教壇に立てることを楽しみにしています。頑張ってください。

教員採用試験体験記

文学部歴史学科4年　向原　駿太

私は、この度、東京都教員候補者選考の中高地理歴史科に合格し、令和七年度より教壇に立ちます。ここでは、私の教員採用試験までの過程や対策などを中心に述べさせていただきます。

先ず、私が教員を志望した経緯についてですが、何よりも「子どもたちのために働きたい」と考えるようになったからです。これまで、学習塾でのアルバイトや学習支援ボランティアなどを経験し、教職に対する思いは強くなっていきました。本学に入学する以前も教員を目指していましたが、入学後は子どもたちと触れ合う機会が増え、自分が教員を目指す理由が明確になりました。また、教員採用試験合格を目指している一年生に向けて伝えたいことは、教職に強い情熱を持っている友人をもつべきだということです。きっと、私一人では採用試験を受ける以前に挫折していたことでしょう。しかし、同じ目標を持つ友人と切磋琢磨することでモチベーションも向上しますし、相談にのってもらうこともできます。私は、教職課程の授業では積極的にコミュニティを広げるように努めていました。1限や5限に授業がある日でも楽しく過ごすことができました。

次に採用試験について具体的に述べさせていただきます。私は、東京都のほかに広島県、熊本県の採用試験も受験しました。民間企業の就職活動はせず、教職一本に絞っていたこともあり、一次試験や面接練習に集中することができました。複数の自治体を受験した理由は、卒業後すぐに教壇に立ちたいという気持ちが強く、不合格であってもいずれかの自治体で、臨時採用として働こうと考えていたからです。このようなケースではメリットもデメリットもあります。メリットはいずれかの自治体に合格できる可能性が増えること、そして試験場での雰囲気や面接の経験を多くもつことができることです。ただし、複数の自治体を受ける際には日程の調整を行う必要や自治体ごとの問題を解かなければなりません。教員採用試験は自治体ごとに出題形式が異なります。私が受験した三都県では教職教養及び専門教養が出題されました。全ての自治体において一次試験を通過することができたものの、交通費や宿泊費などを考えると必ずしもおすすめはできません。

ここからは、東京都の教員採用試験の地理歴史科を中心にお話します。私は、東京都の「三年次早期選考」を受験したため、二年生から三年生に上がる春先から本格的に勉強を始めました。試験まで三か月程度しか勉強期間がなかったため、教職教養を集中的にしか勉強できなかったため不合格でした。これから、東京都の早期選考を受験しようと考えている方はなるべく早く、そして偏りが出ないように勉強をするべきです。私は不合格となった後すぐに勉強を再開しました。東京都の地理歴史科は、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の共通問題と選択問題から構成されており、私は日本史を専攻していたため、選択問題では日本史を選びました。出題の傾向としては問題数が他の自治体と比べて多くはないものの、一問の配点が高いため隅々まで勉強をする必要があります。例えば、私が受験した年は出ませんでしたが、世界史や倫理なども出題されることがあるため注意が必要です。また、一次試験では小論文も課されるため、どのようなテーマであっても自分の教育観を曲げずに書ききることを心がけてください。

これまで、教員採用試験までの過程や対策について述べましたが、最後に伝えたいことがあります。それは、本学の施設を利用し、先生方の指導を積極的に受けてほしいということです。生田キャンパスには広い図書館があり、関東圏の自治体の過去問はほとんどあります。さらに、集中できる学習スペースもあり、勉強に専念する環境は整っています。先生方も強い情熱を持っており、面接練習や教職相談などご指導して下さいます。これから、一人でも多くの学生が教職を目指していただければ幸いです。

教員採用試験体験記

商学部マーケティング科4年　木村　幹太

１．はじめに

この度令和６年度に実施された山梨県公立学校教員採用選考試験を通過し、来年度から地元山梨の地で商業科の教員として働かせていただくことになりました。微力ながら、この先教員採用試験の受験を検討している皆さんのお役に立てればと思い、私の体験を書かせていただきます。少しでも、読んでくださる方々の参考になれば幸いです。

２．一次試験

山梨県の一次試験は教職教養、一般教養、専門教養が行われました。教職教養と一般教養はマーク式で 60 分間、専門教養に関しては記述式で 30 分間でした。一次試験に対しては、過去問題集や一問一答などを参考に対策を行いました。本格的な対策を始めたのは三年の後半に入ってからとかなり遅いスタートでしたが、先生方から問題の出題傾向を伺ったり、友人と問題を出し合いながら教職教養や一般教養の演習を繰り返し行いました。

専門教養に関しては過去問題などが情報として少ないため、母校の先生方にお願いし余っている問題集をもらい学習を進めました。商業の専門教養は幅広い分野から出題がなされるので、忘れていそうな分野や高校時代に苦手だった分野を中心的に何度も繰り返して学習に取り組みました。

３．二次試験

山梨県の二次試験は小論文、個人面接、集団討論（模擬授業）が行われました。二次試験は二日間に分けて行われ、小論文が一日目に 800 字以内（90 分）、個人面接が約 20 分間、集団討論が約 40 分間で二日目という日程でした。

小論文に関しては山梨県の過去問題を解き、時間内に自分の教員への思いや熱量が伝わるように何度も繰り返して対策を行いました。山梨県の小論文の出題傾向としては、自分が教員となった際にどのように取り組んでいくのかといった点を問われることが多かったため自分なりの教師像を持ち、それを時間内に伝えられるように練習しました。

個人面接、集団討論に関しては事前に自己紹介書という書類を提出する必要があり、それに沿って質問がされるという形であったのでまず自己紹介書の添削を母校の先生にお願いをし、それをもとに現場で働いている多くの先生方に模擬面接をしていただくことで対策を行いました。個人面接に関しては自分をよく知っている先生方から助言をいただき、何度も繰り返していくことで自信を深めていき、本番でもきちんと自分の言葉で面接官に教員になりたい思いを伝えることができたと感じています。

模擬授業と集団討論では、冒頭５分間の授業から始まり、そのテーマに基づいて 40 分間の討論を行う形式でした。模擬授業のテーマはその場で発表され、それに沿って科目や学年を設定し授業を行う課題でした。二次試験では経験豊富な現職の先生方が多く、現場経験の少ない私は、教員としての熱意を伝えることに全力を注ぎました。討論では、母校の先生方から「司会は避けるべき」と助言を受けていましたが、誰も司会を引き受けなかったため、気づけば自分が司会を務めていました。それでも高評価を得られたのは、自信を持ち、堂々と自分をアピールしたことが評価されたのだと感じています。

４．終わりに

この度、教員採用試験を合格することができましたが、私一人では何度受けたとしても確実に合格することはできなかっただろうと感じております。大学の先生方、母校の先生方、生徒達、両親、友人など様々な方の支えを受けて合格することができたのだと確信しております。そういった自分を応援してくださった方々への感謝を忘れず教員として恩返しができるよう精進していきたいと思います。最後に教員をめざす皆さん、同級生が就職活動などを終えている中で不安があると思いますが、同じ志を持つ友人を見つけたり、お世話になった先生方の力を借りたりしながらぜひ前向きに取り組んでいただきたいと思います。末筆ながら、皆様の目標が達成されることを陰ながら応援しております。どこかで教員として会えることを楽しみにしています。

教育実習で担当したクラスとの一枚（お世話になった先生と）

教員採用試験体験記

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年　石井　徹平

［はじめに］

この度、令和６年度実施横浜市公立学校教員採用試験に合格し、令和７年度より横浜市立学校の数学科教諭になる石井徹平です。これから教員を目指される方々のお役に少しでも立てれば嬉しいです。

［一次試験について］

私は、横浜市公立学校教員採用試験を大学推薦で受験しました。専修大学の先輩方の多くが横浜市の教員として活躍をしているため、数学を含めいくつかの科目で推薦枠が専修大学にはあります。横浜市での受験を検討している方は、推薦枠があるかないかを確認してみると良いと思います。

私は、成績の基準を満たし、望月先生（教職の先生）に推薦文を書いていただけたため、推薦を受けることができ、一次試験が免除となりました。ただ、募集基準が厳しいため、大学１、２年次より高い成績をキープできるようにしておくことや推薦文に書いていただく内容作りをする必要もあります。内容作りの例としては、学習支援ボランティアに行くことや教科研修生として学校現場に行くことなど色々あるので、自分で探してみると良いものが見つかると思います。

［二次試験ついて］

内容は、①模擬授業②個人面接③論文の３つに分類されます。①は、二次試験当日に与えられた３つのテーマから１つを選択し、５分間で授業内容を考え、10 分間授業するというものでした。専門科目から２つのテーマと道徳から１つのテーマが出され、私の場合だと、「同類項」、「変化の割合」、「礼儀」のテーマが与えられました。私は、「変化の割合」を選択し、５分で構想を練り、10 分授業しました。教員採用試験で行う模擬授業は、どのような力を生徒に身につけて欲しくて、どのような授業展開にするのか想定をしておく必要があります。私は、学習指導要領にも記載のある通り「日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力」を身につけて欲しいという前提で授業を行いました。授業内容は、「料理好きな人？」という問いから入り、「先生、今日の夜ご飯にパスタを作りたくて鍋いっぱいの水を準備する必要があるんだよね、弱火、中火、強火のどれが水を沸騰させるのに最も経済的に安いと思う？」という導入で授業を行いました。模擬授業の後、「今後の授業展開は？」と質問されたため、「一次関数のグラフを書いて視覚的に比較する予定です。」と述べ、身につけさせたい力に沿うような形で授業を行い、合格点を超えました。対策は、中学校の教科書の目次の項目全ての導入をできるようにすると良いと思います。

②は、面接官２人を相手に行われました。事前に記入して提出した面接カードをもとに質問する人と具体的な事例を用いて質問する人のように役割分担がされていました。また、個人面接の時間に、演技も含めた場面指導があります。これらの対策は、多くの先生に面接を見ていただきフィードバックをもらい、少しずつ改善させていきました。特に、バンビの会や教職相談、大学の二次試験対策講座等に大変お世話になりました。また、面接ノート（想定問答集）を作成するのがおすすめです。質問されたことに対して具体的な対応策が言えるようになるととても良いと思います。

③は、一次試験と同日に行われます。TAC 講座や教職相談を活用して対策を行った結果、高得点を取れたため、論文は書いたら合格点に達するまで添削してもらい、合格点に達する論文の数を増やしていくというのが合格点を取るコツだと思います。

［おわりに］

教員採用試験を受けるにあたって、専修大学で学んだことを現場で実践をすることや多くの先生や仲間と協力し成長できれば試験に合格できると思います。教職課程の授業を始め、バンビの会や教職相談、TAC の講座など、多くの教職に関するサポート体制が専修大学にはあります。それらを有効に活用しながら、仲間と協力し、合格に向けて勉強を頑張ったら必ず合格します。これを読んだ方といつかどこかでお会いできることを楽しみにしています。応援しています。

↑模擬授業対策の板書

教員採用試験体験記

文学部歴史学科4年　白倉　和輝

文学部歴史学科、令和６年度卒業生の白倉和輝です。このたび、神奈川県の教員採用試験に合格し、小学校教員となることが決まりました。専修大学の教授や職員の皆様のご指導のおかげで得られた結果です。本稿では、私の体験を共有し、これから試験を目指す方の参考になればと思います。

私は高校生の頃から教員を志していましたが、当初は校種を決めかねていました。専修大学の個別相談会で、中高の１種免許に加え、玉川大学で科目等履修生として小学校２種免許を取得できるプログラムがあることを知り、この進路を選びました。大学２年生の頃には、小学校教員を目指す意思が固まっていたと思います。

教員採用試験を意識し始めたのは大学２年の秋頃で、この頃から地域の小学校で学習支援ボランティアに参加しました。また、大学３年生の秋には、玉川のプログラムを通じて知り合った先輩の誘いで宿泊体験行事の引率に加わりました。３年の春からは、地域の教育委員会が主催する教師塾にも参加し、指導主事の指導や教育課題の議論、研修会への参加など、幅広い経験を積むことができました。

一次試験対策は、大学４年に上がる前の２月から本格的に始めました。主に過去問を繰り返し解き、出題傾向や内容を理解するスタイルを取りました。初めて解いた際は、小学校全科と教職教養・一般教養共に、得点率が３割程度しかなく、焦りを覚えたことを今でも鮮明に覚えています。しかし、その後、神奈川県の過去問を 10 年分解き終えた時点で６割以上の得点を安定して取れるようになり、次に千葉県や埼玉県など形式が似ている他県の過去問に挑みました。この方法の利点は、問題形式への慣れ、選択肢の意図の理解、時間配分や弱点の把握にあると感じました。

試験勉強の継続には、仲間の存在が大きな支えとなりました。大学では毎日のように集まり、同じ過去問を解いて採点し合い、互いの弱点を共有しました。また、通学時間や休憩中に一問一答を出し合うことでアウトプットを重ね、知識の整理にもつながりました。小論文対策では、教授に添削をお願いし、内容の繰り返しや口語表現の改善に努めました。さらに、自身のボランティア活動や教育実習での経験を整理し、オリジナリティのある内容に仕上げました。

二次試験の対策は、大学３年の冬頃から始めました。大学の「バンビの会」に参加し、教授や現職教員に模擬面接や模擬授業を指導していただきました。他の学生の面接練習を見ることで、客観的な視点を得られたのも大きな学びでした。また、一次試験後には、大学の対策講座や先輩とのオンライン練習、仲間内での練習を繰り返し行い、実践的な準備を重ねました。

試験対策を通じて、支え合う仲間や指導者の存在がいかに大切かを実感しました。また、教育実習と試験準備が重なることもあるため、無理をせず規則正しい生活を心がけることが重要だと感じました。徹夜で勉強する必要はなく、日中にできる範囲で継続することが大切です。私は試験勉強を通じて絵画や植物に興味を持つようになり、休日には美術館や植物園を訪れることが息抜きとなりました。その経験が試験の内容にも生きたと感じています。

試験に対する不安は大きいかもしれませんが、まずは仲間と始めたり、教授や先輩に相談するなど、身近なところから行動を起こすと良いと思います。皆さんの努力が実を結ぶことを心から願っています。

教育実習を終えて（国語）

神奈川県立大船高等学校　文学部日本文学文化学科4年　東條　泰知

私は母校である神奈川県立大船高等学校にて、2024年5月27日から6月14日までの三週間教育実習を行いました。ホームルーム、授業ともに2学年を担当し、授業は4クラス担当しました。教育実習で学んだことを授業、授業外と分けて、お伝えします。

授業に関して

私は事前打ち合わせがあった日（5月10日）にスケジュールを渡されましたが、実習三日目から授業があり、他の教員の授業を多く見ることができないまま授業を行うことになりました。幸い担当教員が模擬授業を何回も練習させてくれたため、一回目とはいえ少し慣れた状態で行えたのですが、今回のように模擬授業の時間を取ってくださる担当教員ではない場合もあるので、そこは注意を払うべきだと感じました。授業はパワーポイント中心で行い、ジャムボードやグーグルフォームを扱う時もありました。ICT機器を用いての授業はスライドの動きや、動画などで生徒を楽しませることができる点に魅力を感じましたが、次のスライドに移動したときに、以前の情報を残し続けることができないため、授業冒頭で示した本時の目標を授業後半では覚えていないことがありました。だから私はその問題点を解消するために、授業後半でも覚えていてほしいこと、授業の流れに重要なことは板書して黒板に残すことを心がけました。授業内容では、生徒同士の対話から互いに学びを増やしていくことを目標に、ペアワークやグループワークを多く行いました。特に国語は教科の特性上、自分で文章を作り出す場面が多いため、文章内容のみならず表現方法などの学びも深められている様子が窺え効果的でした。

授業外に関して

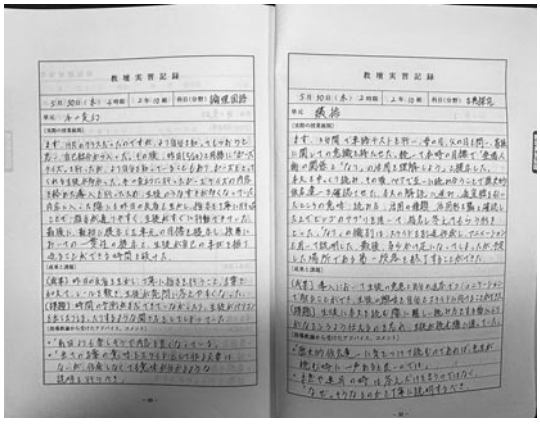
生徒との関わりの中で、信頼関係を築くために、生徒の名前を覚え、語りかけることが大切だと感じました。名前で語りかけることが相手に認知されていることの証明になるからです。私の実習先の高校では、最終日にいただいた寄せ書きのコメントにも名前を覚え、呼んでくれたことが嬉しかったと書いてくれた生徒が多くいたことに驚きました。これから実習に行く方は、実習では学級名簿は個人情報流出を避けるために、学校内でしか見ることができないとは思いますが、生徒のために一日でも早く名前を覚え、語りかけてあげることを心がけてほしいと強く願います。

六月中旬には学校では文化祭が行われることになっており、文化祭に向けての準備の時間が実習最終週の水曜午後から取られていました。文化祭の準備では担当教員から「控室に戻らずに生徒と共に何か作ったり、生徒から何か学びを得たりすることを意識してほしい。」と話があり、教室の内装、外装の手伝いをするとともに、生徒にどんな完成形を考えているのか、内装、外装を見た時にどのように感じてほしいかを話題にすることで、生徒の自由な発想を知り、生徒理解を深めることができました。

まとめ

私は、母校で沢山の経験を経て、以前より教育観など自分の中の軸が定まったと感じました。そうして定まった軸がぶれずに教員採用試験に合格することができました。教育実習は、教育者として、人間としてまた一つ成長することができる機会だと考えます。

これから実習に行く方へ、実習では授業づくりや生徒との関わりなど苦労することがあるかもしれません。その時には、周りの方に頼りましょう。同じ実習生や担当教員、生徒の時にお世話になっていた先生など、あなたのことを支えてくれる方が必ずいます。頼ることは何も恥ずかしいことではないですし、むしろ頼ることができるのは何より強い心の支えです。自信を持って、実習に取り組んでください。



毎回の振り返りに使用していた実習日誌

最終日にいただいた寄せ書き

教育実習を終えて（英語）

新潟県立新潟江南高等学校　文学部英語英米文学科4年　山崎　愛弓

１．はじめに

私は、2024 年 5 月 20 日~6 月 7 日の 3 週間、母校である新潟県立新潟江南高等学校にて教育実習を行いました。

担当学年は 2 学年計 5 クラスで英語を教え、担当クラスでは HR、行事など、幅広い場面で関わらせていただきました。私が教育実習を通して感じたことについて書きたいと思います。

２．教育実習

自作のスライド、電子教科書、授業プリントを活用して授業を行い、毎回生徒から授業の改善点を 1 つフィードバックしてもらっていました。

指導教諭からは実践を積むことを勧められたため、実習 2 日目から教壇に立ち、授業を行いました。また、積極的に授業見学を行い、指導の技術を学び自分の授業に取り入れる努力をしました。見学を通じて参考にできる実例が身近にあったことで不安が軽減されただけでなく、他教科の授業を自由に見学できる貴重な機会を最大限に活用できたと感じています。

そして、授業方式に関して、私はトップダウン型の教授法にならないよう意識して授業を行いました。単元の導入時にプリントを用いた簡単な穴埋め問題を解いてもらい、単元の概要を把握できるよう工夫しました。この方法は特に長文読解で効果があり、生徒からも「わかりやすかった」という声を多くもらうことができました。

逆に、生徒が主体的に考える授業作りが課題であると感じました。導入部分で高まった生徒の意欲を、自分の説明中心の授業によって削いでしまうことがありました。特に、文法説明が中心となる授業では説明の時間が長くなりすぎてしまい、やるせなさを感じながら進めざるを得ない場面もありました。

また、生徒からのフィードバックで少数でしたが、「グループワークが苦手」という声がありました。個別学習や協働学習など、様々な学習形態を効果的に取り入れていくことが大切であることを学びました。

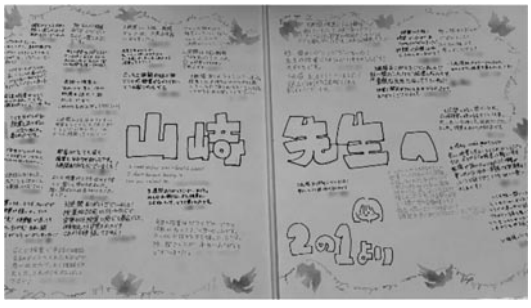
ICT の活用については、教師と生徒の間で意欲や取り組み方に差があると感じました。教師は電子黒板やデジタル教科書といった基本的なツールを積極的に使用している一方で、ロイロノートやジャムボードなど意見共有を促すツールの活用はあまり見られませんでした。一方で、生徒は ICT の使い方に長けており、時には私がその活用方法を教えてもらうこともありました。

授業で紙媒体でディベートを行った際には、生徒たちから想定以上に多様な意見が出たため、ICT のツールを活用してさらに意見共有を活発化すればよかったと後悔しました。しかしながら、ICT 活用が必ずしも適切に行われるわけではありません。英作文の時間には翻訳アプリを使う生徒もいました。ICT を使用する際には目的に応じて適切に使用する必要があると感じています。

３．教育実習を終えて

担任の先生が仰っていた「生徒にとって自分がどのような存在でありたいのか」という問いかけが、強く心に残りました。どのような生徒に成長してほしいのか、また規律を通じてどのようなクラスの雰囲気を作り上げたいのかを明確にし、教師自身が信念を持ってクラス運営に取り組むことの重要性に気づかされました。

卒業後も、自分のこれまでの知見や経験にとどまらず、常にその時々に起きている出来事や新たな環境から学びを得る姿勢を大切にしていきたいと思います。



４．おわりに

私にとってこの 3 週間は激動で、忙しい日々に心が折れかけたこともありました。しかし、つらい時こそ積極的に周りの人々から学ぶ姿勢を忘れないことが大切であると実感しました。

最後になりますが、何が失敗かはわかりません。色んなことに挑戦し、充実した教育実習にして下さい。応援しています。

教育実習を終えて（地理歴史）

秋田県立湯沢高等学校　文学部環境地理学科4年　奥州　航平

１．はじめに

私は令和６年５月27日から６月14日までの３週間、母校である秋田県立湯沢高等学校で教育実習を行いました。HRでは２年A組を担当、授業では第１学年の地理総合を２クラス、第２学年の地理探究を１クラス担当しました。そのほかにも授業見学や部活動、行事など様々な事柄に教員の立場から経験を積ませていただきました。以下では、３週間の実習での学びについて簡単にまとめます。

２．HR指導について

私は教育実習前の事前打ち合わせの段階で「教育実習は授業実習ではない」という指導教諭の言葉を受け、生徒と接する機会づくりを強く意識して行いました。とはいえ、実質的にクラスの生徒と関わる時間は朝と帰りのHRの時間に限られます。そのため、昼休みや清掃の時間帯に積極的にクラスに顔を出して生徒とのコミュニケーションの時間を取り、帰宅後には座席表をもとに生徒の名前や部活動などを覚え、生徒一人ひとりを知ることに努めました。この甲斐もあってか、生徒から積極的に声をかけてくれる機会も増え、授業中の反応なども格段に良くなりました。

文化祭準備の様子

このように、生徒一人ひとりと丁寧に接することは信頼関係の構築につながり、日頃からの指導に必ず良い影響が及びます。もちろん、実習中は授業準備に多くの時間が割かれますが、生徒と接する時間をつくることには大きな価値があると思います。

３．教壇実習について

大学での模擬授業も経験していましたが、実習では40人ほどの大人数を相手にしたため、はじめのうちの緊張感は大きかったです。普段とは異なる緊張感を感じる方は多いと思いますが、最初から完璧を求めすぎないことが重要だと感じました。クラスによって習熟度などの特徴は大きく異なり、たとえ高度な授業の型を作ったとしてもそれが全てのクラスに応用できるとは限りません。もちろん、入念な準備は怠ってはなりませんが、授業の改善点は生徒の表情や反応が一番よく教えてくれます。そのため、「生徒と一緒に授業を創り上げていく」というスタンスをもち、柔軟にそのクラスに適した授業を模索していくことが重要だと痛感しました。

野球部の生徒と

また、恐らく実習生の皆さんの多くは、活気のある授業をつくりたいと思うはずです。そこで僭越ではありますが、実習中に有効性を感じた「シンク・ペア・シェア」法をお薦めします。これは極めて基本的な技法ですが、これを授業中に繰り返すことで生徒が常に思考し、高いテンションを保ったまま授業を進められる特徴があります。加えて、あらかじめ意見をペアで共有することにより、生徒が安心して全体の前で意見を述べることができます。「活発に意見が飛び交う授業にしたい」「一方通行の授業を防ぎたい」という方はぜひ取り入れてみてください。

４．おわりに

実習中は辛いことも多いですが、それでもあっという間に感じる３週間です。この短い期間の間に得られるものは自分自身の行動で決まってくるため、まずは積極的に生徒や先生方とコミュニケーションをとるなど、「自分から動く」ということが大事だと思います。

また、教育実習が目前になると不安になる方も多いと思います。ただ、実習生が失敗することは当然ですし、恐らく指導教諭の方も多くの失敗から学んでほしいと思っているはずです。失敗した自分を素直に受け入れ、前向きに取り組む経験は今後の人生にも大きく生かされると思います。

最後になりますが、今後の皆さんの実習が実りあるものになりますように、心より応援しております。

教育実習を終えて（商業）

桐生市立商業高等学校　商学部マーケティング学科4年　小林　駿介

はじめに

私は、母校である群馬県の桐生市立商業高等学校で５月27日から６月７日の２週間、教育実習に行きました。ホームルームは１年６組で教壇実習も同じクラスで「簿記」を担当しました。

学校生活について

朝は８時ごろに出勤して８時半の打ち合わせまでに教材研究や授業準備をしていました。打ち合わせが終わると怒涛のように授業や教室移動が始まりあっという間に１日が終わって18時過ぎに退勤する毎日でした。

前半の１週間は授業の見学に行きました。商業の科目だけでなく、さまざまな教科、学年の授業を積極的に見学しました。空いているコマのほとんどを見学にあてて、不安のあった生徒との接し方や授業の組み立て方について見させていただきました。どの先生も生徒とのコミュニケーションを大切にしていて、小さな反応や発言を見逃さずに授業に取り入れて、クラス全体を巻き込んだ「生徒とつくる授業」を感じました。

授業準備や見学でクラスの生徒と関わる機会が少ないと感じたため、指導教諭の先生にお願いして、昼休みは教室で過ごすことにしました。最初は緊張していたり、よそよそしかった関係が、たくさん会話を重ねるにつれて、明るく話しかけてくれたり、冗談を交わしたりしてくれるようになりました。こうして信頼関係を気づいていくことで、授業やHRでの連絡事項の反応も大きく変わったので、授業作りにおいても生徒との関わりは重要であると感じました。

教壇実習について

１週目の後半から計６回教壇実習を行いました。１年生の最初の時期ということもあり、簿記の基礎的な知識を学習するため、会計的な考え方や取引の意味をイメージしやすい授業を心がけて授業準備に取り組みました。

初めての授業は大学の模擬授業で一度練習していたため、自信があったつもりでした。しかし、いざ教壇に立ってみると、生徒にとって難しい言葉を使っていたり、その反応の悪さに不安になり説明が冗長になってしまったりして、全く時間が足りなくなってしまいました。また科目の特性上だと半ば諦めて、講義の時間が多くなってしまい結果とても眠くさせてしまう授業になってしまいました。そこで指導教官の先生から、もっと生徒に任せて考えさせてもいいのではないかとアドバイスをいただいて、授業の半分を演習の時間にしてわからないところを生徒同士で教え合う授業展開にしました。そうすると、生徒は自分の言葉で相手に伝えたり、生徒の言葉でもう一度説明を受けたりと積極的に意見交換をすることができました。知識中心の内容こそ、生徒同士で話し合いながら学習することで、自ら考えながら対話的な学びをすることができると学びました。

最後の研究授業での板書

おわりに

教育実習の２週間は非常に刺激的な日々でした。実際の学校現場でしか得ることができない感動や発見が数多くありました。もちろん大変なことや辛いこともたくさんありました。しかし、自分が想いを持って向き合えば向き合うほど、生徒も先生方にも気持ちが伝わってそれに応えてくれます。これから実習を控えている皆さんも、教材研究や授業準備に多くの時間を費やさなければならないこととは思いますが、ぜひたくさん目の前の生徒と関わって感じたことを活かした学びや工夫をしてほしいと思います。最後に、お世話になってたくさんご協力いただいた先生方や生徒、教科教育法の先生に感謝します。

教育実習を終えて（情報）

神奈川県立横浜緑園高等学校　経営学部経営学科4年　上野　将希

１．はじめに

私は令和６年度６月10日から６月28日までの３週間、母校である神奈川県立横浜緑園高等学校で教育実習を行いました。教育実習は１年生が担当でしたので、１年生計３クラスでの教壇実習（情報Ⅰ、LHR）と、担当クラスの１年３組のSHR、部活動など、大学の学びだけでは得られないことを多く経験させていただきました。３週間の実習内容や体験を皆さんにお伝えしたいと思います。

２．教壇実習

実習の１週目は主に授業見学を行いました。情報の授業はもちろん、色んな教科、先生の授業を見学させていただきました。教科ごとに先生方の授業スタイルや工夫している点、学年やクラスの雰囲気などの違いに気づく事ができ、とても勉強になりました。

また実習が始まってから３日目に教科主任の先生の授業をお借りして、始めての教壇実習を行いました。事前の打ち合わせでは２週目から教壇実習をすることになっていましたが、２週目が三者面談期間と重なってしまって教壇実習の回数が少なくなってしまったため、急遽前日に授業をすることが決まりました。初めての教壇実習で慣れないこともありましたが、教科主任の先生の同じ範囲の授業を事前に見学できていたので、大きなミスをすることなく教壇実習を終えることができました。

次の教壇実習から自分で作った教材で授業をすることになりました。知的財産権に関する授業だったため覚えさせる語句が多く、またテストも近かったので語句の説明に時間をかけなければならない状況でしたので、一方的でつまらない授業にならないように例を多く用いるなど工夫をしました。下の写真は例の一つとして使ったものです。

研究授業は知的財産権の２回目の授業でした。前日に他のクラスで授業をして反応が良かったので自信満々で授業をしました。しかし前日の授業で盛り上がったところの反応が薄く、退屈そうにしている生徒が多かったため、納得のいく授業ができませんでした。研究授業には10人以上の先生が見学に来てくださったので、一人ひとりにアドバイスを聞きに行きました。どの先生からも親身なアドバイスをいただき、自分の授業の改善点を見つけることができたので、次の教壇実習の範囲では納得のいく授業ができました。このときに、授業をする上で特に大切なのは、①この授業で生徒に伝えたいことを明確にすること、②生徒自身で考えるような時間を作ることだと学ぶことができました。

著作権の例（上野作）

３．教育実習を終えて

３週間の実習を通じて、授業、HR、部活動など、さまざまな体験をさせていただきました。私は実習前に「イレギュラーが起きても堂々と冷静に対処する」という目標を立てました。教壇実習にはスライドが動かなくなるなどのハプニングがあっても冷静でいられたので目標は達成できたと感じています。しかしどの場面でも「メリハリ」を付けることが難しいと感じました。生徒に聞く姿勢（メリハリ）を付けさせる時、授業の中のメリハリ（授業の山場を作る）などです。この「メリハリ」は今後の課題になりました。

４．おわりに

教育実習について楽しみだと感じる人もいると思いますが、私は本当に不安で、実習前日は悪夢でうなされて深夜に飛び起きるほどでした。しかし蓋を開けてみれば、そんな不安と緊張などなかったかのように楽しく３週間を過ごす事ができました。もしこの文章を読んでいる方に、模擬授業でしごかれたりして、生徒を前に授業なんてできるのだろうかと不安になっている人もいるとしたら、安心してほしいです。模擬授業で得られたことは絶対に教育実習でも活かせます。大学で苦労した分だけ教育実習に活きるので、自信を持って教育実習に臨んでください。

また授業は教師が作るものではなく、生徒と協力して作っていくものだと感じました。生徒との関係を築けていれば、生徒は必ず授業に協力してくれます。生徒との信頼関係を築けるように、教育実習中は是非コミュニケーションを大切に過ごしてくれたらなと思います。

教育実習を終えて（数学）

神奈川県立元石川高等学校　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年　萩原　将文

１．はじめに

私は、母校である神奈川県立元石川高等学校で、６月３日から６月21日までの３週間の教育実習をさせて頂いた。担当HRは２年５組で、教壇実習の数学Ⅱでは２年生の３クラス、数学Bでは２年生２クラス合同の１クラスを担当した。また、部活動ではOBでもある競技かるた部の指導をさせて頂いた。ここでは、私が教育実習を通じて得たことや感じてことをまとめていく。

２．教科指導について

数学Ⅱについては３回×３クラス、数学Bについては３回×１クラスを担当し、合わせて12回の授業を行った。実習生の中では美術科を除くと一番少なく、人によっては30回ほど担当した人もいた。指導教諭の方からは自由にやっていいとの言葉をいただいたが、あまり特殊な形にはせず、生徒が混乱しないように指導教諭の授業を基本にした形で授業を行った。ただ、より多くの人に楽しんで授業を受けてもらえるよう、授業で使用するスライドでは有名アニメのキャラクターを用いて説明を行ったり、ゲームやクイズを通して数学的性質を理解してもらったりと、なるべく数学らしさを取っ払った授業にするよう心掛けていた。結果として生徒からの反応は前向きなものが多く、特に説明の面が他の先生方とは一風変わっているために「面白かった」「わかりやすかった」「苦手意識が薄れた」などの声があった。反対に、ここまで工夫しても数学が嫌いな人は全く目を向けてくれないこともあり、「クラス全員が取り組む授業」は少なくとも自分の実力では不可能だとも感じた。

３．学校行事・部活動について

実習期間中に体育祭があり、実習生は準備や片付けの他、種目を控えた生徒を整列させる招集係を担当した。ただ、台風の目のデモンストレーションを行ったり、部活動対抗リレーに「実習生」として参加したりと、ずっと裏方というわけではなかった。

部活動では自分が高校時代に所属していた競技かるた部の指導をさせていただいた。ただ、指導といっても自分よりも実力が高い部員がほとんどであったので、試合をする際は

体育祭デモの様子

負けることがほとんどであったが、人によって試合の戦略が違うことがほとんどの競技ということもあり、現役時代に取り組んでいた独特な戦略とその意図を教えることで、部員の経験値を上げることができたのではないかと思っている。

４．実習生同士について

今回は自分を含めて９人の実習生がおり、待機部屋では授業に向けた相談の他、雑談などをしていた。授業前には授業に向けてアドバイスをもらい、またお互いに見学をして意見交換をすることでよりよい授業づくりに向けた準備ができ、雑談をすることで実習中のストレスや疲労が大幅に軽減された。慣れない環境であるからこそ、実習仲間の存在がかなり大きく、３週間の厳しいスケジュールを乗り切れたのもその存在のおかげだと感じている。

５．まとめ

実習を通して、改めて教師の大変さを実感した。もちろん指導案のチェックなど、実習生だからこその業務もあったとはいえ、それでも総合的な仕事の量でいえば先生方の方が圧倒的に多いだろう。３週間の実習ですらハードなスケジュールだったが、これを先生方は何年も継続して行っているわけで、「教員のブラック化」なんてものが騒がれるのも至極当然のことである。しかし、もちろん悪い面だけではない。実習を通して生徒からの言葉でやりがいを感じられる面も多々あり、「頑張ってよかった」と何度も思えた。今のところ教師になる予定はないが、この実習のおかげで教師になることのメリットをいくつも感じられ、教師に対して尊敬の念の他、感謝の気持ちもより大きくなった。

教育実習を終えて（小学校）

いわき市立長倉小学校　文学部日本文学文化学科4年　根本　実空

１．はじめに

私は、令和６年10月21日から11月11日までの２週間、母校である福島県いわき市立長倉小学校で教育実習を行いました。元気いっぱいで人懐っこい、第１学年26名のクラスを担当しました。授業では、自分の専門である国語科に加えて図画工作科、道徳科、算数科、学級活動の授業を行いました。また、１日担任を務めることができ、有意義なひとときを過ごすことができました。

２．授業が勝負

教育実習で学んだことが二つあります。一つ目は、授業が勝負だということです。指導案を作成する段階では、児童達に身につけさせたい力を明確にすること、児童の興味・関心を高め、主体的な学びとなるための「問い」を引き出せるようにすること、児童が考えたり、表現したりする時間を確保すること、児童の考えを認め、積極的に評価することを考えて授業を構想しました。授業を行うと、発問に対しての児童の答えが、予想に反することがあり、戸惑いながらも実際の授業をやり遂げることができました。学習への支援を要する児童には、個に応じた言葉かけを行い、分かりやすく指導しました。学習内容を習得できない児童への支援をするにあたって、どうすればこの児童が分かることができるのかを考え、先生方の授業をお手本にして声かけをしました。授業は目の前の児童達を相手にしているので、指導案の計画通り進まないことがあると指導者から言われましたが、まさしくその通りだと実感することができました。

二つ目は、児童に自己肯定感を与えることが大切だということです。私が小学校教員になった時に実践したいと考えていることの一つに、学校に来ることが楽しいと思える学級づくりをしたいという思いがあります。具体的にどのように支援すれば楽しいと思えるのか。自己存在感を与えることも一つのポイントになることを学びました。そして、児童と思いっきり遊ぶ時間は、校庭で一緒に鬼ごっこをしたり、虫採りや鉄棒をしたりして遊んだり、お話をしました。こうした児童との交流を通して児童一人一人のことを深く知ることができます。しかし、その遊びによる児童との交流は、学校の日課表では、ごくわずかしかありません。すべての基盤は、授業になります。授業の中で、自己肯定感を養わなければなりません。例えば、授業中、Ａさんが間違った答えを発表しました。誤答でしたが、発表してくれたことが素晴らしいと褒め、正解が導かれたのは、Ａさんの意見があったからこそと皆の前で褒めて、自己肯定感を高めました。あらためて、自己肯定感を授業の中でも高めることが大切だということを学ぶことができました。

３．児童とのふれあい

私は、教育実習が毎日楽しくて仕方ありませんでした。児童たちのために授業を頑張ろうという気持ちが高まり、夜遅くまで教材研究をしていました。なんといっても、26名の児童達が、とても愛おしくて仕方ありませんでした。児童達から私に駆け寄ってきては、たくさんのお話を聞かせてくれました。今日食べた朝ご飯の話、好きなものの話など、いろいろな話をしました。私の似顔絵のプレゼントをもらった時には、とてもうれしい気持ちになりました。私が分からないことを聞くと、「実空先生、こうやるんだよ」とたくさんの児童達が寄ってきて、教えてくれました。時には、誰が教えるかでもめる場面もあり、順番にしようなどと声かけする時もあり、微笑ましく感じました。

小学校の先生は、授業をするだけでなく、休み時間に一緒に遊んだり、給食の準備から片付けまで一緒に行ったり、多くの時間を児童と過ごすことになります。児童の輝く笑顔が、とても印象に残りました。そして、児童たちとともにたくさんの楽しい時間を過ごした分、お別れはとても辛い時間でした。私との別れを児童達が惜しんでくれて、涙を流しながらのお別れでした。

４．おわりに

教育実習は、私にとって、かけがえのない思い出となりました。たくさんのことを児童達から学ぶことができました。改めて、小学校の教員になりたいと強く感じることができた実習でした。クラスの児童達と出逢えたことに感謝しています。児童たちへの愛情と情熱を持ちながら、４月から川崎市の小学校の教員として頑張っていきたいと思います。

介護等の体験を終えて

経済学部生活環境経済学科3年　戸井田　呂花

１．はじめに

私は、神奈川県立中原支援学校（令和６年６月６日から６月７日の２日間）とデイサービスセンターなごやか向ヶ丘遊園（令和６年９月２日から９月６日の５日間）にて介護等の体験をさせていただいた。前年度まで新型コロナウイルス感染症の影響により現場での介護等の体験が行われていなかったが、今年度から再開となった。本稿では、私が７日間の体験を通して学んだことや感じたことを記述していく。

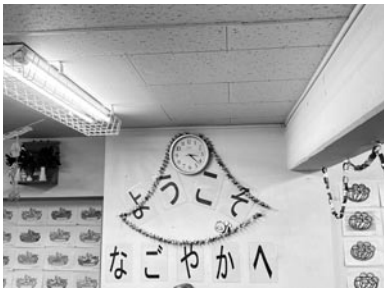
２．特別支援学校

私は、中学部１・２年生のクラスに配属された。中学部は肢体不自由の子たちが通っている。初めは、どのように子どもたちと接したらよいのか戸惑う場面が正直あった。話しかけても反応がなかったり伝わっているのか不安になったりというのは普段の生活ではない感覚であった。しかし、子どもたちの好きな遊びを一緒に行うことや笑顔でこちらから積極的に話しかけてみると次第に楽しそうにしているのが伝わってきた。

肢体不自由といっても、歩くことができるか、どの程度話すことができるかなど症状の重さは異なるためすべての作業を行う時に、一人一人の性格や行動、体の状態を教員が理解していることが必要であると学んだ。そして自分のクラスの生徒のみではなく、学校全体で教員が生徒一人一人についてきちんと把握しており何かあった時にすぐ対応できる状態であるのが普通学級より生徒に寄り添っていると感じた。また、肢体不自由の子たちは自分だけで動くというのが難しいため、必ず教員が一緒に行動をしてサポートをしていた。一方で、教員が勝手に判断するのではなく意思を確認して子ども自身に選択させ、一人でできること（例えばおもちゃの片付け等）は教員があえてやらないといった自立性を育みながら支援していることを学んだ。また、食事に関しても生徒一人一人の発達に合わせて種類が分けられていた。その他にも医療ケアについて学ぶ機会があり教育面のみならず幅広い知識を得ることが出来たと同時に特別支援学校の良さを知れた。

３．社会福祉施設

基本的な一日の流れとしては、ご利用者さんを迎え入れ、体操を行い、お昼ご飯の用意やコミュニケーションをとる等の交流をさせていただいた。お昼ご飯やおやつの用意の際には、お茶の種類や「とろみ」あり・なし等すべてのコップに名前をつけて分けていた。これは誤嚥性肺炎を起こさないようにするためや１日にとれる水分量が決まっている方がいるため一人一人に合わせて適切な方法で提供する必要があるからだと学んだ。会話をする際には同じ目線になり、声のトーンや速さを合わせることを心がけた。耳が聞こえにくい方は耳元で大きな声でゆっくり話すと会話もしやすく、ご利用者さんの方からもたくさんお話しをしてくださるようになったと感じた。また、認知症についての知識やここで行っている体操や遊びのもたらす効果について職員さんに教えていただいた。遊びでは記憶力を低下させないように、カラオケを取り入れていた。カラオケはケアプランの一部であり音楽療法というものであると学んだ。ご利用者さんが楽しみながら認知症を予防し、機能訓練をすることが出来るように工夫がされていた。



４．おわりに

普通学級においても外側から見てわからないだけで、支援が必要な子もいると思うためそういった子たちと接する際にも学んだことを生かせると思った。また、障害や体に不自由があるとかないとかは関係なく人と接する上でどのような関わり方をすべきなのかを体験を通して学ぶことができた。「教員になるのに介護等の体験をするは何故だろう」と思っている人もいると思うが、教員になるからこそ様々な人との関わり方から学ぶことは多くある。介護等の体験に対して不安は多くあったが体験を終えた今は楽しかった、色々な経験をさせていただけて良かったと強く思う。何を学ぶために介護等の体験に行くのか明確にして体験に臨むことが出来れば、とても充実した７日間になると思う。来年度から体験に行く方には、あくまでも、貴重な時間を使って介護等の体験をさせていただいているという気持ちを持って取り組んで欲しい。

教職公開講座に出席して

文学部歴史学科4年　椎名　絵梨子

１．はじめに

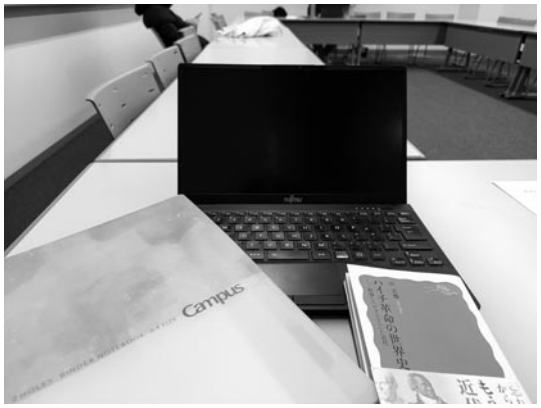
2019 年に発生した新型コロナウイルスの大流行は未曽有の大惨事を引き起こし、思いがけず教育現場の ICT 化を強く促進することとなった。私も教育実習で一人一台端末を実現した母校の様子を目の当たりにし、新しい学校の在り方について改めて考えるようになった。緊切な諸問題が顕在化し、めまぐるしく変化する現代社会において、教員はどのような役割を果たし、生徒に向き合っているのか。今回、現役教員の方の講演を通してその実情を知ることで、教員として働くための心構えができればと思い、教職公開講座に臨んだ。

２．先生方のお話を聞いて

私は社会・地理歴史・公民科の講演に出席した。講演者は中学の佐々木太耀先生と高校の櫻井ちひろ先生で、非常に興味深いお話をいただいた。特にそれぞれの環境や経験によって生み出された授業の工夫は、教育実習の前に知っておきたかったと思うほど参考になるものばかりであった。

佐々木先生からは、「レポートを作成させる際にはテーマを広く設定せず、何をまとめればよいのか要点を絞って指示する」「自信をもって発言できるよう、周囲との意見交換をさせた後に発表させる」「発問への生徒の答えに対して、さらに問いを投げかけて考えを深めさせる」といった工夫が示された。このように生徒の思考や積極性を活かし、本来の力を引き出すために細かな部分にも配慮するのは、教員の重要な役割であると感じた。

櫻井先生からは、ジェンダー史をテーマに授業を実践した際のお話があった。学習プリントも学習指導案もオリジナルに作成して、単元の最後には 400 字程度の小論文をまとめさせ、生徒から好評を博したという。このような試みは普段の授業から空気が変わり、生徒の興味をひけるだけではなく、教科書としての時代の区切りに囚われず、生徒に多様な歴史の捉え方を伝えられるという点でも優れていると考える。多忙な中で独自の授業計画を立てるのは大変だろうが、歴史学科から教員になるメリットでもあると思うので、私も将来挑戦してみたい。



また、最近の学校が抱える課題についてもお話があった。スマートフォンの低年齢層への普及や授業でのタブレット端末の使用にともない、学校で起きるトラブルの内容も変化してきているという。部活動も外部コーチとの連携や生徒との関わり方等、「働き方改革」の過渡期ならではの悩みを抱えながら試行錯誤していると分かった。自分の学生時代には想像できなかったような問題に、日々対処しなくてはならないことの難しさを改めて感じた。

第二部では、文京区の中学校で校長をされている齊藤正富先生よりご講演いただいた。管理職の立場からのお話は第一部とは違った視点や発見も多く、非常にためになるものであった。特に教員に求められる資質について、繰り返し「報告・連絡・相談」の必要性を強調されていたのが印象深かった。講演後に受講者から寄せられた質問へのご回答で、「スーパーティーチャーが一人いる学校よりも、普通に仕事ができる人が 3 人いる学校の方が、学校運営は円滑に進むと考えています」とあったこともあわせて、教員が人を頼り、チームとして働くことの重要さを感じた。

３．おわりに

教職公開講座を受講するのは今年が初めてであったが、実際の学校現場で活用できる知見や実践ばかりで、教職を志す者として貴重な機会を得られたと思う。社会の変化は教員にも大きく影響を与えているが、その波をより強く受けるのは将来を生きる子どもたちである。彼らにどのような力を身につけさせたいかを考えながら、生徒に向き合うことが重要であると感じた。

専修大学教育学会に出席して

法学部法律学科4年　赤﨑　日和

１．はじめに

インターネットが普及し、生活する上で必要不可欠な存在になったが、近年ではインターネットに加え、AIの技術や事業の展開が著しく発達している。教育においても、児童・生徒に対し一人一台端末の配布、高速大容量の通信ネットワークの整備によって教育ICT環境の実現を目指す「GIGAスクール構想」がコロナ禍によって急速に進んだ。しかし、体制は整えられたが、教員も児童・生徒も活用しきれていなかったり、学校教育に求められる範囲がさらに拡大し、教員の負担が増えたりなどの課題も山積みである。来年度から学校教育に携わる身として、教育の現状と求められる資質について知っておく必要があると感じ、今回は教える側の視点を持ちながら学会に参加した。

２．次の学習指導要領改訂に求められていること

学会の前半では、国立大学法人信州大学理事・事務局長の安彦広斉さんが、「次の学習指導要領に求められていること」について講演してくださった。教員はAIで代替されにくい職業の一つだが、代替しにくいということはAIが代わりにできる仕事が少なく、効率化が図れない、つまり働き方改革がされにくいのだという話が印象に残った。AIに奪われない職業は安定していて良いイメージを抱いていたが、反対に考えると仕事内容が複雑で簡略化することができにくいと捉えることもでき、教員の業務過多が解消されないのも非常に納得できた。

また、ICTの活用に関しては、世界的に見るとまだまだ活用しきれていないということを初めて知った。加えて、情報リテラシーが低いとそれに伴ってデジタル機器を使った学力も低下することに驚いた。確かに、最近はマスメディアの情報よりもSNSなどの不確かな情報の方が目にすることが多く、「情報を鵜呑みにしてはいけない」と学校や保護者から教わったとしても、「自分は大丈夫」と他人事に捉えてしまい、情報リテラシーが身につきにくいのではないかと感じた。

３．現職の先生方の実践と研究

学会の後半では、現職の先生方より学校現場での実践の発表に加え、クラス経営ついて教育学会の会員の方からアドバイスを頂く時間が設けられた。

竹本先生は、授業をする上で「分かりやすい授業が良い授業なのか」という問いを自身で立て、考えをアウトプットさせ、伝えることや単元を通して何を身に付けさせたいのかを意識したことで、考えたことを説明する力が身に付いたと感じる生徒が増えたと話された。その話を聞き、教員の教え方次第で生徒の教科に対する捉え方が変化することは責任が大きいが、その分やりがいも感じることができ、現職の先生方が常に追究している姿に感銘を受けた。

吉田先生からは、自身の授業に対する考え方の変化についてお話ししていただいた。「生徒が楽しめる授業」を目指し、はじめは内容よりも話す技術を重要視していたが、生徒に身近な話題や自分自身が楽しんで授業することで生徒にとって一番近い存在であることが自分の武器であることに気が付いたという話が印象に残った。

二井見先生からは、思い描く教員像について事例をもとにお話ししていただいた。教員も一人の人間であるため、生徒との関わり方や学級経営をしていく上で大切にしたいことは教員同士で異なる。加えて、生徒一人ひとりとの距離感のバランスも変わってくるため、トラブルを起こさないためにも「こうしてほしい」「こうしていこう」など、はじめに意思表示をしておくことが大切であることを学んだ。

４．おわりに

世の中の情勢が目まぐるしく変化する中で、教育も従来の学び方では社会に対応できなくなっている。教員の負担を減らそうと努めながら新しいことに挑戦し、対応していくことは非常に難しいことではあるが、やりがいを感じながら教員として活躍していきたいと学会に参加して強い意志を持つことができた。

教職総仕上げ「教職実践演習」

国際コミュニケーション学部日本語学科4年　足立　光

１．はじめに

教職実践演習とは、これまでに学んできた教職課程の科目、及び教育実習等の集大成として、４年次の後期に履修する授業です。私はこの授業を通して、様々な貴重な学びを得ることができました。これらの学びは、将来の教育者としての役割を果たす上で不可欠なものであり、教壇に立てる自信になりました。

２．授業を通して学んだこと

まず、授業での学びの一つは、教育における基本的な理論や原則についての深い理解です。授業では、教育学の基本的な概念や心理学の原理について学生同士でディスカッションをおこなう機会がありました。これにより、教育者としての役割や教育活動の目的、学生の発達段階に合わせた指導方法などについて、自分には無かった視点からも理解を深めることができました。

次に、授業を通じて実践的な経験を積むことができたことも大きな学びでした。例えば、教育現場での成果や課題、教材の作成や授業計画の立案など、実際の教育活動について、教職公開講座で教わった内容を他学部の学生と共有し、より現場を身近に感じることができました。また、グループで、模擬授業を実践する課題では、授業を受ける前後で受講者に変化が生まれるような目標を各グループが設定しました。テーマ決めから授業の展開を考える中で、限られた時間で生徒に変化を与えることの難しさを感じました。

さらに、コミュニケーション能力の重要性も授業を通じて理解することができました。教育者は、生徒や保護者、他の教員とのコミュニケーションが欠かせません。授業では、効果的なコミュニケーションの方法やコミュニケーションスキルを学ぶ機会がありました。特に、この授業では、グループ活動でアイスブレイクを実践したり、１つの紙に順番で意見を書き合ったり、積極的に他者と関わる機会があり、この経験から、他者との円滑な意思疎通や関係構築が可能となりました。

そして、教育者としての倫理や責任についての学びもありました。授業で倫理的な問題や困難な状況にどのように対処すべきかを議論する機会がありましたが、私が最も印象に残っているのは、教育実習を通して感じた「現在の学校に足りないと感じる要素」について、グループで意見を交わしたことです。これにより、教育の良心的な実践や公正な判断を行うことの重要性を認識し、生徒との関係を構築する上で不可欠な要素について理解することができました。

最後に、自己成長の重要性も学ぶことができました。授業では、教育実習の報告会を行うなかで、自己分析やフィードバックの受け取り方について学ぶ機会がありました。この活動によって、自己の強みや課題を把握し、持続的な成長を実現するための方法を学ぶことができました。昨年は、教科の指導法に関する授業が多かったため、他学部の学生との交流が少なかったのですが、この授業では学部の枠を超えて、授業に関するアドバイスをおこなったり、教育に関する知見を深めたりすることができました。

３．おわりに

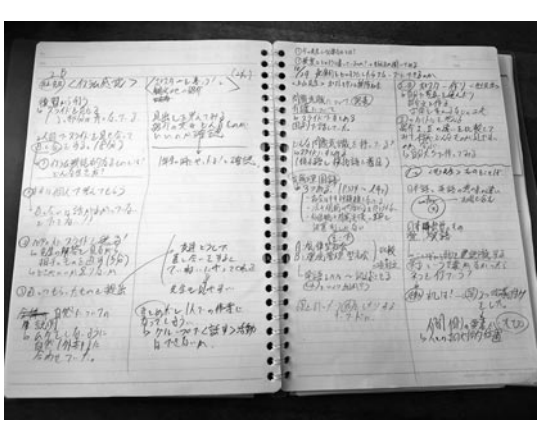
以上のように、教職実践演習を通じて、基本的な理論や実践的な経験、コミュニケーション能力、教育者としての倫理や責任、自己成長について学ぶことができました。森田司郎先生は授業の中で、「AI にはできない教員の役割とは何か」について度々、私たちに問いかけてくださいました。今後、教育現場を取り巻く環境の変化は、ますます加速していくだろうと思います。常に私たち人間にしかできない授業、指導とは何か、自分自身に問いながら励んでいきたいと思います。そして、日々成長を続ける児童、生徒と共に自分自身も成長していくことができるよう努めたいと思います。

教科研修生体験レポート

国際コミュニケーション学部日本語学科3年　河野　花香

９月の下旬から約２ヶ月間、国語科の研修生として高校１、２年生の「現代の国語」と高校３年生の「論理国語」の授業を専修大学附属高等学校で見学させていただきました。教育実習の前に、実際の教育現場の様子を知り、大学での模擬授業に生かしたいと言う思いで参加しました。今回の授業見学を通して、新たな発見や学びが数多くありました。今回は、その中から３つ報告させていただきます。

１つ目の学びは、生徒が主体的に学習に取り組む授業が多かったと言うことです。特に、「論理国語」の授業では、多くの場面でタブレットを活用し生徒がスライドを作る活動が行われていました。タブレットを用いての授業は、ネットに載っていることをそのまま写してしまったり、授業に全く関係のないものを見てしまうという懸念点があります。しかし、班の友達に発表をして、優秀な発表をクラスで選ぶという活動を通して、生徒たちは自ら課題について真剣に考え、文章を考えるだけでなく、スライドにイラストを描いたり画像を貼り付けたりなどの工夫をしていました。大学で行ってきた模擬授業では、生徒の様子が見やすい黒板やプリントを用いたシンプルな授業を行っていたため、ＩＣＴを最大限活用した授業展開が行われていて驚きました。また、「現代の国語」の授業では、観光地の紹介文を書く授業を行っていました。そこでも生徒たちが画像を探し、加工や写真をトリミングする工夫や、字体や字の色を見やすいものに変える工夫をしていて、見た人がその場所に行きたくなるようなパンフレット作りに励んでいました。先生は、書き方の説明や注意点を伝え、１時間の授業全て生徒が作業を行なうという日もありました。わからないことがあったときは、生徒同士で教え合い、よりよい作品を作ろうとする姿勢を見ることができました。



授業中にメモ書きしたノート

２つ目の学びは、様々な分野に興味を持つことが大切だということです。今回の研修でお世話になった先生に、これから先生になりたいと思っている学生に必要な力は何かと質問すると、評論や説明文の授業では国語の知識以外にも、地理や歴史の知識や理系の知識も必要となる場面が多いため、時間があるうちに沢山本を読んだり、情報を収集しておくことが大切だとおっしゃっていました。教員になってからは、なかなか調べものをする時間がなく、もっと深い学びを作れたらと思ったこともあると伺いました。

３つ目の学びは、教員には臨機応変に対応できる能力が必要だということです。今回の研修では、先生方のご配慮で全学年の授業を見学することができました。同じ学年でもクラスの雰囲気が全く異なり、２人組での活動だとあまり盛り上がらないため、グループでの活動が多いクラスもあれば、グループ活動をすると他の話に脱線してしまうため、２人組で話し合いの時間を取る事が多いクラスもありました。学年でも雰囲気が異なり、１年生は活発で、授業に積極的に手を挙げたり、私に元気に挨拶をしてくれたり、活動に混ぜてくれたりと明るい生徒たちが多く居ました。2、3 年生は１人で黙々と作業する子が多くグループ活動をするとあまり会話が白熱せず、設定していた時間よりも早く終わってしまうこともありました。しかし、作業の時間は喋らずに真剣に課題に取り組む生徒が多く居ました。授業の計画に沿って行うことも大切ですが、生徒たちが一番学びを深めやすい方法で、先生方が授業を進行されていて、改めて尊敬の念を抱きました。

今回、教科研修生としての授業見学では、大学で学んだこととは違う発見や学びが沢山あり、非常に貴重な経験になりました。この研修を通して学んだことを、教育実習やこれからの模擬授業に生かしていきたいです。

専修大学附属高等学校から

私立専修大学附属高等学校　教諭　平山　紀明

１．はじめに

私は令和６年度から専修大学附属高等学校の数学科教諭として勤務しています。大学卒業後、錦城高等学校、東洋高等学校で常勤講師として勤め現在に至ります。専大附属卒業生として８年ぶりに教員として戻ってきて、学校生活で感じたことについて述べたいと思います。

２．授業での実践

授業方法はほとんど板書で行ってきました。いわゆる、教科書・黒板・ノートを用いたシンプルな授業です。教員初年度は高校在学中の授業を真似てプリントを用いた授業を行いましたが、他のクラスとの授業進度を合わせることが難しく、教科書のみを用いた授業に切り替えました。また、iPad 等を利用する ICT 教育の環境が整っていなかったことも板書の授業に落ち着いた理由です。昨年度は生徒それぞれに端末が貸与されていたので、プロジェクターを利用した授業を行うことができました。ICT 教育の良さは板書に時間がとられないところです。その分机間巡視を行い、生徒の反応を吸収する時間を増やすことができます。さらに、生徒同士の話し合いの時間を設けたりするなど、様々な授業を展開できます。

授業方法は多岐にわたります。それぞれに良さがありますが、我々教員が考えることは生徒に合った授業は一体何かということです。現在私は、１学期の授業アンケートを踏まえてプリントを用いた授業にチャレンジしています。生徒の反応を柔軟に受け止め、それに対応していくことは、どの時代の教員にも必要とされるスキルだと考えます。

３．担任としての在り方

私の教育方針は「生徒自身で考えさせること」です。学校生活には授業や行事など様々な場面がありますが、生徒が自立しない限り目標の達成は不可能だと考えています。

行事においては、実行委員を中心に活動してもらっています。あくまでも自分は生徒の要望に応え、支える人間であるという考え方です。今回専修大学附属高校で開催されたいずみ祭でも準備の段階から本番まで実行委員に運営を任せました。ただ、１学期から夏休みにかけて多くの時間があったせいか、企画の構想や教室の内装・配置の計画が後回しになってしまい、実行委員から生徒への諸連絡が遅くなってしまうということがありました。円滑に行事準備を進めるためには、早い段階から教員と生徒の間で連絡を密にとることも考えないといけないなと反省しました。

学校生活においては、ルールの徹底をどのようにしていくかが課題です。学校としてチャイム着席や身だしなみの指導に重きを置いていますが、その当たり前をどのように生徒に自覚させるかに難しさを感じています。毎朝のホームルームでの声掛けや頭髪服装指導は前提で、気になる生徒に対して個別に声掛けをするなど様々な工夫が必要だと思います。生徒指導についてはもっと勉強していかなければと日々感じています。

４．部活動への関わり方

私は現在男女ソフトテニス部の顧問を務めております。私自身ソフトテニスの経験はないため、技術面の指導はできない状態です。しかしながら顧問として生徒と会話を重ね、体調やメンタルの状態を確認することが最低限やらなければいけない仕事だと感じています。公式戦等で気持ちよく試合に臨ませるにあたっての声掛け方法や試合中の鼓舞の仕方は、これから経験を積み重ねる中で勉強していこうと考えています。

５．最後に

教員として生徒と関わる場面は数多あります。どの場面でも共通して考えることは「この生徒をどのように成長させていこうか」ということです。それぞれの生徒にそれぞれの環境があり、その与えられた環境で生徒を最大限成長させ、輝かせるための方法を日々模索していく。それこそが教員に課せられた使命であると感じています。

司書・司書教諭・学校司書課程

図書館本館（生田キャンパス９号館）

現場経験を活かした「児童サービス論」授業の実践

経営学部　兼任講師　萬谷　ひとみ

１．はじめに

「児童サービス論」は、司書資格取得のために大学で履修する図書館に関する科目の一つです。私が司書資格を取得した際に、この授業がどのような内容だったのか思い出そうと、学生時代の資料を探しました。しかし、成績表を確認しても、「児童サービス論」という科目名は見当たりませんでした。その理由は、第１回目の授業資料を作成している中で明らかになりました。

1997 年に「児童サービス論」は必修科目となりましたが、私が大学に入学した 1992 年当時は、1968 年 4 月の図書館法改正により「児童に対する図書館奉仕」が外され、選択科目「青少年の読書と資料」となっていた時期だったのです。この時期に大学に通った司書たちは、「児童サービス論」を学ばずに現場に出た「空白の 28 年間」（※1）の一員とされていますが、私もその一人でした。この事実に気づいたとき、「こんなに頼りないままで大丈夫だろうか」と不安になりましたが、司書課程の先生方から「現場での経験を活かした授業を！」と励まされ、どうにか 15 回の授業を無事に終えることができました。

２．授業の概要

私は「空白の 28 年間」に該当する司書ですが、板橋区と新宿区の図書館で司書として働いた 23 年間の現場経験があります。この経験を活かし、まずは「人脈」を頼りました。これまで出会った方々の中に児童サービス論を教えている先生が多くおり、その方々からどのような授業をしているのかを聞くことから始めました。これが、私にとっての強みとなり、学生の皆さんに伝えるべき内容を決める一歩となりました。

もちろん、教科書や本を読めば多くの知識を得られます。しかし、私が経験してきた「社会に出て役立つこと」は本には載っていません。私には、今回の学生の皆さんと同年代の姪や甥がいます。彼らが今後社会に出て役立つことは何か、その視点で授業を組み立てました。

（1）読み聞かせ実践

私が児童サービスの担当になったのは、入職してすぐのことでした。まだ学生気分が抜けない中、最も困った仕事は「読み聞かせ」でした。本を読むのは好きでしたが、自身が読み聞かせをしてもらった記憶がほとんどなく、どのように読めばいいのか分かりませんでした。また、当時は子どもと接する機会が少なく、恥ずかしさもありました。

先輩司書に２～３回お手本を見せてもらいましたが、すぐに「来週からは一人でやってね」と任されました。当時、読み聞かせの方法を学べる本は今ほど充実していませんでした。幸い、毎週ボランティアの方が来てくださり、一緒に活動してくれたので、私は１冊だけ読むという状況でしたが、何度か行ううちに常連の子どもたちが来ていることに気づき、レパートリーを増やさなければ「またそのお話？」と言われることがわかりました。学生の皆さんには、私と同じ経験をしてほしくないと思い、全員に読み聞かせの実践をしてもらうことにしました。

学生数が 35 名だったため、３回に分けて全員が１冊ずつ読み聞かせを実践しました。最初の授業後のリアクションペーパーでは、本の選択、読むスピード、本の持ち方、ページのめくり方など「読み手」に関する心配事が多く寄せられましたが、その後の授業で「上手に読むことよりも、子どもに本を届けることが大切。読み手も聞き手も楽しいひとときを共有することが重要」と伝えたところ、「聞き手」に関するコメントが増えました。３回目の授業では、しかけ絵本も登場し、クラス全員で楽しい時間を過ごしました。

（2）味見読書体験

味見読書については、この授業で初めて知ったという学生が多く、「中高生の時にこれを知っていたら、全部読まなくても罪の意識を感じなかったのに」というコメントも多く寄せられました。

味見読書とは、本を全て読むのではなく、読みたい部分を５分だけ読み、合図があったら読むのをやめて記録し、次の本を選び、また５分読んで記録する、これを繰り返す読書方法です。普段読まない本に触れたり、読んでみたい本を見つけたりする機会を広げることを目的としています。

本来は教員が本を用意し、図書室で行うのが一般的です。しかし、この授業では、定型のやり方だけではなく、いろいろな方法があ

ることを体験してもらうこと、アレンジが可能であることを知ってもらうことが目的でしたので、学生１人が児童書５冊を持参するという方法で行いました。持参した全員分の本を教室の前に並べ、学生は気になる本を５分間読み、合図があったら記録して、次の本を選んで読みました。一人７冊程度の本に触れることができました。

持参してもらった本の傾向は文学が多かったのですが、文学が苦手な学生もいたため、結果的に様々なジャンルの本が集まりました。また、記録は「中高生にすすめたいか否か」で評価してもらうことにしました。90分の授業内で最も読まれ、評価が高かった本は、『月曜日の抹茶カフェ』（青山美智子，宝島社，2021年）でした。私自身はこの本を読んだことがありませんでしたが、この味見読書体験を通じて読みたい本を１冊見つけました。学生からのリアクションペーパーには、「続きが気になるので図書館に行ってきます」というコメントがあり、この授業でも楽しい時間を過ごすことができました。

（3）イベントの企画書作成

授業内試験では、児童サービスの課題について解答してもらい、その解答を基に課題を解決するためのイベントを企画する授業を３回に分けて行いました。１回目は個人ワークで課題の解決策を考え、企画書案を作成しました。２回目は、各自の企画案をグループ内で発表し、良かった企画やおもしろい企画を選び、３回目のグループ発表に向けたグループ討議を行い、企画を練り直してもらいました。そして最後の３回目にグループ発表を行いました。

グループワークの図

３回分の授業を使った理由は、実際の仕事では担当同士の討議が欠かせないからです。私が図書館で働いていた時、討議を苦手とする職員が多いと感じました。仕事は一人で行うものではなく、チームで行うものであり、一人で行う多くの作業は仕事ではなく単なる作業であることを学生に伝えたかったためです。

リアクションペーパーには「討論が苦手で、これまでグループワークのある授業を避けてきましたが、少しハードルが下がりました」というコメントがあり、この授業の意図が伝わったと感じました。

３．おわりに

イベント企画以外にも、ゴールデンウイーク明けの授業ではミニグループ討議と発表を行いました。また、支援が必要な子どもへのサービスの授業では、様々な資料に触れてもらいました。さらに、これまで私が見てきた図書館の素敵な事例を写真や動画で紹介しました。先に述べたように、たいていのことは本から学べますが、対面授業ならではの一期一会の機会を大切にし、座学では学べないことを取り入れました。

「前期授業に関する学生アンケート」には、「自分で解決策を考える機会があったので、知識を得るだけでなく実践的な授業であった」「グループワークが多く、様々な意見や考えを聞けたのが良かった」「図書館員以外の場所でも生かせることを学べた」「読み聞かせや企画立案など、実際の図書館員の仕事の一部を体験できた」などのコメントが寄せられました。また、最終授業の感想でも、私の思いが伝わったと感じました。初めての講義を通じて私自身も多くのことを学ぶことができました。

最後に、受講した皆さんが社会に出たとき、「あ、これか！」と思い出してくれることを願っています。

※1：日本図書館協会図書館情報学教育部会「大学において履修すべき図書館に関する科目」（案）に対する児童青少年委員会の意見
https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/jidou/iken.pdf

図書館実習を終えて

文学部日本文学文化学科3年　井出　美月

私は、９月３日から９月 13 日までの２週間のうちの８日間、長野県諏訪市図書館にて図書館実習を行いました。長野県諏訪市は私自身の地元でもあるため、幼い頃から利用していた馴染み深い図書館での実習となりました。

実習では、貸し出し、返却作業等のカウンター業務や新着本登録等の基本的な業務から、読み聞かせや市内学校司書連絡会の見学、展示コーナー作り等、幅広い業務に携わらせていただきました。一週目は主にカウンター業務、児童サービス等の業務を行いました。二週目は展示コーナーの作成、レファレンス実習等の業務を行いました。その中で、特に印象に残った出来事を三つ取り上げようと思います。

一つ目は、児童サービスに関する業務です。諏訪市図書館では毎月第 1，2，3 週の水曜日に、乳幼児向けの「きかんしゃぽっぽ」という読み聞かせのイベントが行われます。今回は、イベントで読まれる絵本のうち一冊を読み聞かせし、手あそび歌やパネルシアターでの歌を歌いました。読み聞かせについては、児童サービスの授業の中で学んでいて実践もしていましたが、姿勢を整え本が見えづらくならないように調整しながら読むのはとても難しく苦戦しました。本番はとても緊張しましたが、ボランティアの方や職員の方にアドバイスをいただいたおかげで、自信をもって読み聞かせをすることが出来ました。参加してくれた子供たちが真剣に聞いてくれていたのがとても嬉しかったです。そして、同日の午後には、諏訪市図書館近くの保健センターで行われた三歳児検診でのセカンドブックの配布に参加させていただきました。並んでいた本は自分も幼い頃に読んだことがあるものばかりで、選ばれ続ける本には理由があるのだと感じました。目を輝かせながら本を選んでいる子供たちを見て、これからも本を読むことを楽しんでほしいと心から思いました。また、子供たちが検診をしている間は、参加していた職員の方に諏訪地域の図書館のことや職員のことについての話を沢山聞くことが出来ました。

読み聞かせの様子

二つ目は、展示コーナー作りです。コーナーのテーマを決め、本を集め、POP を作成するまでの一連の作業をすべて一人で実施しました。テーマ決めにはとても苦戦しました。実習をした時期が秋だったということもあり、芸術をテーマにしたコーナーや、季節の変わり目という事もあり身体を休める方法のコーナーなどを考えていましたが、資料の収集が難しく、難航しました。そんな中、自分が好きな物語のジャンルをテーマにすることを思いつきました。そして、「心に寄り添う物語～人生のヒントをもらえる場所へ～」というテーマのもと、人生のヒントをくれる人や物が、登場人物の心を癒し、彼等自身の成長に繋がっていくような物語を集め、展示しました。自分が読んで元気や勇気を貰った本で、少しでも多くの方が自分のように何か得るものがあってほしいと思ったからです。コーナーを設置してから、自分の選んだ本が借りられているのを見ると、とても嬉しい気持ちになりました。

三つ目は、市内の学校図書館司書の間で行われた司書会に参加させていただいたことです。司書会の中では、改装された学校図書館を見学した感想や、近隣の学校図書館の現状等についてお聞きしました。また、諏訪市図書館側からは、学校ごとに LL ブックやマルチメディア DAISY ブックス等のバリアフリー本や、外国語図書を配布しました。特に外国語図書に関しては、それぞれの学校にいる外国籍の生徒の国籍に合わせたものを選びました。その際、バリアフリー本はまずはその存在を職員に知ってもらうのが良いということ、より多くの生徒に知ってもらうべきであること、扱いが難しいため目録を用意するのが良いという事をお聞きしました。見学を通して様々な小中学校の図書館の現状や課題を知ることができ、とても貴重な体験となりました。そして、周りにこういったことを共有し、相談が出来る司書仲間がいることはとても心強いだろうと感じました。

後日、配布した YA の外国語図書を受け取った外国籍の小学校中学年の生徒が、その本を見た瞬間満面の笑みを浮かべ、とても喜んでくれたとのお話をお聞きしました。その生徒は本を読みたいという気持ちはあったのに、言葉が分からず読書を楽しむことが出来ずにいたとのことでした。その話を聞いてとても嬉しい気持ちになったのと同時に、本の可能性や、楽しみたいと思う気持ちを大切にしていきたいと感じました。

この二週間で、実際に図書館で実習を行うことで、座学では知ることの出来ない貴重な体験をさせていただきました。図書館員の現状などについても学んだことで、今後の進路を考えるきっかけにもなりました。職員の方からも、様々なお話を聞くことができ、とても勉強になりました。また、小さい頃から利用していた馴染み深い図書館に施された工夫や知らなかったことを沢山知ることができ、とても良い機会になったと感じています。

最後になりましたが、お忙しい中貴重なお時間を使っていただいた諏訪市図書館の皆様に、心より感謝申し上げます。

卒業生から

西東京市図書館　司書　栁澤　奈月子（平成24年度文学部日本語日本文学科卒業）

はじめに

私は西東京市役所の司書職として採用され6年目になります。振り返ると司書課程の受講も司書への就職活動も軽い気持ちでスタートしたので皆さんにお伝えできることはあるのだろうかと思いつつ書いております。しかし、少しでも将来を考える糧としてもらえるなら幸いです。この「Passo a Passo」もバックナンバーが読めるようですので、色々な先輩のお話、参考にしてくださいね。

司書課程の受講

司書課程は友人が受講していたことや、元々“図書館”の空間が好きということもあり資格が取れるなら取ってみよう、という軽い気持ちで2年生から受講しました。職場の方からは、通学の司書講習や通信教育で司書資格を取得したという話も聞きます。今思うと単位取得も兼ねて受講できるという専修大学の制度は大変ありがたく、同じ専攻の仲間たちとも一緒に勉強できて励みとなっていました。また課程のなかで辞典類や検索ツールなどに多く触れたことにより「調べて知ること」が好きになり、調べ物の力も培われたように思います。

現在公共図書館で働くなかで、文学、植物やITなどの様々な分野について質問を受け、普段の私が手に取ることがないような分野の資料に出合うこと自体を面白いと思えるのは司書課程のおかげのように思います。そういえば、この年報のタイトル「Passo a Passo」、どういう意味か気になりますね。

就職活動･司書職の採用

就職活動を開始した頃は公共図書館が何十年ぶりかに正規の司書採用を再開し始めた頃で、選択肢の1つとして司書の採用試験を受けていました。結局、非常勤職で受けていた自治体より図書館での採用の声がかかり、図書館員として働き始めました。そこで働きつつ正規採用の就職活動を行っていましたが、好きな本に囲まれて勤務することが心地よく、「正規の司書として働きたい」という気持ちが次第に大きくなっていき、気づくと司書採用にのみに重点を置いていました。卒業から6年ほど遠回りになりましたが、最後は真剣に取組み、無事合格をいただきました。

カウンターから見た風景

公共図書館での司書としての仕事

資料の整備やカウンターでの業務は想像しやすいと思いますが、司書はそれ以外にも、講演会などのイベントの開催や出前授業、職場体験での中学生の受入れ、地域の資料の収集等々、多様な業務を皆で協力して行っています。赤ちゃんからご高齢の方まで、だれもが利用できるのが公共図書館ですので、多様なサービスが求められています。

その中で私が主に関わってきた図書館利用に障害がある方のためのサービス（ハンディキャップサービス）では、来館が難しい方の自宅や施設へ宅配で資料を届けたり、視覚障害等で活字文字を読むのが難しい方へ点字や音声資料などの提供を行ったりしています。近年「読書バリアフリー法」が成立するなどして世間の関心が高まっていますが、必要な利用者の方へ必要なサービスが届くように、日々勉強、模索しながらやっています。

大活字本の書架。大きい活字の本を並べています。

市内には図書館が6館あり、異動もあります。私の場合、最初の館は2年、次の館は3年、今年度から3館目の配属となりました。同じ市内の図書館でも館の規模や地域ごとの特色が違うので、新鮮な気持ちで働いています。

おわりに

自身の就職活動のタイミングと希望する司書募集があるタイミングは「運」の要素も大きいと思います。私の職場では、市の一般職採用で司書資格を持った方が、異動のなかで図書館に配属される場合もあり、司書・図書館員としての働き方は様々であるように思います。しかし、皆さんが本気で正規の司書になることを考えるなら、ぼんやりではなく、夢に向かって力強い一歩を踏み出すことを応援しています！私も研鑽を積み、一歩ずつ、頑張ります。

Knowledge Base（神田キャンパス 10 号館）

学芸員課程

展示実習室（生田キャンパス２号館）

埋蔵文化財センターの仕事

（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター　中嶋　友

１．はじめに

私は令和４年に修士課程を修了した後、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団に有期契約職員として就職し埋蔵文化財センターの配属となりました。その後、正規職員への転換試験を受け、令和６年４月から正規職員として勤務しています。埋蔵文化財センターは、美術館や博物館とは業務内容が少し異なり、発掘調査が主な業務です。しかし現場説明会や展示、広報誌などの普及啓発事業において発掘調査の成果を発表する機会が多く、その時に学芸員課程で学んだ知識を生かしています。本稿では埋蔵文化財センターの仕事の中でも、特に私が現在担当している業務についてご紹介したいと思います。

２．公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

まずは、埋蔵文化財センターも所属している横浜市ふるさと歴史財団についてご紹介いたします。現在、当財団は５つの施設の指定管理と３つの施設の管理運営委託を横浜市から受託しています。その設立は横浜市の歴史編纂事業及び埋蔵文化財の発掘調査事業と密接な関連があります。まず昭和29年（1954）に横浜開港百年を記念して横浜市史編集事業（第１期）が開始されました。第１期の「横浜市史編集事業」は、関東大震災の復興期（昭和初期）までを一区切りとしましたが、蓄積された資料を公開する施設として昭和56年（1981）に「横浜開港資料館」が開館し、その管理運営団体として「財団法人横浜開港資料普及協会」が設立されます。一方、昭和44年（1969）に「横浜市埋蔵文化財調査委員会」が発足、続く昭和45年（1970）には、港北ニュータウンの造成工事の本格化に伴い「港北ニュータウン埋蔵文化財調査団」が結成され、発掘調査が開始されました。また、この地域にのこる民俗や古民家の調査も行い、調査が進む中で考古資料館及び歴史博物館設立の市民要望が高まった結果、両者を一体化させた「歴史博物館」の開館を目指すことになりました。こうした経緯を経て、平成４年（1998）「歴史博物館」の開設準備ならびに既設の「三殿台考古館」、「八聖殿郷土資料館」、「埋蔵文化財センター」などを管理運営する団体として当財団が発足しました。平成７年（1995）に「横浜市歴史博物館」を開館し、平成10年（1998）には前述の「横浜開港資料普及協会」と統合され、平成15年（2003）には新たに開館した「横浜都市発展記念館」と「横浜ユーラシア文化館」の管理運営も受託することになりました。平成19年（2007）からはさらに、横浜市史資料保存活用業務も受託しています。

このような多様な分野の施設があることで、互いに協力し合うことができるのが、当財団の強みです。特に発掘調査ではさまざまな時代を対象とするため、文字資料のある時代を発掘調査する時は文献史学の視点から遺跡の性格を読み解くヒントを得ることもあります。

３．埋蔵文化財センター

（1）概要

埋蔵文化財センターは神奈川県横浜市栄区に所在しています。旧野七里小学校の校舎へ15年前に都筑区から移転してきました。移転前は港北ニュータウン地域内などの発掘調査で見つかった遺物が多く、様々な場所に分散保管されていましたが、それらを集約することができました。

さて、埋蔵文化財センターでは大きくわけて次の２つの業務を行っています。１つ目は、港北ニュータウン地域内の遺跡から出土した遺物や記録を整理し、その成果を市民や研究者の方々に報告・公開する業務です。港北ニュータウン地域内の発掘調査当時、野外での発掘作業を優先的に進める方針がとられたため、そこで残された膨大な量の遺物や記録を順々に整理、調査し報告書としてまとめる業務を実施しています。２つ目は市内で行われている発掘調査のうち、土地区画整理事業や道路・鉄道事業などの公共事業に伴って

遺跡展の展示解説（横浜市歴史博物館にて出張展示）

失われてしまう遺跡の発掘調査です。ここでは遺跡の発掘だけではなく、整理・報告作業までの一連の業務を実施しています。また、これらの業務のほかに遺跡見学会、遺跡展、講座、外部の展示会への遺物の貸し出し、講師の派遣など普及啓発に関わる業務も行っています。

（2）仕事の概要

私が主に担当している業務は、資料管理です。資料管理と言っても内容は多岐にわたります。特に毎年度半年間かけて行っているのは、出土品等の再整理です。港北ニュータウン地域内の遺跡の出土品等をより利用しやすくするための再整理業務です。現在再整理を行っている遺跡は報告書を刊行するために一度整理が行われましたが、それをデータベース上で検索できるようにし、貸し出しや熟覧をスムーズに行えるようにすることが目的です。また、経年劣化のため袋が破損していたり、現在主流となっているプラスチック製の収納箱ではなく木箱に入っていたりするものを新しく収納し直すことも同時に行っています。再整理以外では、民間の発掘調査会社や大学など、埋蔵文化財センター以外で発掘調査された遺跡の遺物や記録類の移管受け入れ、資料の熟覧・貸し出しの対応を行っています。

資料管理以外にも、発掘調査や現場説明会、小学校への出前授業、遺跡見学会の講師、広報紙の発行、エントランス展示の展示替えなどの業務もあります。

広報紙は、年２回発行する『埋文よこはま』があります。私は昨年度後半から担当することになりました。テーマや取り扱う遺跡など内容はほとんど担当者に委ねられますが、その分責任を感じる仕事です。まだまだ市内の遺跡について知らないことが多いので、先輩の職員や上司と相談し、市民の方に横浜の遺跡や埋蔵文化財センターの取り組みについて知ってもらう内容になるように工夫しています。広報紙作成を通して多くの遺跡に触れることができるので、毎回とても勉強になります。47 号は横浜市内の埴輪をテーマにしました。入れたい情報はたくさんありますが、入れすぎると読む人が疲れてしまいます。文字による情報は最小限に抑え、代わりにイラストで説明したり、実物を観察したくなるような情報を加えることで、実際に博物館や埋蔵文化財センターなどへ足を運んでもらえるように工夫しました。

広報誌「埋文よこはま」

エントランス展示では『真紅で彩る時代―弥生時代の舞岡熊之堂遺跡―』を企画しました。これは、埋蔵文化財センターが発掘調査した戸塚区舞岡熊之堂遺跡の展示です。この遺跡では縄文時代から近代まで幅広い時代の遺構と遺物が見つかりました。その中でも弥生時代の赤彩された土器の美しさや、土器からみた地域性を紹介したいと考え、このテーマを選びました。パネルやキャプションの文字の大きさや位置、土器の置き方など、学芸員課程の講義を思い出しつつ、お客様からの見え方を考えて構成しました。

４．おわりに

私が大学・大学院を通して研究していたのは古墳時代の竪穴建物に備え付けられるカマドでした。しかし、就職してみると横浜市内で発掘調査された旧石器時代から第二次世界大戦中の近代までの幅広い知識が求められます。特に横浜市では縄文時代と弥生時代の遺跡が多いため、就職してその時代の土器の勉強をイチから始めました。何事も基礎が大事だと痛感しています。様々なことを吸収できる環境にいる学生の時こそ、興味のある分野の基礎勉強をしておくことが重要だと思います。私は「学芸員」という肩書ではありませんが、学芸員課程で学んだことはいまの業務に生かされています。学芸員課程を履修されたみなさんが今後どのような職につかれたとしても、文化財の扱い方や資料の見せ方、見え方を学んだことは必ず役に立つことがあると思います。

博物館実習を終えて

箱根町立郷土資料館　文学部日本文学文化学科3年　村山　七海

私は 8 月 20 日から 30 日の期間に神奈川県箱根町にある箱根町立郷土資料館で実習を行いました。箱根町立郷土資料館は、箱根山の歴史や文化に関する考古、歴史、民俗の資料を取扱う人文系の、町民の文化の向上の助けとなる目的で建設された博物館です。

実習期間中は、各分野の概要や仕事内容について、資料を撮影し記録に残す作業、実際に展示を企画し、完成させるという実践的なことまで経験させていただきました。その中で印象的な出来事が 2 つあります。

1 つ目は、教育普及として館が行っているわらじ作りをする体験です。わらを柔らかくする作業から始め、担当の方に教わりながら実際にわらを編んでいきました。郷土資料館では地元の小中学校に出向いてわらじのつくり方を教えています。そしてわらじで箱根旧街道を歩くイベントも開催しています。現在はわらじを作って履いて歩く人はなかなかいないと思うので、「わらじ」というものがあったことを伝え、自ら体験してみる機会があるのはとても大切なことだと感じました。この体験から学校と博物館の連携の必要性を感じました。

作成したわらじ

2 つ目は、4 日間に渡る展示実習です。実習生主体となって展示計画から立てていきました。使う資料の制限はほとんどかけられていなかったため、たくさんあるうちの資料からテーマを決めて絞っていき、4 日間での作成が実現可能かどうかを判断するのに時間がかかりました。実習生の中で一度話がまとまった後は、職員の方々にプレゼンをしたのですが、「何を伝えたい展示なのか」が展示計画書には示されていなかったため、再び話し合いをして練り直しました。授業では展示はただ単に綺麗に見えるように並べているものではなく、メッセージ性のあるものだと学んでいて分かったつもりでいたのですが、いざ実際に展示をするとテーマ決め、資料選定、配置図作成など決めることはたくさんあり、一杯いっぱいになってしまって大切なことの確認を忘れてしまいました。やはり展示は見る人に何を「伝えたい」のかを明確にする必要があるのだと実感しました。実際に伝えたいことを全員で認識したことで、統一感が生まれたような気がしました。

パネルの作成をする筆者

展示の制作に入ると、ここでも「伝える」という意識が必要でした。文章の内容もそうですが、文字の大きさや文字数、パネルの大きさを調整すること、そして配置する際、見やすいような位置の高さを探す必要などがありました。この中で私が最も大変だと感じたのは、どう展示するか配置を決めることです。作成したパネルは 15 枚ほどあり、そのうちの 5 枚が関連したものになっていたのですが、それぞれ大きさが異なっていたのとあまりスペースが広くなかったため上手く組み合わせて、見た時に関連付けられるような配置にする必要がありました。視覚的情報のみで伝えたいことが伝わるようにするには、見る人の立場になって考えることがとても大切だと身に染みて感じました。

今回の実習を通して、私は色々な場面で「伝えること」を意識しました。資料の撮影をする時、調書を作成する時、注記をする時、展示作成の時など、見えない相手に特徴や注目点を伝えるためにはまず自分が理解している必要があるとひしひしと感じました。座学で勉強して分かったつもりでいても実際に体験してみると思うようにいかないことばかりで、とても勉強になりました。実習中、たくさんの資料に触れることができ、大学の授業だけでは体験できないことも経験することができたとても貴重な機会となりました。今回学んだことを生かして、今後の学びにつなげていきたいと思います。

博物館実習を終えて

東京大空襲・戦災資料センター　文学部歴史学科3年　小林　奎太

私は８月６日から25日の間で、計７日間に分けて、東京都江東区にある東京大空襲・戦災資料センターで博物館実習を行いました。東京大空襲・戦災資料センターは、1945年３月10日の東京大空襲について記録し資料を残していくことで平和な世界を構築することを目的とした民間博物館であり、空襲被害者やその遺族らの民間募金によって設立されました。そのなかでは、東京大空襲と空襲の歴史をテーマとして掲げ、防空と本土空襲についての資料を展示しています。また、戦時下に関する資料についても収集、保存、調査研究を行っており、展示や企画を通して戦争の惨禍と平和のメッセージを伝えています。

まず実習先を選ぶにあたって、私は歴史学科に所属し、そのなかでも考古学を専攻していることから、はじめは歴史学や考古学を主とした博物館を希望していました。しかし、希望館で落選してしまい新しく実習先を探さなければなりませんでした。そうした中で実習生の募集を行っていたのが東京大空襲・戦災資料センターで、もともと私自身が戦史に関心をもっていたこと、そして考古学の授業で戦跡考古学という分野について学んでいたことがあり、ここを実習先として選びました。

実習では、私を含め６人が実習生として参加しており、なかには日本文学や映像関係について学んでいる実習生もいました。お互いに不安はありましたが、各々の専門分野から展示などを考えて実習を行いました。実習内容としては、初日にガイダンスと館内の自由見学をしました。二日目以降は、座学をふまえた図書整理や資料整理実習を行い、さらには受付業務や夏企画の運営に携わるなど貴重な経験もさせていただきました。そして最終日には、実習生によるテーマ展示として、各自で決めたテーマについて調べ企画し、最後に展示製作を行いました。実習の中で特に印象に残ったのは、図書整理実習と夏企画の運営です。

まず図書整理実習では、センターに寄贈あるいは送付された書籍や雑誌などを、データベース化された目録に新しく登録する作業を行いました。目録は戦争体験記や写真集、文学、教育、戦争史などの22項目に分類されており、書籍を各項目にラベリングする作業もしました。しかし慣れない作業であったため、一つの書籍をどの項目に登録するのか分からなかったことがあり苦労をしましたが、担当学芸員さんから「私たち学芸員が本の探し方を知っていても、利用するお客さんが探し方を知らなければ意味が無い。そして、図書の位置や見え方も工夫する必要がある。」と教えてくださり、こうした資料を整理するのは学芸員の仕事ではありますが、それらを利用者が使いやすい様に提供することも学芸員の役目であることを学びました。

個別展示の制作風景

次に夏企画の運営では、空襲体験者から当時のお話を聴くという企画で司会進行を務めました。はじめは緊張しましたが、企画では小中学生や高校生など戦争を体験していない世代が多く参加していたため、当時の悲惨な状況を“もの”ではなく“ことば”でありのままを伝え、語り継いでいく必要があることを実感しました。とくに体験者からの「戦争を二度と繰り返してはいけない。」という言葉は心の中にとても響き、過去の出来事を未来へ受け継いでいくためには、学芸員が過去と未来の架け橋になる必要があると思いました。

夏企画での司会進行

最後になりますが、実習期間中は担当学芸員さんから何度も「学芸員は雑芸員である」と教えていただきました。実習を通して学芸員は資料の収集、保存、調査研究、そして展示を製作する以外にも、博物館で利用者が過ごしやすく学びやすい環境を整えるために、清掃からイベントの会場設営など、なんでもこなせる能力を持つことが重要であると思いました。今後は、今回の実習で得た知識と経験を糧に、学芸員資格取得に向けて精進していきたいと思います。

第3回学芸員課程セミナーに参加して「学芸員像への認識と最適なキャリアを考えるには」

文学部日本文学文化学科3年　松村　有里子

セミナーを通して私がまず感じたことは、世間一般の人が認識しているであろう学芸員像と実際に話を聞いた学芸員の姿が全く違う、ということである。世間には「雑芸員」などと称されているようだが、今までの講義からも、そして今日のお話からも「学芸員」は遥かに大変さとやりがいを併せ持っている職業だと確信出来る。そして学芸員への一番の難所は博物館への就職ではないか、とも思った。なぜなら、私はこれまで学芸員課程の講義を受講する中で、具体的に博物館で何をしているのか、という仕事内容や専門的な知識については学べていたが、実際に働くまでの過程は知らなかったのである。全員が求人に沿って応募し、いわゆる正社員のような形で就職出来るものだと考えていたのだが、卒業生の中根氏と山田氏のご講演を聞くと180度視点が変わった。誰しもが一般企業への就職のように半永年雇用の様な状態を新卒から作り上げることは厳しく、また、自分の専門に合致した博物館に勤めることも極めて困難であると知った。最後の質問で、「一般企業から学芸員に転向は出来るのか」とあり、回答で「募集は院卒求人が多く、ないこともないが困難」ということも知り、学芸員は一度博物館に就くことが出来れば人手の穴が空きづらく、逆に個人の博物館などが人手不足になる理由が分かったような気がした。

このような形を知って、始めのうちは学芸員になる道のりは全体的に不安定であると感じていた。しかしながら、幅広い知識や自分の興味のきっかけになる可能性に出会ってそれらを極めることが、今後のキャリアに繋がるとも考えられる。私は永年雇用や、一つの場所で長く働くことが学芸員の形であると考えていたので、中根氏と山田氏のキャリア年表を見てこのような働き方もある、と新しい視点を見つけることが出来た。お二方とも勤務されていた博物館の情報は、元々は専門外であっても専門家並みに話せる状態だと見受けられたし、学ぶ姿勢がそのまま次の場所でも活かされていると思った。確かに自分自身、実習に行った博物館について詳細に話すことが出来るので、結局重要なのは場所や雇用の関係よりも、どれだけ濃い内容の研鑽を積むかに加えて、今まで学んでこなかったことにも飛び込める知的好奇心が、最終的には自分の成長材料になるのだ、とお二人の話を聞いて改めて感じたことだった。

続いて、今日の講義で特に重要だと考えた部分が「人のつながりにより職を得た部分がある」と先生方が述べていたところで、改めて周りとの人間関係や日頃の自分の行いが見られていると知ったことである。私自身、実地での博物館実習を通して出来た人間関係の広がりは大きかったため、特に山田氏の紹介の話などは非常に共感できる部分が多かったし、たとえ学芸員に関連しないことでも一生懸命に取り組む姿勢は誰かに評価されて、チャンスになると学んだ。人とのつながりは対人コミュニケーションによって形成されるものであり、学芸員を志す人には欠かせない要素であると実習で知ったことに加えて、社会人として生きていくためにも対人関係の円滑さは求められる人間像である。学芸員を志すことは勿論、他の場面でも役立つ、一貫して必要な要素であると学んだ。

結論として、自分が今後どうなりたいのかに加えて日頃色々な分野に対しての興味を持っておくことで、考える分野が広がっていき将来的に最適なキャリアへ繋がる糧になる、と考えることが出来た。他の人のキャリアプランを聞くことで、一辺倒に偏らない自身の人生を見つめる契機にもなったし、「どこで働くか」だけではなく「その博物館でどう考えて何をするのか」という取り組み方の姿勢が学芸員を志すうえで大切なことである、と理解した。

講師　中根聖可氏

講師　山田兼一郎氏

データ編

2号館・3号館（奥）（生田キャンパス）

令和６年度　教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

令和６年５月１日　現在

区分	学部	学科	１年次	２年次	３年次	４年次	合計
一部	経済	経済	－	－	－	0	0
		現代経済	8	6	5	3	22
		生活環境経済	5	15	9	6	35
		国際経済	7	14	5	6	32
	法	法律	23	17	26	10	76
		政治	13	7	11	5	36
	経営	経営	14	14	10	2	40
	商	マーケティング	8	19	8	7	42
		会計	2	4	3	2	11
	文	日本語	－	－	－	0	0
		日本文学文化	18	17	14	14	63
		英語英米文	25	26	29	15	95
		哲	9	6	7	8	30
		歴史	45	46	32	30	153
		環境地理	6	13	3	6	28
		人文・ジャーナリズム	－	－	－	0	0
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	14	26	18	12	70
	人間科	心理	6	3	2	0	11
		社会	14	12	13	10	49
	国際コミュニケーション	日本語	1	11	22	14	48
	小計		218	256	217	150	841
二部	経済	経済	－	－	－	0	0
	法	法律	－	－	－	0	0
	商	マーケティング	－	－	－	0	0
	小計		－	－	－	0	0
合計			218	256	217	150	841
科目等履修生			－	－	－	－	5
大学院生			－	－	－	－	3
総合計			218	256	217	150	849

1　４年次には，５年次以上も含む。
2　経営学部ビジネスデザイン学科，文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は，履修できない。

司書課程

区分	学部	学科	１年次	２年次	３年次	４年次	合計
一部	経済	経済	－	－	－	0	0
		現代経済	0	2	2	0	4
		生活環境経済	0	1	0	1	2
		国際経済	0	0	1	0	1
	法	法律	0	2	1	2	5
		政治	0	3	1	0	4
	経営	経営	0	2	0	1	3
		ビジネスデザイン	0	0	1	1	2
	商	マーケティング	0	1	0	4	5
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	－	－	－	0	0
		日本文学文化	7	31	22	7	67
		英語英米文	0	5	1	1	7
		哲	0	8	3	5	16
		歴史	0	9	7	5	21
		環境地理	0	2	0	1	3
		人文・ジャーナリズム	－	－	－	0	0
		ジャーナリズム	0	5	10	5	20
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	2	3	3	8
	人間科	心理	0	1	3	2	6
		社会	2	4	4	5	15
	国際コミュニケーション	日本語	0	2	6	2	10
		異文化コミュニケーション	0	0	0	0	0
	小計		9	80	65	45	199
二部	経済	経済	－	－	－	0	0
	法	法律	－	－	－	0	0
	商	マーケティング	－	－	－	0	0
	小計		－	－	－	0	0
合計			9	80	65	45	199
科目等履修生			－	－	－	－	1
大学院生			－	－	－	－	0
総合計			9	80	65	45	200

1　４年次には，５年次以上も含む。

司書教諭課程

区分	学部	学科	１年次	２年次	３年次	４年次	合計
一部	経済	経済	－	－	－	0	0
		現代経済	0	1	1	0	2
		生活環境経済	0	2	1	0	3
		国際経済	0	0	0	0	0
	法	法律	0	1	1	0	2
		政治	0	0	1	0	1
	経営	経営	0	0	1	0	1
	商	マーケティング	0	0	0	0	0
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	－	－	－	0	0
		日本文学文化	1	13	6	1	21
		英語英米文	0	3	1	2	6
		哲	0	2	1	1	4
		歴史	0	8	2	1	11
		環境地理	0	0	0	0	0
		人文・ジャーナリズム	－	－	－	0	0
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	0	2	1	3
	人間科	心理	0	0	1	0	1
		社会	1	5	2	0	8
	国際コミュニケーション	日本語	0	0	3	2	5
	小計		2	35	23	8	68
二部	経済	経済	－	－	－	0	0
	法	法律	－	－	－	0	0
	商	マーケティング	－	－	－	0	0
	小計		－	－	－	0	0
合計			2	35	23	8	68
科目等履修生			－	－	－	－	1
大学院生			－	－	－	－	0
総合計			2	35	23	8	69

1　４年次には，５年次以上も含む。
2　経営学部ビジネスデザイン学科，文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は，履修できない。

学校司書課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	−	−	−	0	0
		現代経済	0	1	1	0	2
		生活環境経済	0	2	0	0	2
		国際経済	0	0	0	0	0
	法	法律	0	0	1	2	3
		政治	0	0	1	0	1
	経営	経営	0	0	0	0	0
		ビジネスデザイン	0	0	1	0	1
	商	マーケティング	0	1	0	0	1
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	−	−	−	0	0
		日本文学文化	0	18	13	0	31
		英語英米文	0	4	0	1	5
		哲	0	3	2	2	7
		歴史	0	5	2	1	8
		環境地理	0	0	0	0	0
		人文・ジャーナリズム	−	−	−	0	0
		ジャーナリズム	0	1	8	1	10
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	0	1	2	2	5
	人間科	心理	0	0	2	1	3
		社会	0	2	1	3	6
	国際コミュニケーション	日本語	0	0	1	3	4
		異文化コミュニケーション	0	0	0	0	0
	小計		0	38	35	16	89
二部	経済	経済	−	−	−	0	0
	法	法律	−	−	−	0	0
	商	マーケティング	−	−	−	0	0
	小計		−	−	−	0	0
合計			0	38	35	16	89
科目等履修生			−	−	−	−	2
大学院生			−	−	−	−	0
総合計			0	38	35	16	91

1　4年次には，5年次以上も含む。

学芸員課程

区分	学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一部	経済	経済	−	−	−	0	0
		現代経済	0	0	0	0	0
		生活環境経済	2	1	0	0	3
		国際経済	1	1	1	2	5
	法	法律	0	1	0	2	3
		政治	0	2	0	1	3
	経営	経営	0	1	0	0	1
		ビジネスデザイン	1	1	0	0	2
	商	マーケティング	0	1	0	0	1
		会計	0	0	0	0	0
	文	日本語	−	−	−	0	0
		日本文学文化	5	10	11	1	27
		英語英米文	0	0	3	0	3
		哲	3	6	3	0	12
		歴史	16	33	24	6	79
		環境地理	2	2	2	1	7
		人文・ジャーナリズム	−	−	−	0	0
		ジャーナリズム	3	3	6	1	13
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	2	0	0	0	2
	人間科	心理	4	4	0	0	8
		社会	2	2	3	1	8
	国際コミュニケーション	日本語	0	0	0	0	0
		異文化コミュニケーション	0	0	0	2	2
	小計		41	68	53	17	179
二部	経済	経済	−	−	−	0	0
	法	法律	−	−	−	0	0
	商	マーケティング	−	−	−	0	0
	小計		−	−	−	0	0
合計			41	68	53	17	179
科目等履修生			−	−	−	−	0
大学院生			−	−	−	−	1
総合計			41	68	53	17	180

1　4年次には，5年次以上も含む。

令和 6 年度　教育職員免許状取得件数

区分	学部	学科	取得人数	中学 1 種		高校 1 種		中学専修		高校専修		合計
				教科	件数	教科	件数	教科	件数	教科	件数	
一部	経済	経済	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
						商業	0					
		現代経済	3	社会	3	公民	3	−	−	−	−	6
		生活環境経済	5	社会	4	公民	5	−	−	−	−	9
		国際経済	4	社会	4	地理歴史	4	−	−	−	−	12
						公民	4					
						商業	0					
	法	法律	10	社会	9	地理歴史	8	−	−	−	−	25
						公民	8					
		政治	5	社会	5	地理歴史	5	−	−	−	−	15
						公民	5					
	経営	経営	2	社会	1	公民	1	−	−	−	−	4
						商業	1					
						情報	1					
	商	マーケティング	7	社会	5	地理歴史	0	−	−	−	−	14
						公民	4					
						商業	3					
						情報	2					
		会計	2	−	−	商業	2	−	−	−	−	2
	文	日本語	0	国語	0	国語	0	−	−	−	−	0
		日本文学文化	14	国語	12	国語	14	−	−	−	−	29
						書道	3					
		英語英米文	15	外国語(英語)	14	外国語(英語)	15	−	−	−	−	29
		哲	7	社会	5	地理歴史	6	−	−	−	−	16
						公民	5					
		歴史	31	社会	27	地理歴史	30	−	−	−	−	85
						公民	28					
		環境地理	6	社会	5	地理歴史	6	−	−	−	−	16
						公民	5					
		人文・ジャーナリズム	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	11	数学	10	数学	10	−	−	−	−	27
						情報	7					
	人間科	心理	0	社会	0	公民	0	−	−	−	−	0
		社会	10	社会	9	地理歴史	10	−	−	−	−	29
						公民	10					
	国際コミュニケーション	日本語	13	国語	13	国語	13	−	−	−	−	26
	小計		145	−	126	−	218	−	−	−	−	344
二部	経済	経済	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
						商業	0					
	法	法律	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
	商	マーケティング	0	社会	0	地理歴史	0	−	−	−	−	0
						公民	0					
						商業	0					
	小計		0	−	0	−	0	−	−	−	−	0
科目等履修生			5	国語	1	国語	2	−	−	−	−	11
						書道	0					
				外国語(英語)	1	外国語(英語)	1					
				社会	2	地理歴史	2					
						公民	2					
						商業	0					
						情報	0					
				数学	0	数学	0					
小計			5	−	4	−	7	−	−	−	−	11
大学院生			2	−	−	−	−	国語	0	国語	0	4
				−	−	−	−	外国語(英語)	0	外国語(英語)	0	
				−	−	−	−	社会	2	地理歴史	2	
										公民	0	
										商業	0	
										情報	0	
小計			2	−	−	−	−	−	2	−	2	4
合計			152	−	130	−	225	−	2	−	2	359

1　この表は，教員免許状一括申請をした数である。
2　経済学部経済学科の 2019 年度以降入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
3　経済学部国際経済学科の 2019 年度以降入学者は高等学校商業の免許状を取得できない。
4　商学部マーケティング学科の 2019 年度以降入学者は高等学校地理歴史の免許状を取得できない。

令和 6 年度　司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学部	学科	司書	司書教諭	学校司書	学芸員
一部	経済	経済	0	0	0	0
		現代経済	0	0	0	0
		生活環境経済	0	0	0	2
		国際経済	0	0	0	2
	法	法律	3	0	1	3
		政治	1	0	0	1
	経営	経営	2	0	0	0
		ビジネスデザイン	1	−	0	0
	商	マーケティング	3	0	0	0
		会計	0	0	0	0
	文	日本語	0	0	0	0
		日本文学文化	12	5	4	2
		英語英米文	1	1	0	0
		哲	7	1	2	3
		歴史	4	1	1	21
		環境地理	2	0	1	1
		人文・ジャーナリズム	0	0	0	0
		ジャーナリズム	8	−	4	2
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	1	1	0	0
	人間科	心理	4	0	1	0
		社会	6	0	5	2
	国際コミュニケーション	日本語	6	2	3	1
		異文化コミュニケーション	0	−	0	1
	小計		61	11	22	41
二部	経済	経済	0	0	0	0
	法	法律	0	0	0	0
	商	マーケティング	0	0	0	0
	小計		0	0	0	0
科目等履修生			0	0	1	0
大学院生			0	0	0	0
合計			61	11	23	41

令和６年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	青森県	十和田市立十和田中学校	社会	経済学研究科		経済学
	秋田県	秋田県立大館鳳鳴高等学校	公民	経済	生活環境経済	
	秋田県	秋田県立秋田高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	秋田県	大仙市立大曲中学校	英語	文	英語英米文	
	秋田県	秋田県立湯沢高等学校	地理歴史（地理）	文	環境地理	
	福島県	磐城緑蔭高等学校	国語・書道	文	日本文学文化	
	福島県	いわき市立長倉小学校	全科	文	日本文学文化	
	福島県	福島成蹊高等学校	地理歴史	文	歴史	
関東	茨城県	茨城県立古河中等教育学校	公民	文	歴史	
	茨城県	常陸太田市立世矢中学校	社会	文	歴史	
	栃木県	さくら市立氏家中学校	社会	経営	経営	
	栃木県	足利市立坂西中学校	国語	文	日本文学文化	
	群馬県	群馬県立伊勢崎高等学校	公民	経済	現代経済	
	群馬県	甘楽町立甘楽中学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	さいたま市立三橋中学校	社会	経済	生活環境経済	
	埼玉県	獨協埼玉中学高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	浦和学院高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	埼玉県立松山高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	埼玉県立松山高等学校	地理歴史（世界史）	文	哲	
	埼玉県	吉川市立南中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	さいたま市立浦和南高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立川越南高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立与野高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	さいたま市立大原中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	埼玉県立川口北高等学校	公民	人間科	社会	
	千葉県	船橋市立船橋中学校	社会	経済	現代経済	
	千葉県	昭和学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	千葉県立印旛明誠高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	芝浦工業大学柏中学高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	狛江市立狛江第一中学校	社会	経済	生活環境経済	
	東京都	町田市立堺中学校	社会	経済	生活環境経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立石神井高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立翔陽高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	江戸川区立松江第三中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	文教大学付属中学校・高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	品川女子学院高等部	社会・地理歴史・公民	文	哲	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	哲	
	東京都	安田学園高等学校	地理歴史	文	哲	
	東京都	東京都立成瀬高等学校	公民（倫理）	文	哲	
	東京都	二松学舎大学附属高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
関東	東京都	日野市立日野第一中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立田園調布高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立狛江高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	多摩大学目黒高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	足立区立第十二中学校	社会	文	歴史	
	東京都	帝京中学校・高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立石神井高等学校	地理歴史（日本史）	文	歴史	
	東京都	東京都立調布北高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	東京都	成城中学校・成城高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	東京都	八王子市立城山中学校	社会	文	環境地理	
	東京都	府中市立浅間中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	板橋区立板橋第二中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	東京都	佼成学園女子高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	東京都	東京都立神代高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	神奈川県	横浜市立万騎が原中学校	社会	経済	生活環境経済	
	神奈川県	海老名市立海老名中学校	社会	経済	生活環境経済	
	神奈川県	横浜市立みなと総合高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立座間総合高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	神奈川県	東海大学付属相模高等学校・中等部	社会・公民	経済	国際経済	
	神奈川県	横浜市立東高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立横浜緑園高等学校	情報	経営	経営	
	神奈川県	愛川町立愛川中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	大和市立大和中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大船高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	開成町立文命中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立川崎北高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	相模原市立相模丘中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立鶴嶺高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	小田原市立橘中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立綾瀬高等学校	公民	文	歴史	
	神奈川県	海老名市立上星小学校	全科	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立横須賀大津高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立横浜桜陽高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	武相中学・高等学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	川崎市立高津高等学校	地理歴史・公民	文	環境地理	
	神奈川県	川崎市立上作延小学校	全科	文	環境地理	
	神奈川県	相模原市立内出中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	厚木市立睦合中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立霧が丘高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	

データ編

令和６年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	向上高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立元石川高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	横浜市立万騎が原中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	関東学院六浦中学校・高等学校	社会・地理歴史・公民	人間科	社会	
	神奈川県	神奈川県立深沢高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	神奈川県	麻布大学附属高等学校	地理歴史・公民	人間科	社会	
	神奈川県	伊勢原市立中沢中学校	社会	人間科	社会	
甲信越	新潟県	長岡市立越路中学校	社会	経済	現代経済	
	新潟県	新潟市立東石山中学校	国語	文	日本文学文化	
	新潟県	新潟県立新潟江南高等学校	英語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟市立松浜中学校	社会	文	歴史	
	新潟県	新潟県立柏崎高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	長野県	長野県伊那北高等学校	地理歴史	文	哲	
	長野県	佐久長聖高等学校	地理歴史	文	歴史	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
甲信越	長野県	塩尻市立丘中学校	社会	文	歴史	
	長野県	長野県上田高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
東海	静岡県	藤枝明誠高等学校	公民	文	哲	
	静岡県	富士市立岳陽中学校	社会	文	歴史	
	静岡県	桐陽高等学校	地理歴史	文	歴史	
	静岡県	富士市立富士中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	静岡県	吉田町立吉田中学校	社会	人間科	社会	
	静岡県	静岡県立下田高等学校	地理歴史（歴史総合）	文学研究科		歴史学
	愛知県	豊橋市立豊岡中学校	国語	文	日本文学文化	
近畿	大阪府	熊取町立熊取北中学校	国語	文	日本文学文化	
中国	島根県	島根県立安来高等学校	地理歴史・公民	人間科	社会	
	山口県	山口県立柳井高等学校	地理歴史	文	環境地理	
沖縄	宮崎県	木城町立義務教育学校みどりの杜木城学園	英語	文	英語英米文	

令和６年度　教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	山形県	新庄東高等学校	地理歴史	法	法律
関東	茨城県	茨城高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	栃木県	大田原市立金田南中学校	社会	法	法律
	群馬県	前橋育英高等学校	地理歴史	法	政治
	群馬県	群馬県立前橋女子高等学校	情報	商	マーケティング
	群馬県	桐生市立商業高等学校	商業	商	マーケティング
	埼玉県	桶川市立桶川西中学校	社会	法	法律
	埼玉県	武南高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	戸田市立笹目中学校	社会	商	マーケティング
	埼玉県	埼玉県立深谷商業高等学校	商業	商	会計
	埼玉県	深谷市立幡羅中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	埼玉県	新座市立第五中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	埼玉県	埼玉栄中学校	社会	科目等履修生	
	千葉県	千葉県立薬園台高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	商	マーケティング
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	商	マーケティング
	千葉県	成田市立玉造中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	千葉県	柏市立南部中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	千葉県	千葉県立薬園台高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	東京都	大妻中学高等学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京高等学校	地理歴史	法	政治
	東京都	昭和第一学園高等学校	地理歴史	法	政治
	東京都	上野学園中学校・高等学校	社会	法	政治
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	東京都	江東区立深川第二中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	海老名市立海西中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	神奈川県	横須賀市立神明中学校	国語	科目等履修生	
北陸	石川県	野々市市立布水中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
甲信越	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	マーケティング
	長野県	長野県須坂創成高等学校	商業	商	会計
中国	鳥取県	米子市立美保中学校	社会	法	法律
四国	香川県	高松市立高松第一中学校	国語	国際コミュニケーション	日本語
	愛媛県	西予市立宇和中学校	英語	科目等履修生	
九州・沖縄	福岡県	福岡県立八女高等学校	公民	法	政治
	福岡県	東福岡高等学校	国語	科目等履修生	
	熊本県	専修大学熊本玉名高等学校	公民	商	マーケティング
	熊本県	高森町立高森東学園義務教育学校	国語	国際コミュニケーション	日本語

令和６年度　図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	栃木県	宇都宮市立中央図書館	文	日本文学文化	
	東京都	東大和市立中央図書館	人間科	社会	
	神奈川県	秦野市立図書館	文	日本文学文化	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
甲信越	長野県	諏訪市図書館	文	日本文学文化	
東海	静岡県	菊川市立小笠図書館	文	ジャーナリズム	

令和６年度　博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道・東北	宮城県	東北歴史博物館	文	英語英米文	
	福島県	白河市歴史民俗資料館	文	歴史	
関東	茨城県	古河歴史博物館	文	英語英米文	
	茨城県	日立市郷土博物館	文	歴史	
	栃木県	那須塩原市那須野が原博物館	文	歴史	
	群馬県	群馬県立自然史博物館	文	歴史	
	群馬県	群馬県立館林美術館	人間科	社会	
	埼玉県	さいたま市立博物館	文	歴史	
	埼玉県	春日部市郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文	日本文学文化	
	千葉県	流山市立博物館	文	歴史	
	東京都	郵政博物館	文	日本文学文化	
	東京都	昭和のくらし博物館	文	日本文学文化	
	東京都	日本カメラ博物館	文	哲	
	東京都	杉並区立郷土博物館	文	歴史	
	東京都	東京大空襲・戦災資料センター	文	歴史	
	東京都	古代オリエント博物館	文	歴史	
	東京都	町田市立国際版画美術館	文	歴史	
	東京都	江東区中川船番所資料館	文	歴史	
	東京都	たばこと塩の博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
	東京都	民音音楽博物館	文	歴史	
	東京都	八王子市郷土資料館	文	環境地理	
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	ジャーナリズム	
	東京都	府中市美術館	文	ジャーナリズム	
	東京都	青梅きもの博物館	人間科	社会	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	科学技術館	国際コミュニケーション	異文化コミュニケーション	
	神奈川県	神奈川県立大船フラワーセンター	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大船フラワーセンター	文	日本文学文化	
	神奈川県	はだの歴史博物館	文	日本文学文化	
	神奈川県	三溪園	文	日本文学文化	
	神奈川県	箱根町立郷土資料館	文	日本文学文化	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	英語英米文	
	神奈川県	雪印こどもの国牧場	文	哲	
	神奈川県	神奈川県立大船フラワーセンター	文	歴史	
	神奈川県	理科ハウス	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	歴史	
	神奈川県	シルク博物館	文	歴史	
	神奈川県	横浜市八聖殿郷土資料館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	環境地理	
	神奈川県	はまぎんこども宇宙科学館	文	ジャーナリズム	
	神奈川県	日本新聞博物館	文	ジャーナリズム	
	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	文学研究科		歴史学
甲信越	新潟県	新潟県立植物園	文	歴史	
	新潟県	新潟県立自然科学館	文	歴史	
	長野県	丸山晩霞記念館	文	日本文学文化	
北陸	石川県	石川県ふれあい昆虫館	文	歴史	
	福井県	御食国若狭おばま食文化館	文	ジャーナリズム	
東海	愛知県	博物館明治村	文	歴史	
近畿	兵庫県	市立伊丹ミュージアム	文	歴史	
九州・沖縄	佐賀県	有田町歴史民俗資料館	文	ジャーナリズム	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和2年度	令2 経済・経済	長崎県立島原特別支援学校	非常勤	特別支援
	令2 経済・経済	川崎市立生田中学校	常勤	特別支援
	令2 経済・国際経済	神奈川県立茅ケ崎西浜高等学校	非常勤	地理歴史
	平27 法・法律	山梨県立わかば支援学校	専任	特別支援
	平30 法・法律	牛久市立ひたち野うしく中学校	専任	社会
	平30 法・法律	あきる野市立増戸小学校	専任	全科
	令2 法・法律	熊谷市立三尻中学校	臨時的任用	社会
	令2 法・法律	焼津市立小川中学校	非常勤	社会
	平29 法・政治	東京都立紅葉川高等学校	専任	地理歴史
	令2 経営・経営	学校法人佼成学園（佼成学園女子中学高等学校）	専任	情報
	平29 商・マーケティング	宮城県松島高等学校	専任	商業
	平30 商・マーケティング	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	川崎市立菅中学校	専任	社会
	令2 商・マーケティング	学校法人荒井学園（新川高等学校）	常勤	公民
	令2 商・マーケティング	山梨県立富士北稜高等学校	常勤	商業
	令2 商・マーケティング	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校）	非常勤	商業
	令2 商・マーケティング	横浜市立いずみ野中学校	臨時的任用	特別支援
	平31 商・会計	高知県立大方高等学校	専任	商業
	令2 商・会計	千葉県立千葉商業高等学校	専任	商業
	令2 商・会計	埼玉県立幸手桜高等学校	専任	商業
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立秦野総合高等学校	専任	保健体育
	令2 文・日本語	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
	令2 文・日本語	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非常勤	国語
	令2 文・日本語	川崎市立川崎高等学校	臨時的任用	国語
	令2 文・日本語	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学校・高等学校）	常勤	国語
	令2 文・日本語	四街道市立四街道中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	学校法人柏木学園（柏木学園高等学校）	常勤	国語
	令2 文・日本文学文化	横浜市立東山田中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	牧之原市立榛原中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	神奈川県立秦野曽屋高等学校	専任	国語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専任	英語
	令2 文・英語英米文	八王子市立川口中学校	臨時的任用	英語
	令2 文・英語英米文	学校法人愛国学園（愛国高等学校）	専任	英語
	令2 文・英語英米文	八王子市立宮上中学校	専任	英語
	令2 文・英語英米文	静岡県立御殿場高等学校	常勤	英語
	令2 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	常勤	英語
	平30 文・歴史	習志野市立第二中学校	専任	社会
	平30 文・歴史	神奈川県立厚木商業高等学校	専任	地理歴史
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	専任	特別支援
	令2 文・歴史	学校法人沖永学園（帝京八王子中学校・高等学校）	専任	社会・地理歴史・公民
	令2 文・歴史	学校法人國學院大學（國學院大學久我山中学高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	令2 文・歴史	富岡市立吉田小学校	常勤	全科
	令2 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属静岡翔洋高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令2 文・歴史	学校法人角川ドワンゴ学園（N高等学校）	専任	地理歴史・公民
	令2 文・歴史	川島町立川島中学校	臨時的任用	社会
	令2 文・歴史	裾野市立西中学校	常勤	社会
	令2 文・歴史	千葉市立小中台中学校	非常勤	特別支援
	令2 文・歴史	千葉県立若松高等学校	常勤	地理歴史
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立赤堀中学校	専任	社会
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	専任	全科
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	株式会社ウィザス （第一学院高等学校）	常勤	情報
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	臨時的任用	数学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田東高等学校	非常勤	情報
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立総合科学高等学校（定時制）	臨時的任用	数学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	魚沼市立魚沼北中学校	常勤	数学
	平30 院文・修士	会津若松市立第五中学校	専任	英語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
令和3年度	平29 経済・経済	神奈川県立白山高等学校	専任	地理歴史
	平31 経済・経済	横須賀市立粟田小学校	専任	全科
	平31 経済・経済	目黒区立油面小学校	専任	全科
	令2 経済・経済	鹿嶋市立大野中学校	専任	社会
	令3 経済・経済	学校法人上田学園（上田西高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令3 経済・経済	川崎市立枡形中学校	専任	社会
	令3 経済・経済	川崎市立はるひ野小学校	専任	全科
	令3 経済・経済	盛岡市立仙北中学校	専任	社会
	令3 経済・経済	山梨県立上野原高等学校	非常勤（実習助手）	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来きずな高等学校　神戸キャンパス）	常勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人明泉学園 （鶴川高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令3 経済・国際経済	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平17 法・法律	神奈川県立津久井養護学校	専任	特別支援
	平31 法・法律	神奈川県立永谷高等学校	専任	地理歴史
	令3 法・法律	千葉県立京葉工業高等学校	専任	地理歴史・公民
	令3 経営・経営	学校法人足利大学（足利大学附属高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	平27 商・マーケティング	岐阜県立郡上北高等学校	専任	商業
	令3 商・マーケティング	静岡市立末広中学校	常勤	社会
	令3 商・マーケティング	学校法人時任学園 （樟南第二高等学校）	常勤	商業
	令2 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園中学校・高等学校）	常勤	国語
	令3 文・日本語	藤沢市立御所見中学校	臨時的任用	国語
	令3 文・日本語	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校 ）	常勤	国語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和3年度	令3 文・日本語	秩父市立高篠中学校	専任	国語
	令3 文・日本語	学校法人明徳学園（相洋高等学校）	非常勤	国語
	令3 文・日本語	岡谷市立岡谷西部中学校	常勤	国語
	令3 文・日本語	長野県茅野高等学校	専任	国語
	令3 文・日本語	鴨川市立安房東中学校	専任	国語
	平31 文・日本文学文化	筑西市立下館南中学校	専任	国語
	令2 文・日本文学文化	大阪市立加美中学校	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立橘中学校	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	東京都教育委員会	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	横浜市立東高等学校	専任	国語
	令3 文・日本文学文化	町田市立南中学校	産休代替	国語
	平30 文・英語英米文	学校法人山形電波学園（創学館高等学校）	常勤	英語
	令2 文・英語英米文	目黒区立第七中学校	専任	英語
	令3 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専任	英語
	令3 文・英語英米文	小金井市立南中学校	専任	英語
	令3 文・英語英米文	学校法人向上学園（向上高等学校）	常勤	英語
	令3 文・英語英米文	埼玉県立上尾橘高等学校	非常勤	英語
	平30 文・哲	相模原市立田名小学校	専任	全科
	平31 文・哲	神奈川県立大和西高等学校	専任	地理歴史・公民
	平28 文・歴史	東京都立井草高等学校	専任	地理歴史
	平30 文・歴史	杉並区立泉南中学校	専任	社会
	平31 文・歴史	佐倉市立西志津中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	学校法人土佐女子高等学校（土佐女子中学高等学校）	常勤	社会・地理歴史
	令3 文・歴史	網走市立第一中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	山形県立遊佐高等学校	常勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	学校法人明泉学園 （鶴川高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令3 文・歴史	板橋区立西台中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	上越市立八千浦中学校	専任	社会
	令3 文・歴史	学校法人早稲田学園（わせがく高等学校 勝田台キャンパス）	常勤	地理歴史
	令3 文・歴史	大田区立赤松小学校	その他（教員支援員）	
	令3 文・歴史	八王子市立鑓水中学校	産休代替	社会
	令3 文・歴史	学校法人矢野学園（八王子実践高等学校）	非常勤	地理歴史
	令3 文・環境地理	青森県立北斗高等学校	非常勤	地理歴史・公民
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	富士吉田市立富士見台中学校	専任	数学
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横須賀市立岩戸中学校	非常勤	特別支援
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	平塚市立大住中学校	臨時的任用	数学・特別支援
	令3 人間科・社会	大田区立田園調布小学校	その他（学校特別支援員）	
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	常勤	社会
	令3 人間科・社会	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史・公民
	令3 人間科・社会	島田市立六合中学校	常勤	社会
	平27 院文・修士	学校法人ＮＨＫ学園（ＮＨＫ学園高等学校）	非常勤	公民
	平29 院文・修士	学校法人堀井学園（横浜翠陵中学・高等学校）	常勤	英語
	平31 院文・修士	小金井市立緑中学校	専任	英語
	平29 院文・博士	学校法人昭和学院（昭和学院秀英高等学校）	専任	地理歴史
令和4年度	令4 経済・経済	品川区立日野学園	専任	社会
	令4 経済・経済	相模原市立くぬぎ台小学校	常勤	全科
	平28 経済・国際経済	江戸川区立南篠崎小学校	専任	全科
	令2 経済・国際経済	神奈川県立住吉高等学校	専任	地理歴史
	平28 法・法律	茨城県立多賀高等学校	専任	地理歴史・公民
	令4 法・法律	綾瀬市立綾瀬中学校	臨時的任用	社会
	令4 法・法律	あきる野市立五日市中学校	専任	社会
	令4 法・政治	七ヶ浜町立向洋中学校	常勤	社会
	令4 経営・経営	山形県立天童高等学校	専任	商業
	令2 商・マーケティング	横須賀市立鴨居中学校	常勤	国語
	令3 商・マーケティング	静岡市立清水第七中学校	専任	社会
	令4 商・マーケティング	浦添市立浦添中学校	非常勤	社会
	令4 商・マーケティング	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校　札幌キャンパス）	常勤	公民
	令4 商・会計	静岡県立浜松東高等学校	常勤	商業
	令4 商・会計	神奈川県立厚木商業高等学校	期限付	商業
	令2 文・日本語	神奈川県立岸根高等学校	専任	国語
	令4 文・日本語	鎌倉市立御成中学校	常勤	国語
	令4 文・日本語	学校法人上野塾（東京高等学校）	非常勤	国語
	令4 文・日本語	神奈川県立鶴見高等学校	専任	国語
	令4 文・日本語	学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	専任	国語
	令4 文・日本語	学校法人有明学園（有明高等学校）	常勤	国語
	令4 文・日本語	習志野市立第四中学校	臨時的任用	国語
	令3 文・日本文学文化	八王子市立中山中学校	専任	国語
	令4 文・日本文学文化	富岡市立西中学校	期限付	国語
	令4 文・日本文学文化	平塚市立神田中学校	常勤	国語
	令4 文・日本文学文化	神奈川県立藤沢清流高等学校	非常勤	国語
	令4 文・日本文学文化	山形県立新庄北高等学校	常勤	国語
	令4 文・日本文学文化	埼玉県立草加かがやき特別支援学校中学部	臨時的任用	国語(全科)
	令4 文・日本文学文化	横浜市立日吉台中学校	専任	国語
	令2 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常勤	英語
	令3 文・英語英米文	埼玉県立鳩ケ谷高等学校	専任	英語
	令4 文・英語英米文	前橋市立城東小学校	専任	英語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	英語
	令4 文・英語英米文	高崎市立箕輪小学校	専任	全科

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和4年度	令4 文・英語英米文	神奈川県立鶴見総合高等学校	専任	英語
	令4 文・英語英米文	鎌ケ谷市立第三中学校	専任	英語
	令2 文・哲	柏崎市立田尻小学校	臨時的任用	音楽・書写
	令4 文・哲	海老名市立柏ケ谷中学校	臨時的任用	特別支援（社会）
	令2 文・歴史	神奈川県立西湘高等学校	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	神奈川県立新羽高等学校	常勤	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	東京都立蒲田高等学校	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	諏訪市立上諏訪中学校	常勤	社会
	令4 文・歴史	学校法人湘南学院（湘南学院高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	埼玉県立羽生高等学校	常勤	地理歴史
	令4 文・歴史	千葉県立市川昴高等学校	専任	地理歴史・公民
	令4 文・歴史	御殿場市立御殿場中学校	常勤	社会
	令4 文・歴史	学校法人関東学園（関東学園大学附属高等学校）	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	神奈川県立田奈高等学校	専任	地理歴史・公民
	令2 文・環境地理	柏崎市立第一中学校	専任	社会
	令4 文・環境地理	学校法人堀井学園（横浜創英中学・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	令4 文・人文・ジャーナリズム	学校法人西海学園（西海学園高等学校）	期限付	地理歴史・公民
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立高津高等学校	専任	数学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立愛川高等学校	専任	情報
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田高等学校	専任	数学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立舞岡高等学校	専任	情報
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立南瀬谷中学校	期限付	数学
	令3 人間科・社会	相模原市立旭中学校	専任	社会
	令4 人間科・社会	横浜市立神奈川中学校	臨時的任用	社会
	令4 人間科・社会	土浦市立都和中学校	専任	社会
	平24 院文・修士	学校法人駒澤大学（駒澤大学高等学校）	専任	地理歴史
	令2 院文・修士	千葉県立我孫子東高等学校	専任	英語
	令4 院文・修士	学校法人鳥取学園（鳥取城北高等学校）	常勤	国語
令和5年度	平31 経済・経済	神奈川県立保土ケ谷支援学校	専任	特別支援
	令3 経済・経済	東京都立山崎高等学校	専任	公民
	令4 経済・経済	学校法人宇都宮海星学園（星の杜中学校高等学校）	常勤	保健体育
	令5 経済・経済	福島県立喜多方桐桜高等学校	常勤	公民
	令5 経済・経済	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校　池袋キャンパス）	常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	学校法人君津学園（市原中央高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	静岡市立西奈小学校	専任	全科
	令5 経済・経済	学校法人金剛学園　（桜林高等学校）	非常勤	地理歴史・公民
	令5 経済・経済	学校法人静岡理工科大学（星陵高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	平31 経済・国際経済	石川県立明和特別支援学校	専任	特別支援
	平25 法・法律	日野市立三沢中学校	専任	社会
	平27 法・法律	札幌市立西岡小学校	専任	特別支援・全科
	令5 法・法律	神奈川県立上矢部高等学校	期限付	地理歴史・公民
	令5 法・法律	松阪市立西中学校	専任	社会
	令5 法・法律	学校法人八洲学園（八洲学園高等学校　池袋キャンパス）	常勤	地理歴史
	令5 法・法律	神奈川県立伊勢原高等学校	専任	地理歴史
	令5 経営・経営	高知市立一宮中学校	臨時的任用	社会・特別支援
	令5 経営・経営	群馬県立二葉高等特別支援学校	専任	特別支援
	令5 商・マーケティング	山形県立米沢商業高等学校	専任	商業
	令5 商・マーケティング	千葉県立君津商業高等学校	専任	商業
	令5 商・マーケティング	静岡県立伊豆伊東高等学校	専任	商業
	令5 文・日本語	神奈川県立茅ケ崎高等学校	専任	国語
	令5 文・日本語	座間市立栗原中学校	専任	国語
	令5 文・日本語	世田谷区立駒留中学校	産休代替	国語
	令5 文・日本語	秦野市立南中学校	専任	国語
	令5 文・日本語	大分市立滝尾中学校	専任	国語
	令5 文・日本語	東京都立五日市高等学校	専任	国語
	令5 文・日本語	神奈川県立大和東高等学校	専任	国語
	令5 文・日本文学文化	川崎市立菅生中学校	期限付	国語
	令5 文・英語英米文	神奈川県立上溝南高等学校	専任	英語
	令5 文・英語英米文	大和市立上和田中学校	期限付	英語
	令5 文・英語英米文	練馬区立光が丘第三中学校	専任	英語
	令5 文・英語英米文	狛江市立狛江第三中学校	専任	英語・特別支援
	令5 文・哲	埼玉県立豊岡高等学校	常勤	地理歴史
	令2 文・歴史	前橋市立桃瀬小学校	専任	社会
	令3 文・歴史	下野市立国分寺中学校	専任	社会
	令4 文・歴史	神奈川県立上鶴間高等学校	専任	地理歴史
	令4 文・歴史	埼玉県立久喜高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・歴史	春日部市立緑中学校	期限付	社会
	令5 文・歴史	横浜市立浜中学校	非常勤	社会
	令5 文・歴史	学校法人長戸路学園（敬愛大学八日市場高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令5 文・歴史	埼玉県立川越西高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・歴史	大田区立蓮沼中学校	専任	社会・特別支援
	令5 文・歴史	ひたちなか市立田彦中学校	専任	社会
	令5 文・歴史	川崎市立東橘中学校	非常勤	社会
	令5 文・歴史	横須賀市立鴨居中学校	専任	社会
	令5 文・歴史	横浜市立仲尾台中学校	常勤	社会
	令5 文・環境地理	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	専任	地理歴史
	令5 文・環境地理	長野県中野西高等学校	常勤	地理歴史
	令5 文・環境地理	鎌倉市立大船中学校	非常勤	社会
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	専任	数学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	専任	数学
	令3 ネットワーク情報・ネットワーク情報	寒川町立旭が丘中学校	専任	数学
	令4 ネットワーク情報・ネットワーク情報	横浜市立万騎が原中学校	専任	数学

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
令和5年度	令5 ネットワーク情報・ネットワーク情報	町田市立町田第二中学校	専任	数学
	平29 人間科・社会	多摩市立落合中学校	専任	社会
	令3 人間科・社会	東京都立矢口特別支援学校	専任	特別支援・社会
	令3 人間科・社会	柏崎市立北条小学校	専任	全科
	令5 人間科・社会	厚木市立南毛利中学校	常勤	社会
	令5 院文・修士	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非常勤	地理歴史
令和6年度	平29 経済・経済	宮城県仙台第二高等学校	専任	地理
	令5 経済・経済	学校法人武陽学園（西武台高等学校）	常勤	地理歴史・公民
	令6 経済・現代経済	長野県中野西高等学校	期限付	公民
	令6 経済・現代経済	世田谷区立東深沢中学校	非常勤	社会
	令6 経済・現代経済	横浜市立緑小学校	専任	全科
	令6 経済・生活環境経済	座間市立南中学校	常勤	社会
	令6 経済・国際経済	山口県立田布施総合支援学校	常勤	地理歴史・公民
	令6 経済・国際経済	千葉市立千草台東小学校	常勤	全科
	令6 法・法律	さいたま市立尾間木小学校	期限付	全科
	令6 法・法律	学校法人日本工業大学（日本工業大学駒場中学・高等学校）	非常勤	社会公民
	令6 法・法律	西東京市立保谷中学校	非常勤	社会
	令6 法・政治	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）	常勤	社会・地理歴史・公民
	令6 経営・経営	学校法人水城高等学校（水城高等学校）	常勤	公民
	令2 商・マーケティング	小笠原村立母島中学校	専任	英語
	令6 商・マーケティング	栃木県立栃木商業高等学校	常勤	商業
	令6 商・マーケティング	茨城県立古河第一高等学校	専任	商業
	令6 商・会計	福島県立小高産業技術高等学校	専任	商業
	令6 文・日本文学文化	神奈川県立元石川高等学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	埼玉県立川越初雁高等学校	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	小平市立花小金井南中学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人岩尾昭和学園（昭和学園高等学校）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人三幸学園（飛鳥未来高等学校　名古屋キャンパス）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	石川県白山市立鶴来中学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	葛飾区立葛見中学校	専任	国語
	令6 文・日本文学文化	川崎市立南生田中学校	期限付	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人稲葉学園（稲葉学園高等学校）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人北上学園（専修大学北上高等学校）	常勤	国語
	令6 文・日本文学文化	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非常勤	国語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	専任	英語
	令4 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	専任	英語
	令5 文・英語英米文	大和市立つきみ野中学校	専任	英語
	令6 文・英語英米文	東京都立忍岡高等学校	専任	英語
	令6 文・英語英米文	神奈川県立厚木北高等学校	専任	英語
	令6 文・英語英米文	多摩市立青陵中学校	専任	英語
	平30 文・哲	東京都立水元小合学園	専任	特別支援
	令6 文・哲	学校法人日本体育大学（日本体育大学柏高等学校）	非常勤	地理歴史
	令6 文・哲	日立市立豊浦中学校	期限付	社会
	令6 文・歴史	神奈川県立津久井高等学校	非常勤	地理歴史・公民
	令6 文・歴史	千葉県立東金高等学校	専任	地理歴史・公民
	令6 文・歴史	学校法人東洋高等学校（東洋高等学校）	常勤	地理歴史
	令6 文・歴史	八王子市立椚田中学校	専任	社会
	令6 文・歴史	秦野市立北中学校	専任	社会
	令6 文・歴史	唐津市立浜玉中学校	専任	社会
	令6 文・歴史	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	専任	地理歴史
	令6 文・歴史	学校法人東京聖徳学園（光英 Veritas 中学校・高等学校）	常勤	社会地理・歴史
	令6 文・歴史	池田町立高瀬中学校	常勤	社会
	令5 文・環境地理	長野県赤穂高等学校	専任	地理歴史・公民
	令6 文・環境地理	学校法人角川ドワンゴ学園（N 高等学校・S 高等学校　沖縄伊計本校）	専任	地理歴史・公民
	令6 文・環境地理	坂祝町立坂祝中学校	常勤	社会
	令6 文・環境地理	さいたま市立道祖土小学校	常勤	全科
	令6 ネットワーク情報・ネットワーク情報	新潟県立新潟工業高等学校	常勤	情報
	令6 ネットワーク情報・ネットワーク情報	羽村市立羽村第三中学校	期限付	数学
	令6 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立住吉中学校	臨時的任用	数学
	令6 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立桶川西高等学校	専任	数学
	令6 人間科・心理	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非常勤	公民
	令6 人間科・心理	仙台市立幸町中学校	常勤	社会
	令6 人間科・社会	川崎市立王禅寺中央小学校	専任	全科
	令6 国際コミュニケーション・日本語	江東区立有明中学校	専任	国語
	令6 国際コミュニケーション・日本語	世田谷区立玉川中学校	育休代替	国語
	令6 国際コミュニケーション・日本語	杉並区立高井戸第二小学校	専任	全科
	令6 国際コミュニケーション・日本語	学校法人 湘南工科大学（湘南工科大学附属高等学校）	非常勤	国語
	令6 国際コミュニケーション・日本語	相模原市立上鶴間中学校	専任	国語
	令6 国際コミュニケーション・日本語	神奈川県立上溝高等学校	非常勤	国語
	令6 国際コミュニケーション・日本語	東京都立中央ろう学校	専任	国語
	令6 国際コミュニケーション・日本語	埼玉県立羽生実業高等学校	専任	国語
	令6 国際コミュニケーション・日本語	町田市立南成瀬中学校	専任	国語
	平29 院文・修士	学校法人大谷学園（秀英高等学校）	常勤	英語
	令5 院文・修士	品川区立伊藤学園	専任	社会
	令6 院文・博士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非常勤	国語
	令6 院文・修士	東京都立富士森高等学校	専任	地理歴史
	令6 院文・修士	静岡市立東中学校	常勤	社会
	令6 院文・修士	東京共育学園高等部	常勤	特別支援

1　就職先・職名・教科は、ご本人からの申し出により記載しています。

司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤務先	
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学付属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	埼玉県立高等学校図書館
武蔵大学図書館	国士舘大学鶴川図書館
東京大学法学部図書館	追手門学院大学附属図書館
日外アソシエーツ（株）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
見附市立図書館（新潟県）	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
ドルトン東京学園中等部・高等部ラーニングコモンズ	神奈川県立高等学校図書館
女子栄養大学図書館	横須賀市立中央図書館
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	（株）三省堂書店
東京医科大学図書館	神奈川県立図書館
杉並区中央図書館（東京都）	江東区立亀戸図書館
横浜市立図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
キハラ（株）	法政大学多摩図書館
専修大学図書館	西東京市立図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤務先	
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館　福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
ＭＯＡ美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
坂戸市立歴史民俗資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	国士舘大学国士舘史資料室
島根県教育委員会文化財課	横須賀市自然・人文博物館
深谷市教育委員会	千葉県教育庁教育振興部文化財課
（公財）横浜市ふるさと歴史財団	たましん歴史・美術館　歴史資料室
（公財）石川県埋蔵文化財センター	市原市教育委員会文化財課

令和６年度　資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程 学校司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次
4月	上旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※一部３月 前期・通年科目履修登録および履修修正（全学年）							
		介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
		実習希望校との内諾交渉	3						
	中旬	介護等の体験事前講習会	3・4						
	下旬	教育実習事前ガイダンス	4						
5月	上旬	教育実習 （4月～11月）	4						
	中旬	介護等の体験開始 （5月中旬～2月中旬）	3・4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
	下旬							博物館実習（館務実習） （5月～12月）	3・4
6月	上旬	教育実習登録ガイダンス	3					博物館見学実習	3・4
		教育実習内諾書の提出	3						
	下旬	教員免許状一括申請 ガイダンス	4			司書教諭修了証書申請ガイダンス（３年次までに司書教諭の単位をすべて修得した者）	4		
7月	上旬			図書館実習事前ガイダンス	3・4				
	下旬	前期試験（全学年）							
8月	上旬	夏期休暇（8月上旬～9月中旬）							
	下旬	前期追試験（全学年）							
				図書館実習 （8月～2月）	3・4				
9月	中旬	後期科目履修登録および履修修正（全学年）							
	下旬	教員免許状授与申請書確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書申請ガイダンス（4年次で司書教諭の科目を履修した者）	4	館務実習登録ガイダンス （第１回）	2・3
10月	上旬	教職公開講座（オンライン）	1～4						
11月	上旬							館務実習登録ガイダンス （第２回）	2・3
	下旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	下旬							学芸員課程セミナー	
1月	下旬			図書館実習報告会（オンライン）	1～4				
				司書課程就職（進路）懇談会（オンライン）	1～4				
				学校司書課程講演会・受講説明会（オンライン）	1～4				
		後期試験（全学年）							
2月	中旬	後期追試験（全学年）							
								館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4						

令和６年度　教職相談実施結果

1. 実施期間

令和６年４月～令和７年１月

2. 実施日・担当者

場　所	担 当 者	相　談　日（４月～８月）	相　談　日（９月～１月）
生　田	肝付　俊朗	月曜日　12:30～14:30	―
		火曜日　10:45～12:00	火曜日　10:45～12:00
		金曜日　12:00～14:00	金曜日　12:00～14:00
	齋藤　博志	月曜日　11:30～13:00	月曜日　11:00～13:00
神　田	肝付　俊朗	水曜日　12:00～14:00	―
オンライン		―	月曜日　12:00～14:00
		―	水曜日　12:00～14:00
	嶺井　正也	希望者と相談の上決定	希望者と相談の上決定

3. 実施結果

（1）肝付　俊朗　文学部特任教授、齋藤　博志　商学部客員教授

①月別曜日別相談者数

場　所	曜日＼月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	合 計
生　田	月曜日	10	14	10	16	1	4	7	5	5	3	75
	火曜日	7	6	2	5	1	2	1	4	3	2	33
	金曜日	12	12	11	18	2	1	4	5	0	1	66
神　田	水曜日	3	3	2	4	1	0	0	1	0	3	17
合　計		32	35	25	43	5	7	12	15	8	9	191

※メールやオンラインでの対応を含む

②学部学科別相談者数

学部	経済				法		経営	商		文						ﾈｯﾄﾜｰｸ(編)	人間科		国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	科目等履修生	合 計
学科	経済	現代経済	生活環境経済	国際経済	法律	政治	経営	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	会計	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲	歴史	環境地理	ﾈｯﾄﾜｰｸ(編)	心理	社会	日本語		
人数	0	2 (1)	19 (3)	31 (4)	16 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	0	0	24 (6)	19 (8)	2 (2)	24 (10)	8 (3)	22 (7)	0	20 (8)	0	0	191 (56)

※（　）内の人数は実数

③相談者学年

学　年	１　年	２　年	３　年	４　年	科目等履修生	合　計
人　数	6	4	52	129	0	191

④相談内容

内　容	一次試験対策	論作文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合　計
人　数	18	67	33	7	1	5	2	23	54	210

※１回で複数の相談内容があるため、相談者数と相談内容数は一致しない。

⑤その他の内容

・専門教科変更について（保健体育の教師になりたい）
・教育ボランティア活動への参加について
・採用試験二次試験辞退について
・進路選択「教職か企業（業種等）か」について
・ボランティア活動をするための方法について
・採用試験までのスケジュール管理・取り組み内容について
・大学３年選考の取り組み方、教採受験勉強と大学授業の両立、大学３年選考後のメンタルケア
・小学校免許取得について
・教育実習の評価と採用試験の関係
・学校宿泊ボランティアについて
・私立学校の採用について
・採用カードの記入について
・指導案作成と添削に関して

⑥相談日数

場　所	曜日＼月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	合 計
生　田	月曜日	3	4	4	3	―	2	4	3	4	2	29
	火曜日	3	4	4	3	―	1	4	4	3	3	29
	金曜日	3	4	3	4	―	1	4	4	3	3	29
神　田	水曜日	3	4	4	3	―	1	3	4	3	3	28
合　計		12	16	15	13	―	5	15	15	13	11	115

（2）嶺井　正也　専修大学名誉教授

①相談者数

４月～８月　相談者数（延べ）　約 680 名
　　在学生：４年生 13 名、３年生４名
　　卒業生：２名
９月～１月　相談者数（延べ）　約 420 名
　　在学生：３年生 18 名（前倒し選考合格者５名含む）
　　卒業生：１名

②内容

一次・二次試験対策（教育時事学習、面接練習、小論文対策、模擬授業練習などを基本）

③実施回数

４月～８月
・筆記試験対策　９回
・教育時事資料の送付　４回
・小論文添削　５回
・個人面接（場面指導含む）練習　12 回
・集団面接練習　１回
・模擬授業練習　５回

９月～１月
・Zoom 教育時事学習会　４回
・第一次試験対策（問題・解答の送付）　26 回
・小論文対策　１回

④その他

前期の面接・模擬授業練習には福山文子先生他、卒業生の真壁直人先生、宮坂恵美子先生、服部信雄先生、さらにバンビ OG/OB 会のメンバーに協力していただいた。
後期は、福山文子先生、真壁直人先生、宮坂恵美子先生、池田宏史先生等と協働して実施した。

令和６年度　教員採用試験対策特別講義実施結果

・出願書類作成指導および個人面接指導

種　別	出願書類作成		個人面接		
実施日	第１回 令和６年２月28日（水） 10：00～11：00	第２回 令和６年３月６日（水） 14：00～15：00	第１回 令和６年３月11日（月） 14：00～17：00	第２回 令和６年３月14日（木） ９：00～12：00	第３回 令和６年３月18日（月） ９：00～11：30
実施場所	専修大学生田校舎 ４号館２階　420教室	専修大学生田校舎 ４号館２階　426教室	専修大学生田校舎　４号館２階　423教室・424教室		専修大学生田校舎 ４号館２階　423教室
対象者	令和６（2024）年度実施　教員採用試験受験予定者				
担当講師	肝付　俊朗　文学部特任教授		肝付　俊朗　文学部特任教授 齋藤　博志　商学部客員教授		肝付　俊朗　文学部特任教授
内　容	（１）出願書類の作成について （２）教員採用試験に臨む心構え		30分程度の個人面接指導		
持ち物	教育委員会（私学の場合は出願時に学校に提出する願書等）に提出する願書、面接票等				
参加者	45名（第１回または第２回のいずれか）		24名（全３回のうちいずれか）		
主　催	エクステンションセンター・教職課程協議会				

・教員採用試験二次試験対策特別講義

実施日	第１回 令和６年８月１日（木） 10：00～15：30	第２回 令和６年８月２日（金） 10：00～15：30	第３回 令和６年８月８日（木） 10：00～15：30	第４回 令和６年８月９日（金） 11：00～16：00
実施場所	専修大学生田校舎　４号館２階 420教室・422教室・423教室・424教室・426教室・427教室	専修大学生田校舎　４号館２階 420教室・423教室・424教室・426教室・427教室	専修大学生田校舎　４号館２階 420教室・423教室・424教室・426教室・428教室	専修大学神田校舎　１号館２階 205教室・206教室・207教室・208教室・209教室
対象者	今年度（令和６（2024）年度）教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和６（2024）年度）教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）	今年度（令和６（2024）年度）教員採用試験受験者 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）	今年度（令和６（2024）年度）教員採用試験受験者 （私学受験者、卒業生も受講可）
担当講師	①肝付　俊朗　文学部特任教授 ②齋藤　博志　商学部客員教授 ③佐藤　由美　商学部教授 ④砂原　由和　ネットワーク情報学部教授 ⑤角田真紀子　経済学部准教授	①肝付　俊朗　文学部特任教授 ②齋藤　博志　商学部客員教授 ③森田　司郎　法学部教授 ④池田　宏史　商学部講師	①長船　孝明　経済学部兼任講師 （昭和５３年 商学部会計学科卒） （元東京都立荒川商業高等学校長） ②矢吹　芳洋　経済学部教授 ③福山　文子　経営学部准教授 ④池田　宏史　商学部講師	①肝付　俊朗　文学部特任教授 ②齋藤　博志　商学部客員教授 ③森田　司郎　法学部教授 ④池田　宏史　商学部講師
内　容	（１）面接票、指導案等の作成指導 （２）個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	（１）面接票、指導案等の作成指導 （２）個人面接、集団面接、集団討論、集団協議、場面指導、模擬授業	（１）主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義（東京、千葉、神奈川、埼玉の二次試験のポイント、評価方法等） （２）個別指導（主に個人面談）	（１）個人面接 （２）集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
提出物	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等	特になし	各自該当するものを当日持参 二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
参加者	13名（内卒業生０名）	15名（内卒業生０名）	15名（内卒業生０名）	13名（内卒業生０名）
主　催	教職課程協議会・ エクステンションセンター	教職課程協議会・ エクステンションセンター	エクステンションセンター・ 教職課程協議会	教職課程協議会・ エクステンションセンター

・教員採用試験対策特別講義

実施日	第１回 令和６年６月２２日（土） 10：00～12：30	第２回 令和６年１１月２３日（土） 13：30～16：00
実施場所	専修大学生田校舎　１号館２階　122教室	専修大学生田校舎　１号館２階　122教室
対象者	教員採用試験受験予定者 １年次～３年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）	教員採用試験受験予定者 １年次～３年次 （教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
担当講師	伊藤　雅夫　先生（昭和54年 経済学部経済学科卒） 江東区教育委員会教育支援センター主任相談員 （元江東区立第二砂町中学校長）	TAC講師 樋口　良太　氏（TAC教員採用試験対策講座　講師） 令和６（2024）年度教員採用試験最終試験合格者 ①加藤いぶき　（相模原市教育委員会　中学校英語 文学部英語英米文学科４年） ②高瀬　翔平　（東京都教育委員会　中学・高等学校社会 文学部歴史学科４年） ③炭谷　明依　（千葉県・千葉市教育委員会　中学・高等学校国語 国際コミュニケーション学部日本語学科４年）
内　容	（１）自己紹介および現在の学校現場について （２）求められる教師像（役職の立場から思うこと） （３）人物試験（二次試験）の学習の仕方とその実際	（１）ＴＡＣ講師から各教育委員会の教員採用試験の概要説明 （２）令和６（2024）年度教員採用試験最終試験合格者の体験談および質疑応答 （司会：角田真紀子 経済学部准教授）
参加者	18名（内卒業生０名）	19名（内卒業生０名）
主　催	エクステンションセンター・教職課程協議会	エクステンションセンター・教職課程協議会

令和６年度　教員採用候補者選考試験（教員採用試験）説明会開催結果

実　施　日	事　項	開催形態	参加者数
令和６年 ４ 月 26 日（金）12：20～13：00	埼玉県公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	２名
令和６年 11 月 29 日（金）12：20～13：00		オンライン	３名
令和６年 ４ 月 18 日（木）12：20～13：00	千葉県公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	３名
令和６年 11 月 18 日（月）12：20～13：00		オンライン	５名
令和６年 11 月 25 日（月）12：20～13：00	東京都公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	16 名
令和６年 ４ 月 17 日（水）12：20～13：00	神奈川県公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	12 名
令和６年 11 月 20 日（水）12：20～13：00		オンライン	12 名
令和６年 ４ 月 19 日（金）12：20～13：00	横浜市公立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	３名
令和６年 11 月 27 日（水）12：20～13：00		オンライン	３名
令和６年 ４ 月 24 日（水）12：20～13：00	川崎市立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	２名
令和６年 11 月 15 日（金）12：20～13：00		オンライン	１名
令和６年 ５ 月 ８ 日（水）12：20～13：00	相模原市立学校　教員採用候補者選考試験説明会	オンライン	３名
令和６年 11 月 21 日（木）12：20～13：00		オンライン	１名
令和６年 ５ 月 ９ 日（木）12：20～13：00	私立学校の教員採用試験説明会	オンライン	３名
令和６年 12 月 ４ 日（水）12：20～13：00		オンライン	10 名

令和６年度　教職公開講座開催結果

１．開 催 日　　令和６年 10 月５日（土）
２．時　　間　　14 時 00 分 ～ 17 時 10 分
３．開催形態　　Google Classroom「 2024 教職公開講座」および Google Meet によるオンライン開催
４．参加人数　　第１部：273 名　　第２部：269 名
５．内　　容

（１）今の教育現場について、現職教員とのディスカッション（専修大学ＯＢ・ＯＧ）

講　師（卒業年･学部･学科）	勤　務　先	科　目
高　田　夏　美　先生 （令和４年３月　文学部　日本語学科　卒業）	神奈川県立鶴見高等学校	国　語
小　林　大　介　先生 （平成 23 年３月　文学研究科　英語英米文学専攻　修了）	静岡市立高等学校	英　語
佐々木　太　耀　先生 （令和３年３月　文学部　歴史学科　卒業）	新潟県柏崎市立鏡が沖中学校	社　会
櫻　井　ちひろ　先生 （令和５年３月　文学部　歴史学科　卒業）	埼玉県立川越西高等学校	地歴・公民
野　本　真　穂　先生 （令和５年３月　商学部　マーケティング学科　卒業）	山形県立米沢商業高等学校	商　業
土　田　裕　也　先生 （平成 26 年３月　ネットワーク情報学部　ネットワーク情報学科　卒業）	島田市立六合中学校	数学・情報
彼　末　凜　人　先生 （令和６年３月　経済学部　現代経済学科　卒業）	横浜市立緑小学校	小学校

（２）求められる教師像

講　師	文京区立音羽中学校長　齊　藤　正　富　先生（昭和 63 年３月　法学部法律学科　卒業）

（３）タイムテーブル

	時　間	内　容	形　態
第１部 14：00 〜 16：00	14：00〜14：05	全体のスケジュール確認および講師紹介	Google Meet
	14：05〜14：50 （45分）	ー今の教育現場についてー	
		国　語　高　田　夏　美　先生	Google Meet
		英　語　小　林　大　介　先生	Google Meet
		社　会　佐々木　太　耀　先生 地歴･公民　櫻　井　ちひろ　先生	Google Meet
		商　業　野　本　真　穂　先生	Google Meet
		数学･情報　土　田　裕　也　先生	Google Meet
		小 学 校　彼　末　凜　人　先生	Google Meet
	14：50〜15：15	休憩	
	15：15〜16：00 （45分）	ー現職教員とのディスカッションー	
		国　語　高　田　夏　美　先生	Google Meet
		英　語　小　林　大　介　先生	Google Meet
		社　会　佐々木　太　耀　先生 地歴･公民　櫻　井　ちひろ　先生	Google Meet
		商　業　野　本　真　穂　先生	Google Meet
		数学･情報　土　田　裕　也　先生	Google Meet
		小 学 校　彼　末　凜　人　先生	Google Meet
第２部 16：00 〜 17：10	16：00〜16：10	休憩	
	16：10〜17：10 （60分）	ー求められる教師像ー 文京区立音羽中学校 校　長　齊　藤　正　富　先生	Google Meet

令和 6 年度　司書課程図書館実習報告会開催結果

開 催 日　令和 7 年 1 月 24 日（金）
時　　間　15：00 ～ 16：15
開催形態　Google Meet によるオンライン開催
参加人数　18 名
内　　容：今年度、図書館実習を行った 4 名の学生が、実習館の概要や特徴、実習期間中に経験した業務（選書業務、レファレンスサービス、児童サービス、展示など）、印象的な出来事、職員の方から伺った図書館の課題、全体を通しての感想などを報告し、参加者とやり取りをした。

令和 6 年度　司書課程就職（進路）懇談会開催結果

開 催 日　令和 7 年 1 月 24 日（金）
時　　間　16：20 ～ 17：20
開催形態　Google Meet によるオンライン開催
参加人数　18 名
内　　容：（株）ブレインテックに勤務されている森本未祐氏より、会社の概要、これまでの業務の経験、在学中の就職活動などについて話していただいた。同社は図書館業務システムの開発・販売・サポートを主力事業とするとともに、図書館に関連した定期的なイベントの開催や、図書館向け情報サイト（Jcross）の運営などを非営利で行っていることなどが紹介された。また就職活動については、様々な業界の企業や団体等の説明会に参加して情報を得たことが、有意義であったとのことである。参加者からの質問に対しても、丁寧に回答していただいた。

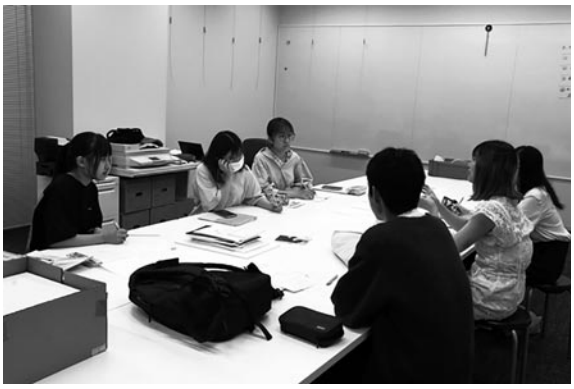
令和 6 年度　学校司書課程講演会・受講説明会開催結果

開 催 日　令和 7 年 1 月 25 日（土）
時　　間　18：00 ～ 20：00
開催形態　Zoom によるオンライン開催
参加人数　68 名（一般・本学学生含む）
内　　容：梅澤貴典氏による講演「ネットと生成 AI の時代に求められる図書館司書とは？～探究学習を支援する「情報の専門職」へ～」では、児童・生徒が探究学習の楽しさを実感できるようにすることが司書の役割であること、そのためには司書自身が学び続ける（「学習者」の立場にある）必要があることなどを、ご自身の経験や具体的な事例等を交えながら、丁寧にわかりやすく解説していただいた。野口武悟教授による情報提供「学校図書館をめぐる最新動向」では、子どもの読書や学校図書館に関わる文部科学省等による 2024 年度の取組みが紹介された。参加者との質疑応答の後に、荻原幸子教授が専修大学の科目等履修生制度を紹介した。本学の学生、現職の学校司書や公共図書館の職員など、幅広い立場の参加者を得て滞り無く終了した。

令和６年度　学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告

生田校舎２号館の博物館実習室・展示実習室を活用し、学内実習の一環として、実習生による展示実習および展示の一般公開を行なっている。令和６年度は下記のとおり、授業の復習も含めた実践的展示実習を行ない、一般公開した。また第３回学芸員課程セミナーの時間にも、公開の時間を設けた。

前期公開日　令和６年７月 22 ～ 25 日　11：30 ～ 13：30
・テーマ：「それぞれの博物館実習に向けて」
後期公開日　令和６年 12 月 21 日学芸員課程セミナー時、および令和７年１月６～９日
11：30～13：30
・テーマ：「博物館実習の様々なカタチ」


＜前期＞展示の話し合い（博物館実習室）

＜後期＞ガラスケースでの展示（展示実習室）

令和６年度　第３回学芸員課程セミナー「博物館、学芸員の様々なカタチ」

開　催　日　令和６年 12 月 21 日(土)
時　　間　13:30～16:00
場　　所　生田校舎２号館シアター 201 教室・展示実習室
講　　師　中根　聖可氏（杉並区立郷土博物館・昭和大学上條記念ミュージアム）
（平成 25 年度文学部哲学科卒業）
山田　兼一郎氏（（公財）たましん地域文化財団歴史資料室）
（令和元年度文学研究科歴史学専攻博士後期課程単位取得退学）
参　加　者　130 名

講演会場の様子

展示実習室の公開

令和６年度　資格課程活動報告

日　付	事　項	開催形態･場所	参加者
令和６年 ５月11日	令和６年度 全国大学博物館学講座協議会全国委員会	対面・明治大学	職員１名
５月12日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2024 年度定期総会、東京地区教職課程研究連絡協議会との合同研究大会及び 2024 年度研究部会総会、第１回研究部会	オンライン	教員２名 職員２名
５月18日	一般社団法人全国私立大学教職課程協会　第 43 回研究大会・令和６年度定時社員総会	オンライン	教員１名 職員１名
５月27日	令和６年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会議（神奈川県教育委員会）	対面・神奈川県立総合教育センター	教員１名 職員１名
６月　１　日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	対面・国士舘大学	職員２名
６月21日	令和６年度 第１回横浜市 大学連携・協働協議会（横浜市教育委員会）	オンライン	教員１名
６月24日	令和６年度 全国大学博物館学講座協議会全国大会	対面・ホテルニューオータニ博多	教員１名 職員１名
６月29日	令和６年度 都内私立大学教職課程事務担当者懇談会研究会	オンライン	職員１名
６月29日	2024 年度 第１回京私教協教員免許事務勉強会	オンライン	職員１名
７月　６　日	令和６年度 資格課程懇談会	対面・専修大学	教員 19 名 (内兼任８名) 職員４名
７月28日	関私教協 2024 年度臨時総会・研究部総会・第１回研究部会	オンライン	教員１名 職員１名
９月14日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	対面・名古屋大学	職員２名
10月　９　日	令和６年度 教職課程認定基準等に関する事務担当者説明会（文部科学省）	オンライン	職員４名
11月　８　日	令和７年度「ちば！教職たまごプロジェクト」大学担当者説明会	対面・千葉県総合教育センター	教員１名 職員１名
11月　９　日	第 60 回（令和６年度）　都内私立大学教職課程事務担当者懇談会総会	対面・拓殖大学	職員５名
11月　９　日	東京地区教職課程研究連絡協議会情報交換会	対面・二松学舎大学	教員２名
11月16日	全国私立大学教職課程協会　2024 年度研究交流集会	対面・九州共立大学	職員１名
12月14日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2024 年度 研究懇話会	オンライン	教員１名
12月21日	令和６年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会総会	対面・帝京科学大学	職員１名
12月25日	令和６年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会（文部科学省）	オンライン	職員４名
令和７年 ２月　８　日	教員免許事務担当者講習会（大学教務実践研究会）	オンライン	職員１名
２月22日	令和６年度 神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会	対面・鶴見大学	教員１名 職員３名

令和６年度　資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経済学部	教授	矢吹　芳洋	社会科・公民科教育法１・２
経済学部	准教授	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法 学 部	教授	森田　司郎	教育課程論
法 学 部	准教授	小場瀬琢磨	法律学ａ・ｂ
法 学 部	准教授	加藤　雄三	法律学ａ・ｂ
経営学部	准教授	福山　文子	公教育制度論
商 学 部	教授	佐藤　由美	社会科・地歴科教育法１・２
商 学 部	講師	池田　宏史	商業科教育法１・２
文 学 部	教授	赤坂　郁美	自然地理学概論ｂ
文 学 部	教授	伊藤　博明	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	教授	今井　　上	日本文学通史ａ
文 学 部	教授	江崎　雄治	人文地理学概論ｂ
文 学 部	教授	片桐　一彦	英語科教育法１・２
文 学 部	教授	苅谷　愛彦	自然地理学概論ａ
文 学 部	教授	鬼嶋　　淳	日本史ａ・ｂ
文 学 部	教授	佐藤　岳詩	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	教授	田邉　祐司	英語科教育法３・４
文 学 部	教授	蔦尾　和宏	国語科教育法２
文 学 部	教授	貫　　成人	哲学ａ・ｂ
文 学 部	教授	廣瀬　玲子	中国文学講義ａ・ｂ
文 学 部	教授	松尾　容孝	人文地理学概論ａ
文 学 部	教授	山口　政幸	日本文学通史ｂ
文 学 部	教授	米村みゆき	日本文学概論ｂ
文 学 部	准教授	鈴木　愛理	国語科教育法１
文 学 部	准教授	松尾　　治	書道科教育法１・２
文 学 部	助教	鈴木比奈子	地理学ａ・ｂ
文 学 部	特任教授	肝付　俊朗	教職入門
ネットワーク情報学部	教授	砂原　由和	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）
人間科学部	教授	大矢根　淳	社会学原論ｂ
人間科学部	教授	小峰　直史	生徒・進路指導論
人間科学部	教授	樋口　博美	社会学原論ａ
国際コミュニケーション学部	教授	斎藤　達哉	日本語学入門ａ・ｂ
国際コミュニケーション学部	教授	山下　　直	国語科教育法１・２
経済学部	兼任講師	長船　孝明	商業科教育法１・２
経済学部	兼任講師	小島　道生	特別支援教育論
経済学部	兼任講師	崔　　玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科・地歴科教育法１・２
経済学部	兼任講師	宮崎三喜男	社会科・公民科教育法１・２
法 学 部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	松村　芳明	法律学ａ・ｂ
法 学 部	兼任講師	山口　晶子	教育原論
経営学部	兼任講師	青柳　翔也	教育原論
経営学部	兼任講師	黒木　弘司	情報と職業
商 学 部	客員教授	齋藤　博志	教職実践演習（中・高）
商 学 部	兼任講師	五十嵐卓司	社会科・公民科教育法１・２
商 学 部	兼任講師	生田　清人	地理学ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	泉　　貴久	地理学ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	加瀬きよ子	商業科教育法１・２
商 学 部	兼任講師	進士　勇介	職業指導ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	前川　明彦	人文地理学概論ａ・ｂ
商 学 部	兼任講師	松岡　路秀	教職入門
商 学 部	兼任講師	皆川　雅樹	日本史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	新井　智一	地誌学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	内門　亮子	書道ａ
文 学 部	兼任講師	太田　　弘	自然地理学概論ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	小笠原　強	外国史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	後藤　康行	日本史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	寺戸　淳子	宗教学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	富永　裕子	英語科教育法１・２
文 学 部	兼任講師	根本　欣哉	国語科教育法３・４
文 学 部	兼任講師	長谷川　徹	倫理学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	福島　大我	外国史ａ
文 学 部	兼任講師	三橋　浩志	地誌学ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	山田　朋子	外国史ａ・ｂ
文 学 部	兼任講師	山本　幸博	書道ａ・ｂ
ネットワーク情報学部	兼任講師	大石　智広	情報科教育法２
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育法１・２
ネットワーク情報学部	兼任講師	中尾　教子	教育実習１・３
ネットワーク情報学部	兼任講師	村上　唯斗	情報科教育法１
ネットワーク情報学部	兼任講師	望月　俊男	教育実習２・３
人間科学部	兼任講師	渡辺　彰規	社会学原論ａ・ｂ
国際コミュニケーション学部	兼任講師	初谷　和行	国語科教育法３・４

《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	教授	大曽根　匡	図書館情報技術論
経営学部	教授	荻原　幸子	図書館概論
文 学 部	教授	野口　武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生　純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	蟹瀬　智弘	情報サービス演習２
経営学部	兼任講師	青山比呂乃	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	斎藤　　純	学校図書館メディアの構成
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習２
経営学部	兼任講師	鴇田　拓哉	情報資源組織論
経営学部	兼任講師	八木　晃二	図書館情報技術論
経営学部	兼任講師	萬谷ひとみ	児童サービス論
経営学部	兼任講師	渡辺　暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	勝亦あき子	読書と豊かな人間性
文 学 部	兼任講師	畔田　暁子	読書と豊かな人間性
文 学 部	兼任講師	中川　恭一	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中島　玲子	情報サービス演習２
文 学 部	兼任講師	中和　正彦	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	成松　一郎	図書館基礎特論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習１・２
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村　和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向　良和	情報サービス演習１

《学芸員》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	教授	内田　欽三	博物館概論
文 学 部	教授	高島　裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本　和美	博物館資料保存論

アトリウム（生田キャンパス９号館）

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

今回も大学教員、卒業生、在校生の皆さまから多くの玉稿を賜ったこと御礼申し上げたい。

『パッソアパッソ』27 号はそれぞれの現場での実践報告と調査・記録である。私は毎年、『パッソアパッソ』の一稿一稿を人間性の新しいめざめとして、こころひそかによろこんでいる。今号でも、皆さんがこの喜びを与えてくださったと感じている。2 月上旬にそのほぼ全ての原稿を預かったが、興味の赴くまま一気に読了した。私をとらえたのは何か。それは一言にして尽くせば、教員・司書・学芸員に対する熱烈な愛情に他ならないといえよう。しかも、その愛情は、執筆者のすなおな性格ととけあい、客観的で丹念な研究と、その研究を裏付けるための行動力にささえられている。また本質論に及んでいるとも感じる。これもまたテーマに注いだ執筆者の熱情がさせた微笑ましい筆の運びであると考える。ともあれ、これからも一人でも多くの人が、この『パッソアパッソ』を通じて、資格課程の今を知っていただくことを願ってやまない。

編集委員長
松尾　治
編集委員
佐藤　由美
野口　武悟
高島　裕之

令和 6 年度　専修大学
資格課程年報『パッソ　ア　パッソ』

発行日　令和 7 年 3 月31日
編　集　**専修大学**
生田校舎　教務課　資格課程係
〒214-8580　神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
TEL　044-911-1259　FAX　044-911-7163
神田校舎　教務課
〒101-8425　東京都千代田区神田神保町3-8
TEL　03-3265-5843　FAX　03-3265-7084
ＵＲＬ　https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/
印　刷　**有限会社米田印刷**
〒140-0002　東京都品川区東品川1-21-4
TEL　03-3474-9791

専修大学